都道府県・指定都市番号	２４	都道府県・指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	１　高等学校
				教科名	福祉

研究課題	**学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究**
学校名（生徒数）	三重県立伊賀白鳳高等学校　（８３３人）
所在地（電話番号）	三重県伊賀市緑ヶ丘西町２２７０－１　（０５９５－２１－２１１０）
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.igahakuho.ed.jp/

研究のキーワード

観点別評価表　ＩＣＴの活用　介護技術の評価

研究結果のポイント

○　ICTの活用

ICTを活用した授業を展開してきた。簡単に利用でき効果がある物、効果があるが利用のための準備の手間がかかるもの、維持費や更新、接続の安定性といった課題などが見えてきた。その中で無理なく授業で利用できることは何かが、見えてきた。

○　こころとからだの理解

こころとからだのしくみについての評価基準の作成や、ICTを活用した授業展開を行った。ICTの活用は、授業の展開をスムーズにできるものとなった。また単なる知識のみに偏らない授業展開とは何かも見えてきた。

○　生活支援技術

ICTを活用した授業実践例ではウェアラブルカメラやiPadなどを活用した。応用的な考える介護の展開方法は、介護コンテストなどの結果に結びついていった。しかし、基礎的な介護技術の定着については、試行錯誤をし、新たに「基礎的な介護技術」を別に設けることにより、その後の授業展開をスムーズにしようと試みた。この「基礎的な介護技術」の指導については、映像・プリント教材を作成し展開を行った。

１　研究主題等

（１）研究主題

地域の福祉を担う人材として必要な知識と技術の向上を図るための教育内容及び教育方法の工夫改善

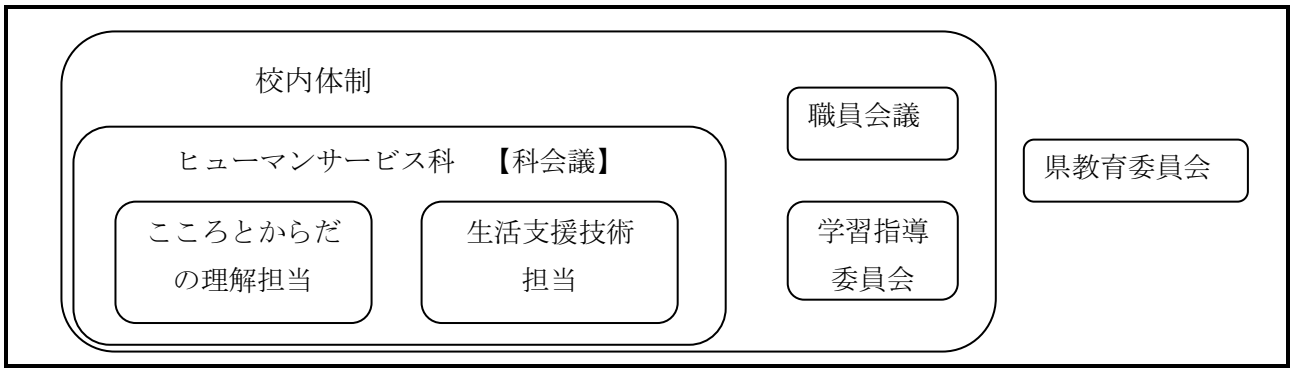
（２）研究主題設定の理由

本校が立地する伊賀市は，特別養護老人ホームが１１カ所，介護老人保健施設が４カ所，保育園が３６カ所あり，福祉人材育成の必要性が高い地域である。本校ヒューマンサービス科は，このような状況を鑑み，介護を深く学ぶ介護福祉コースと保育を含めた幅広い福祉を学ぶ生活福祉コースの２つのコースを設置している。介護福祉コースの生徒は，介護福祉士の資格取得を目指し，卒業後は介護福祉士として就職する生徒が大半である。

近年，介護福祉士養成課程では，領域「医療的ケア」が追加され，高度な知識と技能が求められている。そこで，「こころとからだの理解」の指導方法・指導内容を検討し，「生活支援技術」や「介

護実習」,「介護総合演習」との連携を含め，介護福祉士養成課程の教育内容及び教育方法の工夫改善を研究目的とする。

（3）研究体制



（4）２年間の主な取組

平成28年度	８月　全国福祉高等学校長会にて　資料交換 ９月　公開授業　「ＩＣＴを活用した生活支援技術」 １０月　和歌山県立有田中央高校との意見交換 １１月　大阪市立淀商業高校ＳＰＨ事業　見学 １２月　函館大妻高等学校　授業見学 １月　和歌山県立有田中央高校にて本年度の総括 県内教員授業研究「こころとからだのしくみ」 ３月　県内教員研修会
平成29年度	６月　介護技術の評価の検討会（介護技術コンテスト） ８月　校内研修会（矢幅視学官） １０月　和歌山県立有田中央高校との意見交換 １１月　和歌山県立有田中央高校との意見交換 １１月　教育 IT ソリューション EXPO １１月　大阪市立淀商業高校ＳＰＨ事業　見学 １２月　授業研究公開授業「こころとからだのしくみ」

２　研究内容及び具体的な研究活動

（1）研究内容

○ ICT の活用

・ICT を活用した授業を展開。

○　こころとからだの理解

・評価基準の作成と授業実践例の作成。

○　生活支援技術

・授業実践例の作成と基礎的な介護技術の定着、医療的ケアの評価。

○　介護技術コンテストにおける評価

（２）具体的な研究活動

ICT の活用では、超短焦点プロジェクター（電子黒板機能付き）・書画カメラ・ウェアラブルカメラ・iPad の活用方法を検討した。超短焦点プロジェクターは、天井から吊下げることにより、毎回の授業前の準備が不要となるとともに、光源で目を痛めることや、教員の動作で映像を遮ることがなくなり、活用が進んだ。特に、書画カメラを設置することで、気軽にプリントや教科書などの教材を映すことができ、生徒の理解度も向上した。また、アクティブラーニング推進の一環として、iPad のソフト「Metamoji」を試験的に導入した。「Metamoji」は、教員が生徒用 iPad 画面を管理できるソフトである。課題を各 iPad に配信し、各 iPad で生徒が記入した答えを受け取ることができる。また、グループワークの際に、グループのメンバー間のみで書き込んだ情報を共有し、それをクラス全体で共有できるシステムもある。さらには、教員用 iPad で入力内容や議論内容を把握することもできるため、評価などに活用しやすい。使用方法も簡単で、ネットワーク動作も安定していたため、今後のさらなる活用も検討している。

こころとからだの理解では、平成 28 年度に、こころとからだのしくみについての評価基準を作成した。シラバスのみではなく、評価基準も作成することで、より詳しい授業の展開やポイントを教員間で共有することができた。また、29 年度は、２つの授業実践例を作成した。ICT を活用すること、アクティブラーニングを取り入れることの 2 つのポイントを取り入れ、知識を詰め込む講義形式の授業の脱却を図った。しかし、プロジェクターの視覚教材は平面的であり、模型や実物などのリアルさ（重さ、質感等）には、かなわないこともあると実感した。また、PC を操作する必要性がある場合は、普段より机間巡視ができない傾向も見られた。

生活支援技術では、平成 28 年度に実践的な介護技術を身につけるための授業実践例として、ウェアラブルカメラを活用し、振り返りに介護者目線を取り入れた。これまでも iPad のカメラ機能を用いて撮影した動画による振り返りをしていたが、複数の視点からの映像を振り返ることにより、生徒自身が介護技術の課題に気づくことができた。しかしながら、教科書を進めていくだけでは、基礎的介護技術が身についておらず、応用的な介護技術に発展しにくいことに気が付いた。そこで、基礎的介護技術動画とプリント教材を作成し、基礎的な介護技術を身につける取り組みを行った。それらを活用することで、教員間にあった介護技術の差も埋めることができ、映像、デモンストレーション、プリントの３つを組み合わせることにより、生徒が確実に介護技術を身につけられる授業を目指した。また、医療的ケアの演習の評価についても「基礎的な手順をしっかり身につける」事を目標に、評価項目及び評価の視点の再検討を行った。

生活支援技術やこころとからだの理解などをはじめとした福祉科目の学びを活かし、より実践的な介護力の向上を図るための介護技術コンテストを、校内で実施した。また、県や東海地区の高校生介護技術コンテストの評価に、観点別評価を取り入れた。次期学習指導要領の３観点である「主体的に取り組む態度」「知識・技能」「思考・判断・表現」の視点から介護技術を評価することにより、単に「できた・できなかった」という評価ではなく、高校生ならではの介護を評価することができた。また、利用者役審査員の評価も入れる事で、安心感や心遣いなどを評価することができ、客観的な評価だけではなく主体的な利用者目線の評価も大切であるということが認識できた。この大切な観点を普段の生活支援技術の授業の評価の中にも取り入れていかなくれはならないと考え、実践した。

これらの取組みと同時に、介護職員からの講話はじめとし、地域との関わりを多く持つことにより、伊賀地域の福祉・医療人材としての意識づけを行った。

３　研究の成果と課題（○成果●課題）

ICT の活用

・超短焦点プロジェクター（電子黒板機能付き）

○簡単に、きれいに、PC や書画カメラなどで教材を映し、わかりやすい授業が展開できた。

●教員の立ち位置が課題となる。また重さ・質感などは模型が理解しやすい。

・ウェアラブルカメラの活用

○様々な視点から、介護技術の確認ができ、客観的に振り返ることができた。

●接続に不安定な部分が見られ、授業展開が止まることがある。

・「Metamoji」ソフト

○グループワークの授業展開がスムーズになった。

●教員、生徒ともタブレットに視線が集中してしまいがちになる。生徒同士や教員と生徒の視線が合わず、授業の進め方として（コミュニケーション）課題を感じる。

・ICT 全体

●機器の管理や更新作業など、維持に関する課題が多い。

こころとからだの理解

○評価基準の作成により、シラバスをより詳細にしたものができ、授業間連携の検討ができた。

○ICT 活用により、知識に偏らず、アクティブラーニングの要素を取り入れた授業展開が進んだ。

生活支援技術

○伊賀白鳳高校の基礎的介護技術指導を統一した。

○介護技術を映像で見ることで、授業展開や生徒の介護技術の振り返り等、効果的に活用できた。

○医療的ケアの基準を、必要最低限の項目にし、手順を確実に定着させることができた。

●基礎的な介護技術において、全介助・一部介助など介助方法の再度検討が必要である。

４　今後の取組

○　ICT の活用については、積極的に進める一方で、教員の負担が少ない活用方法を探っていきたい。また、活用できる資料は科内のサーバーに蓄積し、活用できるよう整備を行っていきたい。また、授業毎に何を活用するのが良いのか、活用しない選択を含めながら進めていきたい。

○　こころとからだの理解の評価基準を、全単位数分作成し、見直しを実施したい。公開授業を通し、わかりやすい授業展開を進めることができたので、継続していきたい。

○　生活支援技術では、ICT を上手く活用し基礎的な「介護技術」から、応用的な実践力を身につける授業展開を実践していきたい。生活支援技術の中で、シーツ交換など基礎的な介護技術は、どこまでをいつの時期に行うべきかなど、実習その他との状況とともに検討していきたい。

○　これらの事を通じ、他校・地域と福祉の連携・情報交換を図り、地域で活躍する介護職員や福祉・医療関係職員を育てる学校としての役割を担っていきたい。

平成２８・２９年度
教育課程研究指定校事業

報告書

三重県立伊賀白鳳高等学校

概要

1　ICT の活用

この数年、ICT を活用した授業を展開してきた。使える道具もあれば、ハードルが高いものや、準備に負担がかかるもの、また環境整備上の問題もあった。そこで、本校で活用している ICT の主な物を紹介する。本校の基本は、「授業において、一人で扱える」が、ベースにあり、その上で、システムトラブルがないことが重要である。そこで実感するのは、「有線の安心感」であった。

2　こころとからだの理解

昨年度　こころとからだのしくみについての評価基準の作成を行った。

今年度は、こころとからだのしくみと障害の理解についての授業研究を実施した。ICT を活用したわかりやすい授業の展開を実施した。

3　生活支援技術

昨年度、ICT を活用した授業実践例を公開授業で行った。今年度、改めて科目を見直したときに、「介護技術」をどう教えるのか、「こころとからだの理解」をどうするのか、評価をどうするのかが課題となった。生活支援技術のありかたを本年度あらためて検討してみた。

また、本校の医療的ケアの授業展開については、教員数と時間の関係など課題もあり、整理をした。必要最低限をどう効率よく行うかを検討した。

4　その他

① 地域と連携
② 介護技術コンテスト
③ DVD 教材紹介

ICTの導入

三重県立伊賀白鳳高等学校

介護福祉士国家試験合格率

	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度	合計
受験者数	16	20	20	21	16	15	108
合格者数	13	19	17	20	15	13	97
合格率	81.3%	95.0%	85.0%	95.2%	93.8%	86.7%	89.8%

生徒がわかる
授業を展開するため

導入に対するハードル

1．予算
2．利用スキル
3．余裕

導入して良かった物品

1．超単焦点吊下げインタラクティブプロジェクター
2．書画カメラ
3．iPad
4．WiFi
5．ウェアラブルカメラ

ポイント

・無理せず気軽に使える
・安心して使える
・機械に遊ばれない
・準備が楽

超単焦点インタラクティブプロジェクター

最大の課題は、予算。

科の予算を削減し、まわす。

妥協しないのが、正解！

ただし、電子黒板機能は
どちらでも良かったかも

超単焦点インタラクティブプロジェクター

従来のプロジェクター　　壁掛け対応プロジェクター

何にも
持ち込まない

準備は
電源スイッチ
のみ

まぶしくない。
陰にならない。

スクリーン
いらない

書ける

接続している物

書画カメラ

ちょっと教科書写したい
ちょっとプリント写したい

プリント持っている画像と
書画カメラでプリントを提示している画像

PC

自分のPCの方が、使いやすい。

HDMIの存在が大きい
- 動画が無理なく再生
- USBでは、カタカタ
  （電子黒板機能はUSB）

書画カメラ

教科書やプリントをそのまま写せる。

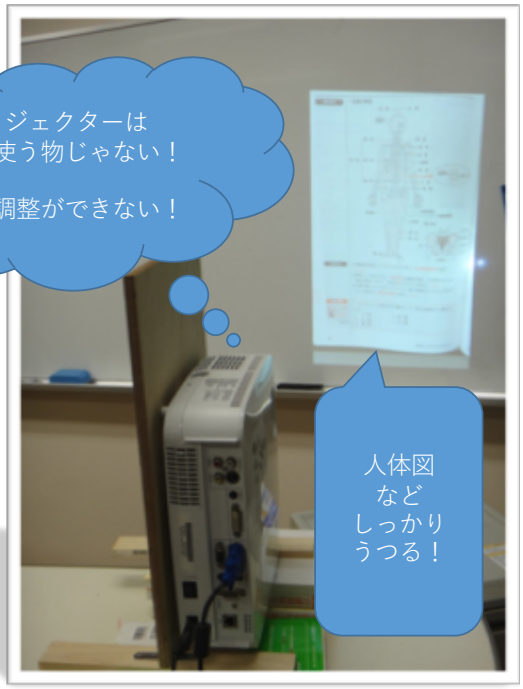
接続が、ケーブル１本のみ

スイッチもいらない。

課題

教科書も縦長
プリントも縦長
でも
プロジェクターは横長

いっそ
プロジェクターを
縦にしよう



iPad

- 調べ学習に
- グループワークに
- プリント作成に（生徒）
- プレゼンに

iPad

施設からの・・

iPadとPCの利用をしている施設さん

うちの卒業生は、利用者様周りで、iPadを利用した業務は、素早く的確だ！
でも、事務所のPCの仕事は、なんでこんなにできないんだろう・・・・。
（キーボードが打てない）

※施設職員は、PC操作はできるけど、新しく導入したiPadが使いこなせない。

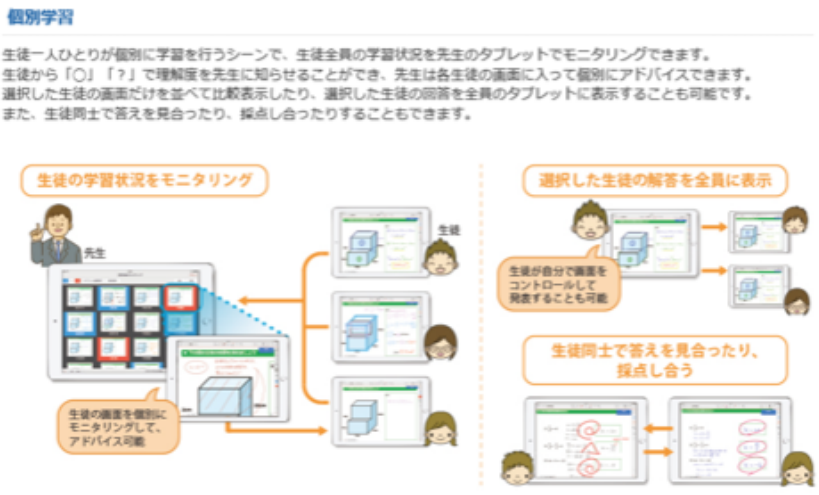
Wi-Fiの導入について

◯ルーターの選択が要
　複数のiPadを接続しても大丈夫か。
　どこの部屋で、どこの部屋まで使いたいか

・Wi-Fiは、基本設置してはいけないのが、三重県の状況。
・プロキシの問題で、iPadの本来の機能が潰れる。
・ソフト導入は、ラク！
・何年もつのか

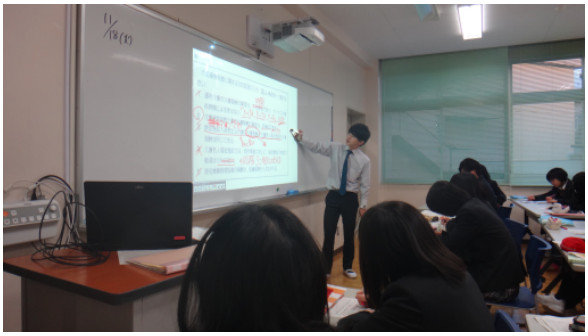
メタモジの導入

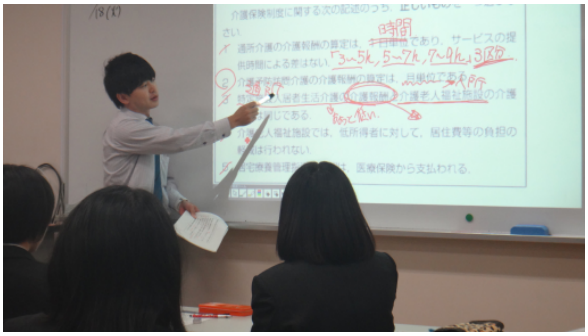
メタモジの導入



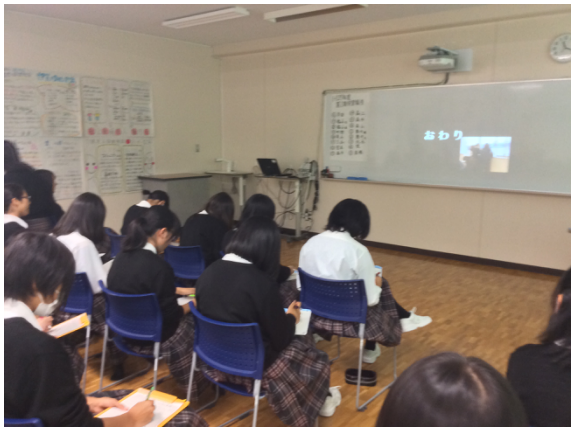
メタモジの導入

ICTを活用した授業

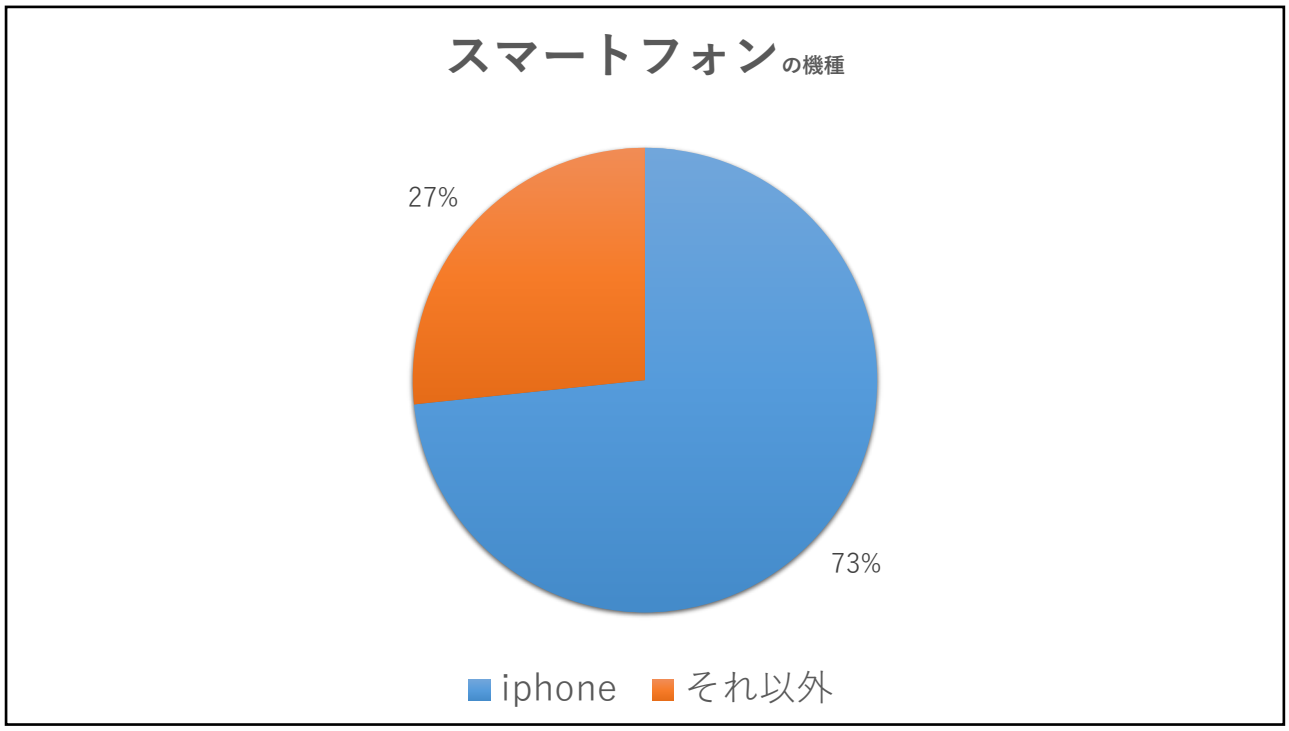


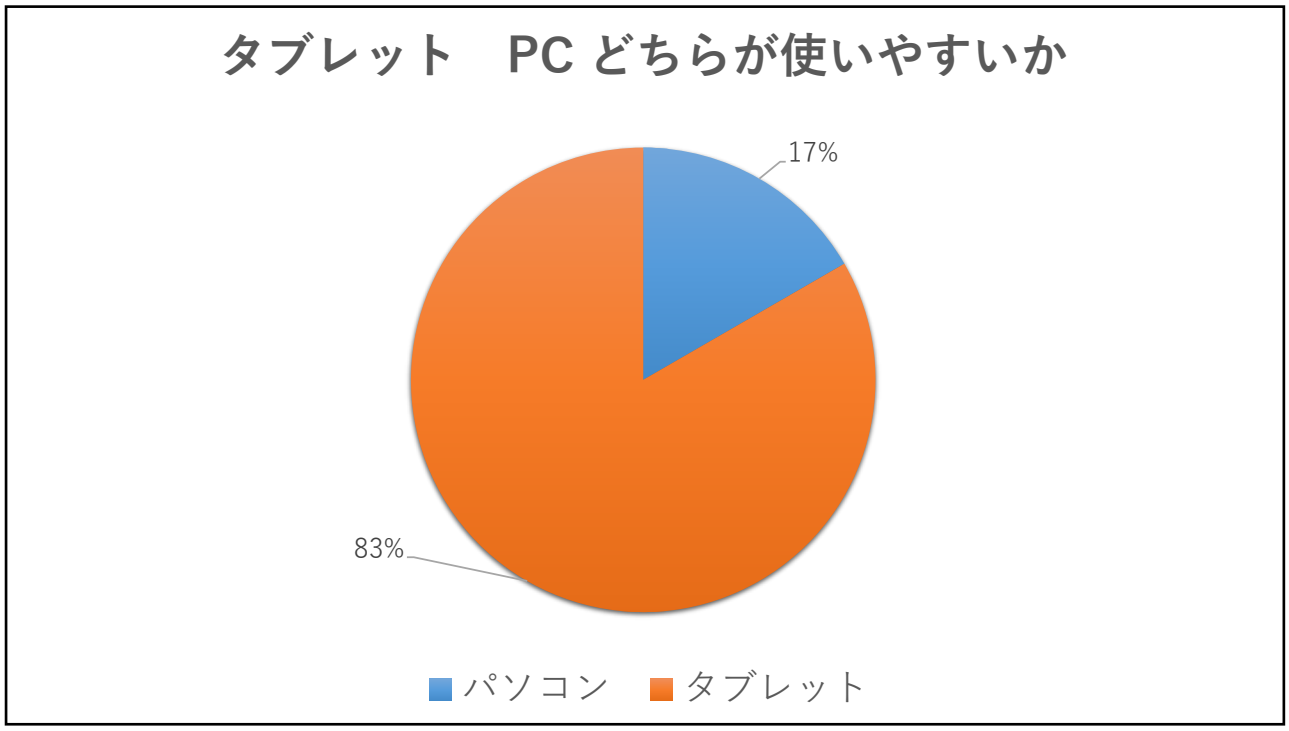


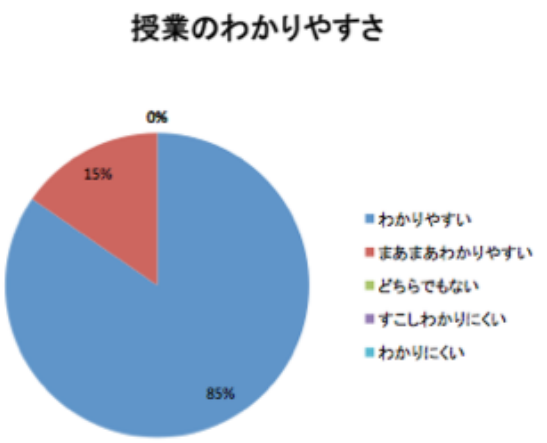
実習報告会

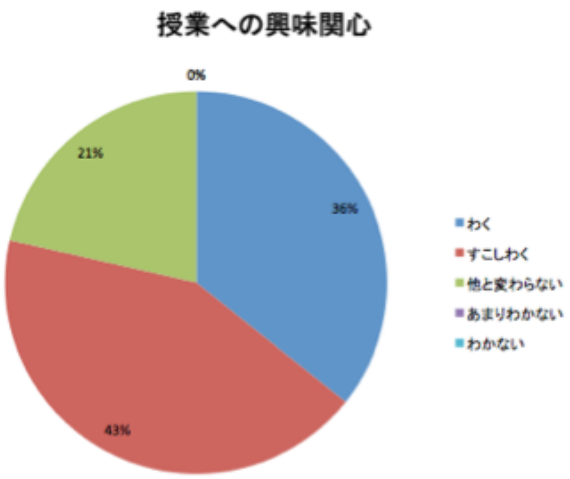


実習の見直し


スマートフォンの機種
27%
73%
iphone
それ以外


タブレット　PC どちらが使いやすいか
17%
83%
パソコン
タブレット





iPadからプロジェクターへ

生徒の声

・全ての授業を電子黒板にしてほしい。ノートがまとめやすい

・字や絵が見やすく覚えやすい

・わかりやすいので、楽しく思える

・わかりやすいが、トラブルも多々あるので少し困る

iPad　アプリケーション

その他

六訂　社会福祉用語辞典

2012年4月リリース

Google play

App Store

約2900の社会福祉に関する用語を解説。豊富な検索オプションに加え、履歴・しおり・マーカー・辞書間連携などアプリならではの機能を実装しています。

六訂　介護福祉用語辞典

2012年4月リリース

Google play

App Store

介護福祉をめぐる基本から最新の用語まで約3500語を収載。六訂版では、介護の基本技術のほか、コミュニケーションや介護過程などの専門用語、老化や障害、認知症、こころとからだのしくみに関する用語を収載。介護福祉士の新養成カリキュラムに対応した項目を追加。

iPad　アプリケーション

介護福祉士

介護福祉士合格アプリ2017
過去問題＋模擬問題＋一問一答

2016年7月リリース

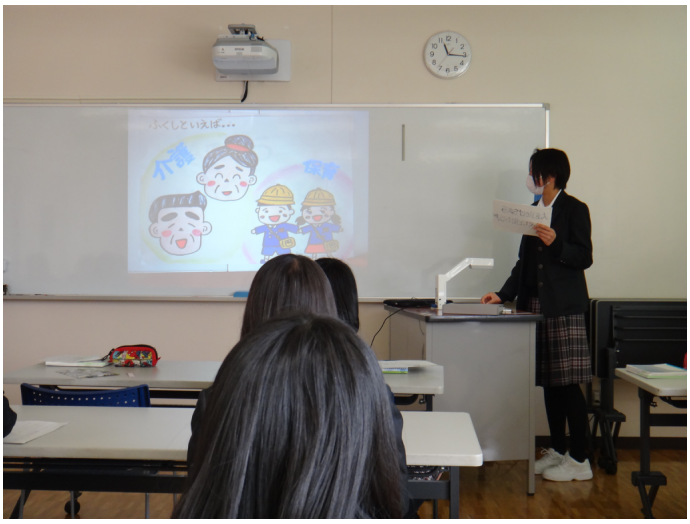
詳細を見る

Google play

App Store

毎年大好評の介護福祉士受験対策アプリの2017年1月国家試験対応版！ 3年分の国試を詳細に解説した「過去問題」、試験の傾向を徹底分析した「模擬問題」、国試過去問を含む「一問一答」で試験対策は万全！

アナログとの融合　紙プレゼン



アナログとの融合
県内の公開授業（他校にて）

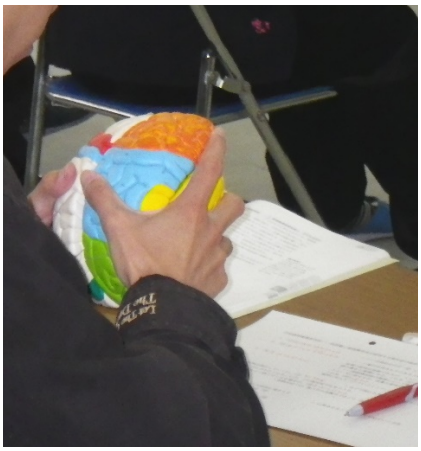
「認知症の理解」の授業にて

脳の模型で、確認をおこなった。

大きさ、重さ、形を、

目・手で理解する

ICTには、かなわない“何か”がある。



「こころとからだの理解」学習指導案

授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校　教諭　吉澤教子
指導年月日：平成29年　10月6日　金曜日２限（10：00～10：50）
対象学級：3年7組　ヒューマンサービス科　介護福祉コース12名（女子9名，男子3名）

授業研究のテーマ　：　主体性と自立をはぐくむ　～教科の魅力を伝える実践と工夫

Ⅰ．単元名
身体障害の理解③肢体不自由

Ⅱ．単元の目標
肢体不自由の原因疾患と肢体不自由者の生活上の困難について理解を深め、肢体不自由者が日常生活を自立的に送るために必要な生活支援の方法と福祉用具についての基礎的知識を習得させる。

Ⅲ．生徒の様子
介護福祉コースの12名は介護福祉士国家資格の取得を目指している。生徒人数が12名と少ないが、丁寧な説明や声かけが必要な生徒が多い。２年生から３年生の夏季休業までに約４０日間の介護実習を経験し、実際に施設利用者の生活に触れており、利用者が使用している福祉用具を目にする機会もある。一部の福祉用具については身近に感じている生徒もいる。

Ⅳ．単元の評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
肢体不自由者が日常生活を自立的に送るために必要な生活支援の方法について探求しようとしている。	肢体不自由者の生活上の困難について症状を理解した上で適切な生活支援を考え必要な福祉用具を選択することができる	肢体不自由者の生活上の困難について症状を理解した上で、生活支援の方法を具体的に話すことができる。	肢体不自由の疾患・症状・生活支援について基礎的な知識を身に付ける。

Ⅴ．指導計画
肢体不自由とは
肢体不自由者の生活上の困難
肢体不自由者の生活支援
福祉用具(補装具・日常生活用具)について・・・・・・本時

Ⅵ．本時の指導計画
１．主題名
肢体不自由者の生活支援に必要な補装具と日常生活用具について

２．目標
〔目標1〕補装具と日常生活用具の違いについて探求しようとしている。
〔目標2〕福祉用具を補装具と日常生活用具に分類できる。
〔目標3〕福祉用具を〔貸与〕･〔購入〕の違いを理解し分類できる。

３．評価の観点

A補装具と日常生活用具の違いについて探求しようとしている。〔目標1〕【関心・意欲・態度】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
補装具と日常生活福祉用具の定義をプリントに記入できたら「B」	プリントに記入できない。 [手立て]声をかけ記入を促す。
「B」に加え、関連した発言をすることができれば「A」	

B福祉用具の名称を理解できた【知識・理解】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
ペーパーテストで51～80％の正答率で「B」	ペーパーテストで50％以下の正答率で「Ｃ」 [手立て]ペーパーテストの再試験
ペーパーテストで81～100％の正答率で「A」	

C福祉用具を補装具と日常生活用具に分類する課題に取り組むことができた。〔目標2〕【思考・判断・表現】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
班員とともに課題の検討に取り組むことが出来たら「B」	課題検討への参加が消極的である。 [手立て]声をかけ参加を促す。
「B」に加え，班の意見をまとめ，リーダーシップをとることができれば「A」	

D福祉用具を補装具・日常生活用具に分類して理解できた。【知識・理解】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
ペーパーテストで51～80％の正答率で「B」	ペーパーテストで50％以下の正答率で「Ｃ」 [手立て]ペーパーテストの再試験
ペーパーテストで81～100％の正答率で「A」	

E福祉用具を〔貸与〕･〔購入〕の違いを理解し分類できた。〔目標3〕【知識・理解】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
ペーパーテストで51～80％の正答率で「B」	ペーパーテストで50％以下の正答率で「Ｃ」 [手立て]ペーパーテストの再試験
ペーパーテストで81～100％の正答率で「A」	

４．本時の展開計画

２時間目（10：00～10：50）

展開	時間	学習内容	評価の観点				指導上の留意点
			関	思	技	知	
導入	５分	持ち物、身だしなみの確認 ■本時の目標の確認 ■本時の流れの確認					●授業に必要なものが準備できているか、服装、身だしなみが整っているか確認する ●スライドで生徒が確認できるようにする 1 補装具と日常生活用具の定義を理解する。 2 福祉用具を補装具と日常生活用具に分類できる 3 福祉用具を【貸与】【購入】に分類できる。
展開	40分	■スライドを見て福祉用具の名称を確認する ■補装具･日常生活用具の定義を理解する				A B	○Ｐ.Ｐ.のスライドで福祉用具の名称を確認(１６枚) ○補装具・日常生活用具の違いを理解し、プリントに語句の意味を記入する。 補装具…身体の欠損または損なわれた身体機能を補完、代替するもの 日常生活用具…日常生活上の困難を改善し、自立を支援し社会参加を促進するもの
		■福祉用具を補装具と日常生活用具に分類する。(グループ学習) ■発表と答え合わせをする		C		D	●発表する福祉用具の担当を決める。(１人１、２枚) ●３グループ(４人ずつ)にグループ分けする。 ●福祉用具カードを渡し、補装具か日常生活用具か分類し、発表するように説明する。発表の際に理由も聞くので、分類する際に理由も考察するように説明する。 ●机間巡視を行い、考えが浮かびにくい場合などグループ内で相談するよう促す。発表内容を考え終わったら、他の福祉用具の答えを考えるように促す。 ○担当したカードを教卓前の用紙に貼り、全員貼り終わったら発表する。一枚ずつ分類とその理由を発表し、各自のプリントで解答した答えがあっているか記入する。
		■福祉用具の利用について【貸与】･【購入】の違いを理解し分類する。				E	●【貸与】･【購入】に分類する。貸与と購入はどこで線引きされるかを全体に対して発問し、【購入】する場合の二つの答えを導く。 ○貸与と購入の違いについてプリントに記入する。
まとめ	５分	■本時のふりかえりと福祉用具専門員について理解する					●授業を振り返り、「福祉用具専門相談員」という資格があることにもふれる。介護福祉士の資格取得とともに福祉用具専門相談員として業務をすることが可能であること、福祉用具の総合的なアドバイスができる人材が求められていることを説明する。 ○資格についてプリントに記入する。 ●プリントを回収する。

まとめ　福祉用具の購入サービスは、介護保険制度の居宅サービスの一つ。原則レンタル支給であるが、再利用に心理的抵抗感が伴うもの、使用により形態・品質が変化するものは「特定福祉用具」として購入対象になる。
「福祉用具専門相談員」という資格がある。業務内容は福祉用具の選定相談、計画などで介護福祉士の資格があればその業務をすることが可能である。介護の仕事に携わる上で、福祉用具の知識は欠かせない。また現状の介護現場では福祉用具に対する知識・情報不足から、用具をうまく使いこなせていないパターンも少なくない。(福祉用具を必要としている人に適切なアドバイスを行える福祉用具専門相談員はこれからますます必要とされる。)福祉用具を必要としている人に適切なアドバイスを行える福祉用具専門相談員としても、利用者・介護者双方の需要に沿った福祉用具の総合的なアドバイスを行えるようにすることが、介護のプロとして大切である。(介護職としての信頼度も高まる。)

発表用シート

(　　)席　なまえ

Q１　福祉用具を補装具　or　日常生活用具にわけよう

アルファベット	福祉用具名
どちらかに○	＜　補　or　日　＞
理由	

福祉用具とは

補装具　…（　身体の欠損または損なわれた身体機能を補完、代替するもの　）

日常生活用具　…（　日常生活上の困難を改善し、自立を支援し社会参加を促進するもの　）

Q１　福祉用具を補装具　or　日常生活用具にわけよう

～障害者総合支援法の場合～

A　義肢	B　装具	C　車いす	D　歩行器
＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞
＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞
E　特殊寝台	F　ポータブルトイレ	G　歩行補助杖	H　白杖
＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞
＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞
I　補聴器	J　義眼・眼鏡	K　ストーマ用装具	L　ネブライザー
＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞
＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞

～介護保険法の場合～

M　車いす	N　入浴補助用具	O　自動排泄処理装置	P　移動用リフト
＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞	＜補　or　日＞
＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞	＜　貸　or　購　＞

Q２　福祉用具を<u>【貸与】・【購入】</u>　にどこでどうわけますか？

まとめ　・原則は（　貸与　）

・（　購入　）は①再利用に（　心理　）的抵抗感が伴うもの　②個別に（　制作　）する必要があるもの

・「（　福祉用具専門相談員　）」の業務内容は福祉用具の選定相談、計画など

・（　介護福祉士　）の資格があればその業務をすることが可能である

福祉用具とは

補装具　…(　　)

日常生活用具　…(　　)

Q１　福祉用具を補装具　*or*　日常生活用具にわけよう

～障害者総合支援法の場合～

A　義肢	B　装具	C　車いす	D　歩行器
<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>
<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>
E　特殊寝台	F　ポータブルトイレ	G　歩行補助杖	H　白杖
<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>
<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>
I　補聴器	J　義眼・眼鏡	K　ストーマ用装具	L　ネブライザー
<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>
<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>

～介護保険法の場合～

M　車いす	N　入浴補助用具	O　自動排泄処理装置	P　移動用リフト
<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>	<補　or　日>
<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>	<　貸　or　購　>

Q２　福祉用具を<u>【貸与】・【購入】</u>　にどこでどうわけますか？

まとめ　・原則は(　　)

・(　　)は①再利用に(　　)的抵抗感が伴うもの　②個別に(　　)する必要があるもの

・「(　　)」の業務内容は福祉用具の選定相談、計画など

・(　　)の資格があればその業務をすることが可能である

こころとからだの理解

定期考査案

問1　福祉用具A ～P の名称を語群から選びなさい　評価A

A	B	C	D
E	F	G	H
I	J	K	L
M	N	O	P

≪語群≫

移動用リフト　装具　白杖　頭部保護帽　補聴器　ネブライザー
入浴用いす　ストーマ用装具　ポータブルトイレ　歩行補助杖　車いす
自動排泄処理装置　義眼・眼鏡　義肢　特殊寝台　歩行器

問2　福祉用具A ～Mを障害者総合支援法で分類される補装具と日常生活用具に分けなさい。評価D

問3　福祉用具I ～Kの中から介護保険法の【貸与できるもの】をすべて答えなさい。評価E

問4　福祉用具I ～Kの中から介護保険法の【購入するもの】をすべて答えなさい。評価E

テーマ

肢体不自由者の
生活支援に必要な
補装具と日常生活用具
について

復習

肢体不自由とは

上肢 ・ 下肢 が無い状態や

上肢・下肢・ 体幹 が障害のために正常な動きができない状態。

肢体不自由になる原因は・　・

この時間の目標

（１）補装具と日常生活用具の定義を理解する。
　　＝福祉用具
（２）福祉用具を補装具と日常生活用具に分類できる。
（３）福祉用具を【貸与】【購入】に分類できる。

福祉用具の名称を確認しよう

装具

義肢

車いす

義眼・眼鏡

歩行器

白杖

歩行補助つえ

補聴器

入浴補助用具

頭部保護帽

ストーマ用装具

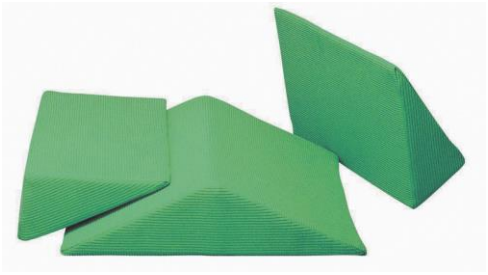
ネブライザー

超音波式

超音波振動子の振動を利用して、薬液を霧状にするタイプ

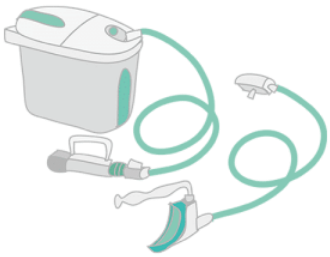
特殊寝台

体位変換器



自動排泄処理装置

自動排泄処理装置



レシーバータイプ
尿を受ける部分を陰部に当てて使用
センサーが排尿や排便を感知して吸引する。
（吸引された便や尿はタンクに蓄積される）

移動用リフト

福祉用具の名称の確認

おわり

プリント配布します

・福祉用具とは

- **補装具　…**
  身体の欠損または損なわれた身体機能を補完、代替するもの

- **日常生活用具　…**
  日常生活上の困難を改善し、自立を支援し社会参加を促進するもの

～障害者総合支援法の場合～

A 義肢 <補 or 日> <貸 or 購>	B 装具 <補 or 日> <貸 or 購>	C 車いす <補 or 日> <貸 or 購>	D 歩行器 <補 or 日> <貸 or 購>
E 特殊寝台 <補 or 日> <貸 or 購>	F ポータブルトイレ <補 or 日> <貸 or 購>	G 歩行補助杖 <補 or 日> <貸 or 購>	H 白杖 <補 or 日> <貸 or 購>
I 補聴器 <補 or 日> <貸 or 購>	J 義眼・眼鏡 <補 or 日> <貸 or 購>	K ストーマ用装具 <補 or 日> <貸 or 購>	L ネブライザー <補 or 日> <貸 or 購>

～介護保険法の場合～

M 車いす <補 or 日> <貸 or 購>	N 入浴補助用具 <補 or 日> <貸 or 購>	O 自動排泄処理装置 <補 or 日> <貸 or 購>	P 移動用リフト <補 or 日> <貸 or 購>

ルール

・１人ひとり責任をもって発表する。
・リーダーを決める。
・リーダーは司会をする。
・リーダーは班の全員が発表できるよう
　に司会をし、班全員で確認する。
・困っている人がいたら班員で助け合う。

まとめ

・原則は(　貸与　)

・(　購入　)は①再利用に(　心理　)的抵抗感が伴うもの
　②個別に(　制作　)する必要があるもの

・(　福祉用具専門相談員　)」の業務内容は福祉用具の選定相談、計画など

・(　介護福祉士　)の資格があればその業務をすることが可能である

「こころとからだの理解」ふりかえり

授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校　教諭　吉澤教子

1．ICT の活用、電子黒板について

良かった点	課題点
・書く時間の短縮になってよい ・生徒が取り組むプリントと同じ図をスクリーンに出すことができる ⇒・図の示す場所を的確に伝えることができる。 ・空欄箇所など重要語句の記入がしやすい。 ・導入部で効果的に活用できる。 ⇒・写真を見て名称を復習するなど視覚的な効果がある。 ・本時は導入時にクイズ形式で福祉用具の名称を考える方法で復習を行った。全員が授業の導入に参加できた。 ・電子黒板での説明時に記入した文字等などが画像保存することができ、行った授業の記録をとることができる。	・教員の立ち位置を意識する必要がある。 ⇒スライドを PC の位置で操作するのでなくホワイトボード上のコマンドで操作することで生徒の目線をの近くで授業を進める必要がある。 ・ICT をスピーディに活用することを前提にし、対話も充実させながら授業を行う必要がある。

2．主体的で対話的な授業展開について（グループワーク）

良かった点

・グループワークのルールをスライドで明示したので生徒が進め方を理解でき主体的にグループワークを進めることができた。

・グループワークの課題に対して、発表時に考えた理由を説明できるようにしっかり考えている生徒が多く、疑問に思った点を生徒間で考察するといったグループワークを行っていた。

・発表を聞く側の姿勢。発表後に拍手することで安心して発表できる環境があった。

グループワークのルール
- １人ひとり責任をもって発表する。
- リーダーを決める。
- リーダーは司会をする。
- リーダーは班の全員が発表できるように司会をし、班全員で確認する。
- 困っている人がいたら班員で助け合う。

課題点

・4 人１グループでのグループ学習を行ったが、意見交流が進みにくい班があった。

⇒【改善点】

・2 人１グループのペアワークを取り入れ、話しやすい環境をつくる

・活性化しにくい場合も想定し個人やグループに対しての教員側の声かけを準備しておく必要がある。

・グループワークと発表時間の設定を細かくしておく。

⇒【改善点】

・グループワークの時間設定を的確にする。意見が活性化し、グループワークの時間が押してしまった。しかしながら発表の内容も厚くなるため、発表時間が削られてしまい、発表後のふりかえりが丁寧に行えなかった。

・生徒が発表しやすいように、発表の例をあげるという方法もある。

・グループでの取り組み内容をしぼる。

まとめ

グループワークの際に一人の生徒が「どっちか(正解)がわからへん。これであってる？」という発言があり、「自分の意見を伝えるのが大事なことだよ、正解でも勉強、間違えるのも勉強だよ」と声をかけた。間違えたくないという思いから生徒ひとりひとりが発表するということに対し少なからず不安を持っている。グループワークは意見を考え、グループ内で共有し、発表をすること、また発表を聞くという内容も含めて学びの場であり、ひとつひとつの過程に成果があるものである。一連のワークの中で、課題設定の工夫、ルールの明示、個々への対応、発表しやすい環境作り、生徒の力を伸ばすために教員が支援する具合について、あらためて考える機会となった。

「こころとからだの理解」学習指導案

授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校　教諭　沢　拓郎
指導年月日：平成 29 年 12 月 13 日　水曜日 2 限（9：50～10：30）
対象学級：2 年 7 組　ヒューマンサービス科　介護福祉コース 20 名（女子 13 名，男子 7 名）

テーマ　：　主体性と自立を育む　～教科の魅力を伝える実践と工夫～

Ⅰ．単元名

からだのしくみの理解

Ⅱ．単元の目標

からだについて基礎的な理解を深め，加齢による心身の変化について深く関心を持つ。自身の身体の発達にも触れ「心身機能・身体構造」を理解することで介護に必要な知識を身につける。

Ⅲ．単元について

介護福祉士を目指す 20 名は福祉に興味を持ち，自らの意志でコース選択を行った生徒である。生徒は特別養護老人ホームや介護老人保健施設での実習を 2 期に渡り 20 日程度経験しており，利用者さんの健康状態について，また脳や消化器のしくみについてなど，「心身機能・身体構造」に対する関心も高まってきている。しかし，生徒たちは各自意見を持っているが，授業時にクラスの中で発言することが難しく，消極的な姿勢がみうけられる。この単元では介護従事者として必要な基本的なからだのしくみについて理解することを目標にし，調べ学習を通して「調べる力，理解する力，説明する力」を育みたい。「調べる，理解を深める，発表する」といった一連の学習の経験を積み重ねていくことで生徒自身の学ぶ力を育んでいきたい。さらに高校生における，からだの健康についての意識を深めさせたい。

Ⅳ．単元の評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
介護従事者として必要な基本的なからだのしくみについて探求しようとしている。	各臓器の働きを知り，恒常性を保っているかを考えることができる。心身機能・身体構造について考え，状況に応じた判断をすることができる。	からだのしくみについての情報を収集することができ，適切にまとめ，活用することができる。発表用の資料等の作成が行える。	介護従事者として必要な基本的なこころとからだのしくみについて理解し基礎的な知識を身に付ける。

Ⅴ．指導計画

からだのしくみの理解（全15時間）

1. 生命維持・恒常性のしくみ・・・・・・・・・・・・・3時間
2. 脳・神経系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
3. 運動器系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
4. 循環器系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
5. 消化器系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
6. 呼吸器のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
7. 感覚器系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
8. 内分泌系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
9. 泌尿器系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
10. 生殖器系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
11. 血液・免疫系のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・3時間　※本時（2/3）

Ⅵ. 本時の指導計画

１．主題名

血液・免疫系の働きについて考える

２．目標

〔目標１〕血液の働きと免疫系の働きについて探求しようとしている。

〔目標２〕発問に対して,思考・表現することができる。

〔目標３〕iPadを用い,自身やや班員の考えをまとめ報告することができる

３．評価の観点

A発問①について探求し，自身の意見を述べようとしている。【関心・意欲・態度】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
発問に対する意見を適切にノートに記入できた「B」	ノートに記入できない。 [手立て]声をかけ記入を促す。
「B」に加え，関連した発言を自らすることができれば「A」	

B グループでの情報を共有しようとし,まとめることができた。【思考・判断・表現】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
班員に自身の意見を伝え,課題の検討に取り組むことができた「B」	課題検討への参加が消極的である。 [手立て]声をかけ参加を促す。
「B」に加え，班の意見をまとめ，リーダーシップをとることができれば「A」	

C発問②について探求し，自身の意見を述べようとしている。【関心・意欲・態度】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
適切にiPadを用い発問に対する意見を伝達できた「B」	自身の意見を伝達することができない。 [手立て]声をかけ記入を促す。
「B」に加え，関連した発言を自らすることができれば「A」	

４．本時の展開計画

２時間目（9：50～10：30）

展開	時間	学習内容	評価の観点				指導上の留意点
			関	思	技	知	
導入	5分	持ち物，身だしなみの確認 ■本時の目標の確認 ■本時の流れの確認 ■前回の復習					●授業に必要なものが準備できているか，服装，身だしなみが整っているか確認する。 ●スライド・iPad で生徒が確認できるようにする。 ●ヘモグロビン模型（靴下）を活用しながら，前回の学びを確認する。
展開	30分	■発問①「A型の血液型の人にB型の血液を輸血したどうなるでしょう」について個人の考えをノートに記入する	A				●個人の考えがグループワークで必要になることを伝える。具体的な例をあげ，意見がでるように「白血球の働きは？」「血小板の働きは？」など前回の授業で学んだ血液の働きから答えを予想させる。 A各自意見が記入できているか机間巡視を行い評価する。
		■発問①に対しての考えをグループで共有し意見をまとめる（グループ学習） ※iPad［メタモジ］を活用し意見をまとめる ■ホワイトボードを用い，各班の意見を全体で確認する		B			●４人の５グループに分ける B各班を巡視し生徒の状況を確認する ●机間巡視を行い，意見がまとまりにくい場合などグループ内で相談するよう促す。 ●各班のまとめに対して疑問がないか聞き，疑問点があれば確認する。各班の意見の共有し体内にとってよくないことを確認する。
		■免疫が働き機能不全が起きることを理解する。 ■発問②「免疫がなければどうなるか」を個人で考え，意見を iPad で回答する ■免疫について触れ，様々な免疫があることを知る。体にとっての異物のとらえ方を知る	C				●スライドを用いて異なる血液型の輸血を行った際にどのようなことが起きるかを確認する。免疫が働き，機能不全が起きることを理解させる。免疫で守られていることによって型の違うほかの血液では制限がかかることを確認する。 C［授業内］自身の意見を発言したい生徒がいるかを確認する。 ●個々の意見を確認しながら免疫について考える。 ●免疫がないと風邪やインフルエンザなどの脅威から守られるものがなくなることを確認する。 ●免疫について説明する。導入で使用したヘモグロビン模型（靴下）を例に挙げ同じ物質でも型が違えば異物になるという仕組みを考えさせる。免疫について学びその重要性に気づく。
まとめ	5分	■今日の授業を振り返り次回の授業内容を確認する					●「自分と違う異物（異なる型の血液・ウィルスなど）が体内に入ってきたとき体を守る」ことが免疫だと確認する。次回の内容について説明する。

「こころとからだの理解」ふりかえり

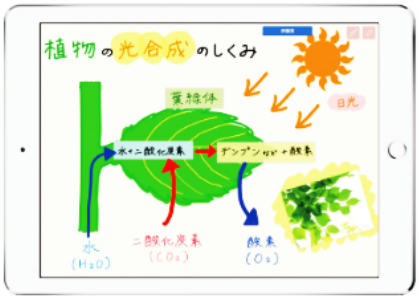
授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校　教諭　沢　拓郎

1. ICT を活用した授業について

　iPad を用いて生徒一人一人の意見がホワイトボードに映し出され全体共有ができることを狙いとして計画を立てた。今回活用したアプリケーションソフトは「MetaMoJi ClassRoom」という生徒の成長や授業内容に合わせ、シンプルなノート機能から、高度な協働学習まで幅広く柔軟に対応できるリアルタイム授業支援アプリである。主な機能は以下の通り。(HP より抜粋)

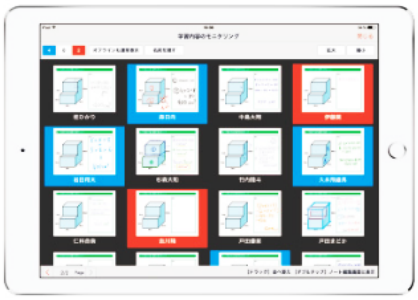
豊かな表現力

- 豊富なペン種と色のバリエーション
- 写真を何枚でも好きな場所に貼れる
- 最大2,500倍の超拡大が可能で、緻密な書き込みができる
- 何度でもやり直しができる
- 子どもたちの思考力・表現力を高める



超リアルタイムな画面共有

- 生徒一人ひとりの学習状況をリアルタイムにモニタリング
- 先生がモニタリング画面から、個別にアドバイス
- クラス・グループで、画面共有・同時編集
- 生徒同士で答えを見合ったり、採点し合える



さまざまな学習で使える

- 一斉学習・個別学習・協働学習といった幅広い授業形態に対応
- 教科を選ばない汎用性の高さ
- 授業での活用はもちろん、校外学習家庭学習、職員室での利用にも最適

　授業の対象となったクラスの特徴として「各自意見を持っているが, 授業時にクラスの中で発言することが難しく, 消極的な姿勢がみうけられる」という点が挙げられる。この授業形式を取り入れることで見えてきた良かった点・課題点については以下の通りである。

良かった点	課題点
・普段意見を言えない生徒の意見が共有できた。 ・ホワイトボードと手元にある iPad のどちらにも資料を写すことができ、見やすさが向上した。 ・前回の授業内容を簡単に映すことができ導入部での復習に活用することができた。 ・電子黒板や iPad のデータは保存ができ資料作成やテスト作成時に繰り返し活用ができる。 ・準備次第で時間短縮ができ、机間巡視や評価にあてることができる。	・iPad の操作に集中してしまい、「生徒同士が顔を合わせること」や「声を出してコミュニケーション」といったグループワークの際に見られる姿が少なかった。 ・一斉に意見を公開しているため、生徒同士の「隣の子はなにを考えているのだろう」といった疑問の生まれにくい状況となった。

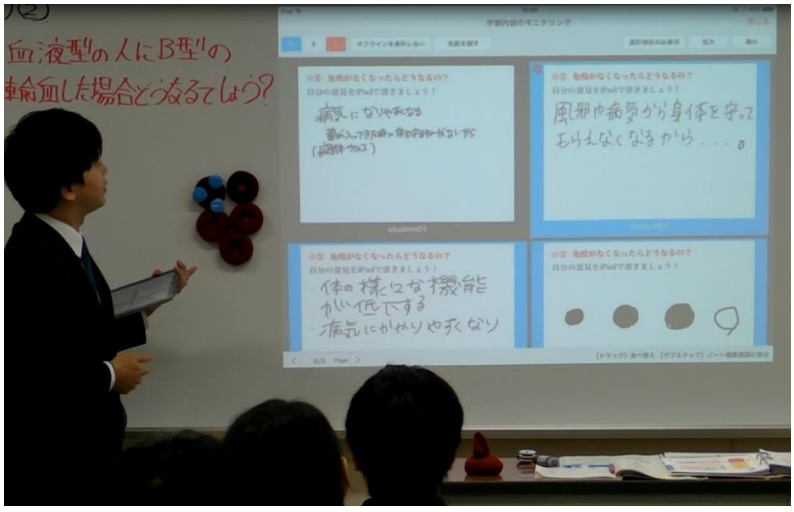
2. 模型を活用した授業について

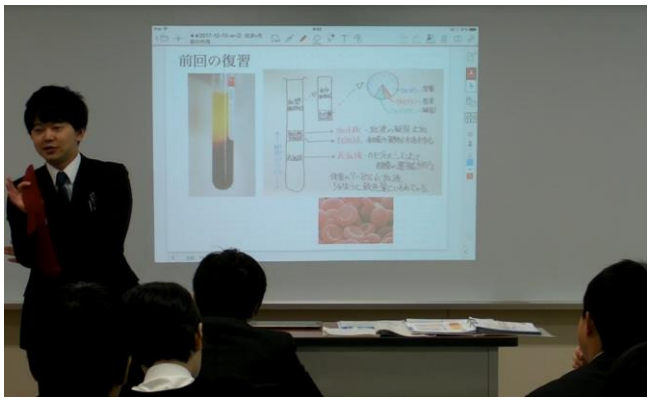
ICT を活用していく上で、見落としていけないことが「生徒が主体となる」という点であり、本授業では「靴下を使って赤血球の模型を作る」という体験を取り入れた。日常生活の中にある靴下、それを丸めることによって模型を作り生徒のエピソード記憶に残したいと考え、前回授業の復習を行う導入部で取り入れた。実際に触れるという体験を授業内に取り入れることができ、ICT では難しい「３Ｄ」での記憶を input できたのではないか。

靴下を丸め、赤血球の模型に

まとめ

自信が持てず、意見を言えない生徒が多いという印象のクラスで iPad を活用した授業は生徒の意見を教員が読み取ることに大きな力を与えてくれたように感じている。しかし、「顔を見てコミュニケーションをとらない」「言葉数が減った」という課題は今後しっかりと解決していきたい。本校が ICT を取り入れてから早４年が過ぎようとしている。「ICT は活用するものであり、ICT が中心になることはない」と考えて取り組んできたが、生徒が使う際にもその考えを意識しなければならないと強く感じた。今回の授業以外にも iPad の活用は調べ学習や、記録での活用、資料を生徒が作り授業を行うという授業を行ってきた。目の前に生徒に何が必要か見極め現状とその後の成長を考えた授業を提供することの必要性を改めて感じることができた。





こころとからだの理解

単元名　(1)こころとからだの基礎的理解

第 1 章　こころのしくみの理解

第 2 章　からだのしくみの理解

(1)単元の目標

介護従事者として、健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現できるようになる。

人間の心とは何か、人間の欲求と尊厳を関連させながら考え、人間の心の動きやこころのしくみをについて理解する。

また、基本的なからだのしくみについて理解することで介護実践に適切に活用できる能力を身につける。

(2)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・健康や人間の基本的なこころとからだのしくみについて主体的に考え、関心を持って探究しようとしている。	・こころとからだの健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現している。 ・人間の基本的動作をからだのしくみと関連して考えている。	・こころとからだについてのグラフや表から変化を読み取り活用することで、介護実践に必要な技能を身につけている。	・健康についての概念を理解し、人間のこころとからだの基本的なしくみを、欲求や尊厳と関連させながら考え、理解している。

(3)指導と評価の計画(18時間)

次程	内容	時間
第一次	私たちの生活と健康	4時間
第二次	人間の欲求の基本的理解	2時間
第三次	自己概念と尊厳	1時間
第四次	意欲・動機づけのしくみ	1時間
第五次	思考・感情のしくみ	2 時間
第六次	記憶・学習のしくみ	4時間
第七次	適応のしくみ	4時間

次程	ねらい・学習活動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関	思	技	知	
第一次（4時間）	私たちの生活と健康 【ねらい】介護従事者として健康をどのようにとらえるべきかを考え、表現できる。					
	・平均寿命の変化について考える。			①		・平均寿命の変化についてグラフや表から読み取り、記述している。 社会福祉基礎　第４節疾病構造の変化と国民の健康づくり
	・健康でいるために必要なことを考え発表する。		②			・健康でいるための心がけについて自らの生活を振り、具体的に挙げている。
	・健康について考え、広義の健康の概念について知る。		③			・WHOの健康の定義について知り、広義の健康の概念について考えている。
	・加齢と健康との関係について、老化の特徴とともに考え、グループワークに意欲的に取り組む。	④				・老化の特徴について意欲的にグループワークに参加している。
第二次（2時間）	人間の欲求の基本的理解 【ねらい】人間の欲求の種類とその内容を理解し、自己実現について考える。					
	・人間の基本的欲求について知る。		⑤			・欲求とはなにかを自らの経験から何か考えている。
	・人間の心の動きや心のしくみについて生活支援技術で必要な知識を身につける。				⑥	・基本的欲求と社会的欲求について理解し、欲求の構造を知っている。
第三次（1時間）	自己概念と尊厳 【ねらい】自分らしさについて考え、自己実現と生きがいについて知る。					
	・自己概念とそれに影響を与える要因について理解し、自己実現と尊厳、生きがいについて理解する。				⑦	・自己実現とは何か、自らの生活を照らし合わせて知っている。

第四次（1時間）	意欲・動機づけのしくみ 【ねらい】動機とは何か知り、動機づけを高める方法について理解する。					
	・欲求と意思を含め、人を行動に駆り立てる意欲と動機について理解する。				⑧	・動機づけについて事例を参考に考え、理解している。
第五次（2時間）	思考・感情のしくみ 【ねらい】思考・感情の基本的な概念を理解し、自分自身を知ることで他者理解につなげる。					
	・思考・感情の基本的概念を理解する。				⑨	・人格・気質・性格について理解している。
	・自分の思考や感情について理解することで他者理解につなげる。	⑩				・心理検査に興味を持ち、積極的に他者理解を深めている。
	・人間の基本的感情についてエクマンの 6 つの感情を例に考える。		⑪			・人間の基本的感情について自分のことと照らし合わせ考えている。
第六次（4時間）	記憶・学習のしくみ 【ねらい】記憶のしくみについて理解する。					
	・記憶のしくみについて脳の役割を理解する。				⑫	・記憶の過程とその内容について理解している。
	・知能とは何か理解し、グラフを読み取ることで加齢による変化の特徴を知る。			⑬		・知能とは何か理解し、加齢による変化について読み取っている。
第七次（4時間）	適応のしくみ 【ねらい】ストレスとその対処について知り、適応機制とは何か理解する。					
	・ストレスについて知り、対処方法を考える。	⑭				・ストレスの対処方法について自分自身のことと照らし合わせてワークシートに取り組んでいる。
	・適応機制の種類と内容について事例をもとに理解する。				⑮	・適応機制について実体験をもとに理解している。

観点別評価資料　参考資料

第１節　私たちの生活と健康

① 江戸時代の人の健康意識

「　　」…江戸時代中期の（　　）著書。

健康であるために心がけること、人生の楽しみ等

※年齢の推移について

時代	男女平均寿命
縄文時代	31歳
弥生時代	30歳
古墳時代	31歳
室町時代	33歳
江戸時代	45歳
明治24～31年	43歳
大正15～昭和5年	46歳
昭和10～11年	48歳
昭和22年	52歳
平成19年	82歳

●平均寿命の変化

【技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・グラフを読み取り、平均寿命の変化について記述されていれば「B」。	・平均寿命の変化について理由とともに記述されていない。 （指導の手立て） ・各時代がどういう時代だったか説明を加えた上で記述させる。
・各時代背景を読み取り、平均寿命の変化についてその理由まで記述されていれば「A」。	

② 現代人の健康意識

1928 年ラジオ体操に始まり日々の生活増進の広がり

●あなたが健康でいるために心がけていること

【思考・判断・表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・体とこころが健康でいることについて必要なことを考え、具体的に記述していれば「B」	・健康について具体的なことが記述されていない。 （指導の手立て） ・毎日の生活習慣から自らの生活を振り返らせて記述させる。
・「B」に加え、自分の意見を発表することができれば「A」	

③ 健康概念

●健康とは

【思考・判断・表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・健康について考え、広義の健康の概念について記述していれば「B」	・広義の健康の概念について適切に記述されていない。 （指導の手立て） ・健康について多面的な視点で捉えるように促す。
・「B」に加えて、広義の健康の概念について理由も記述していれば「A」	

④ 加齢と健康

加齢…

{おじいさんのイラスト}

●老化の特徴

【関心・意欲・態度】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・加齢と健康との関係について、グループワークに参加し、自らの意見を表現できていれば「B」	・グループワークに参加せず、取り組みができていない。 （指導の手立て） ・具体例を挙げ、意見を持たせるとともに、グループワークに参加しやすいよう声をかける。
・「B」に加え、積極的に取り組みグループでの役割を担っていれば「A」	

⑤　人間の基本的欲求

●欲求

欲求とは…

【思考･判断･表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･自分の欲求について自らの経験から考え、記述できていれば「B」	･自分の持っている欲求について記述できていない。 （指導の手立て） ･具体的に提示して答えを導き出す。
･「B」に加えて、欲求の概念についても記述できていれば「A」	

⑥　人間の社会的欲求

基本的欲求…

社会的欲求…

●分類してみよう

＜基本的欲求＞　　＜社会的欲求＞

【思考･判断･表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･自分の欲求について照らし合わせ基本的欲求について分類ができていれば「B」	･基本的欲求と社会的欲求について分類ができていない。 （指導の手立て） ･具体例をひとつ挙げ、答えが導き出せるように促す。
･「B」に加えて、社会的欲求についても分類ができていれば「A」	

第 3 節　自己概念と尊厳

⑦ マズローの欲求段階説

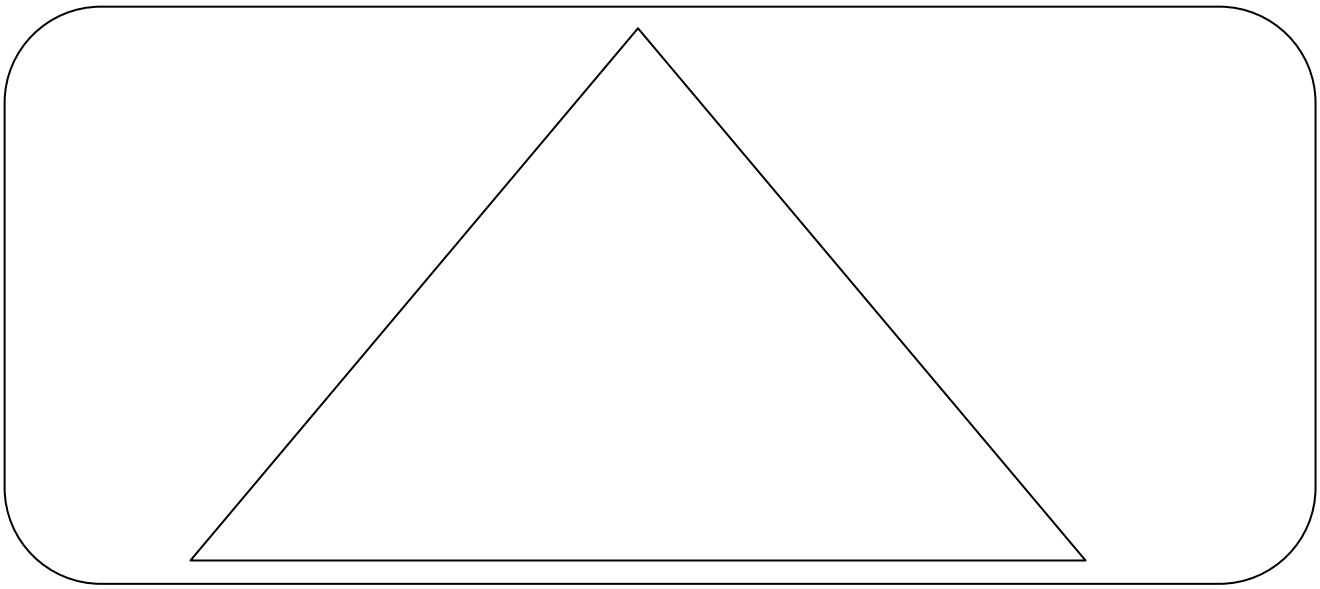
(　　)…

マズローの写真

1908 年 4 月 1日-1970 年 6 月 8 日

人間の自己実現を研究対象とする「人間性心理学」の最も重要な生みの親とされている。

「　　」を定義した。



●自己実現とは何か考えよう

【知識・理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・自己実現について記述できていれば「B」	・自己実現について理解しておらず記述できていない。 (指導の手立て) ・質問をし、発話から答えを導き出す。
・「B」に加えて、自分自身のことと照らし合わせて考え、記述できていれば「A」	

第 4 節　意欲･動機づけのしくみ

⑧　動機と動機づけ

(　　)…行動を起こし、目標に向かって維持･調整する一連の心理過程。

生命を維持し、種を保存させるために生得的な動機を(　　)という。

(　　)…生理的動機づけに基づいて、社会生活のなかで獲得されていく行動様式

○(　　):「　　」からの賞や罰で刺激を受けて向上する。例)

○(　　):「　　」(心の中)の満足を得るために自分から働きかける例)

○(　　):目標を立てて達成しようする動機。承認、励ましで高くなる。

●動機づけを高める方法について考えよう

【知識･理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･動機づけについて理解し、記述できていれば「B」	･取り組むことができない。
･自分のことと照らし合わせて具体的に記述ができていれば「A」	(指導の手立て) ･事例等を挙げて声をかけながら取り組みを促す。

第 5 節　思考･感情のしくみ

⑨　パーソナリティ

(　　)(　　)と訳される

ラテン語のペルソナが語源で芝居や劇で使われる仮面

(　　)の定義…

2　気質･性格

(　　)…生まれつき備わった遺伝的、体質的に規定された個人の情緒的反応。

(　　)…感情面、意志面をさし、人格よりは狭く、気質より広い概念。

一度、形成された人格の基本部分は、　　が原因で大きく変わらない。

【知識･理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
･ワークに適切な答えが記述できていれば「B」	･ワークに適切な答えが記述できていない。
･「B」に加えて、パーソナリティ、気質･性格を図で表すことができていれば「A」	(指導の手立て) ･教科書に線を引かせて振り返った後で記述させる。

⑩ 心理検査

心理検査…性格検査と知能検査にわけられる。

●性格検査

質問紙法:与えられた質問紙に回答する検査法

•Y－Gテスト(矢田部•ギルフォード性格検査)

120 の質問に選択肢で答える。手軽に実施でき、多面的な診断が可能であるため広く用いられている。

•CMI健康調査票

213 の身体的な質問から後半は精神的な質問もある。4領域に結果に結果がでる。

•MMPI(ミネソタ多面人格検査目録)

被験者は各項目に対して、「あてはまる」「あてはまらない」「どちらともいえない」の3択で回答する。550項目からの自己式質問票で性格のプロフィールをみる方法。

投影検査法:あいまいな視覚的あるいは言語的刺激に対して連想•想像したものの中に、被験者の性格や深層心理が映し出されるという考えに基づいた検査法。

•ロールシャッハ•テスト

左右対象のインクのシミから連想するものを問う。

•バウムテスト

一本の木のなる木の絵からパーソナリティの発達的な側面などを検討する

•課題統覚検査(TAT)

抽象的な人物画や風景画を見せて自由に物語りを語ってもらう。

•文章完成テスト(SCT)

未完成の文章を自由に完成させてもらう

(例)

YG 検査やロールシャッハの写真

【思考•判断•表現】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
•全ての心理検査を行うことができたら「B」	•心理検査に取り組むことができなかった。
•「B」に加え、積極的に興味を持ち取り組むことができれば「A」	(指導の手立て) •興味を持つように声掛けをし促す。

⑪ 人間の基本的感情

エクマン…6つの感情「喜び」「恐れ」「驚き」「嫌悪」「悲しみ」「怒り」→**普遍的**なものである
※顔の表情は他者の感情状態や糸を知るてがかりである。

【技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
•表情の変化を読み取り、ワークに記入することができる。	•ワークに記入ができていない。 （指導の手立て）
•「B」に加え、全体に向けて発表することができる。	•実際に表情をしてみることで理解しやすいようにし、記述を促す。

第6節　記憶・学習のしくみ

⑫　記憶の過程

情報を入力する「　　」

↓

(　　)された情報を蓄え続ける「　　」

↓

保持された情報を検索して引き出す「　　」

記憶の保持間隔による分類

(　　):感覚を通して受容した情報。

(　　):1度に(　　)項ほどの情報を蓄える。1分以内に消える。　例)(　　)など

(　　):知識や経験のように学習したことの⑧のために使われるもの。長期の保存が可能である。

記憶の内容による分類

・(　　):(　　)など一般的な情報の記憶

・(　　):「昨日は何をしたか」など過去の出来事などストーリーに関する記憶

・(　　):身体的反応の記憶　　(例)(　　)

・映像的記憶と・音響的記憶

・(　　):日常の何気ない動作や行動などのように、無意識に繰り返されるパターン化された記憶

記憶の加齢変化‥‥(　　)や短期記憶が低下する。

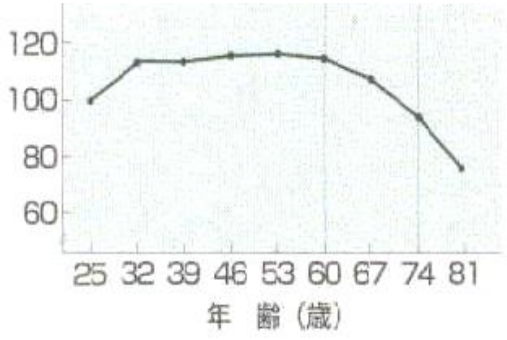
感覚の加齢変化‥‥視覚、聴覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚などが(　　)する。

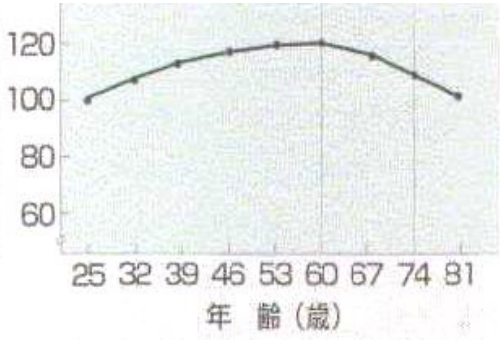
記憶の内容を言葉で表現できる記憶を(　　)という。また、言葉で表現できない記憶を(　　)という。

【知識・理解】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・適切な語句がおおむね記入されていれば「B」	・適切な語句が記入されていない。 (指導の手立て) ・学習プリントを見直すように促す。
・適切な語句が全て記入されていれば「A」	

⑬ 知能の定義





「　　」　「　　」

知能の加齢変化・・・

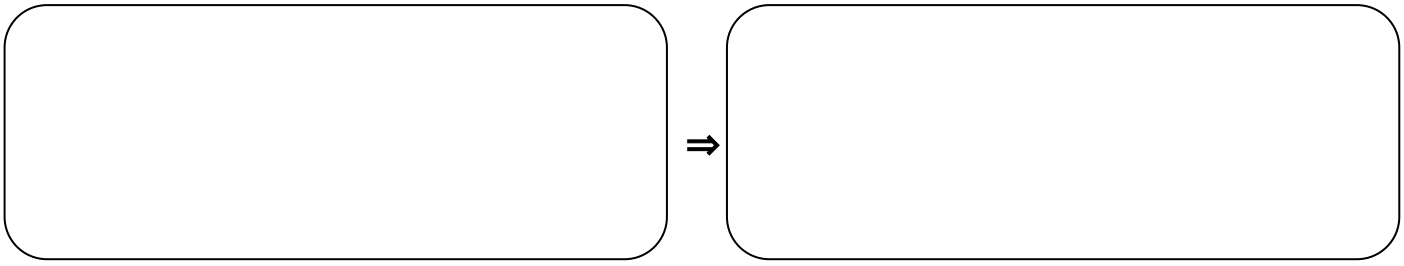
【技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・グラフを読み取り、知能の加齢変化について適切に記述できていれば「B」	・グラフを読み取ることができず、知能の加齢変化について記述できていない。 （指導の手立て） ・グラフの特徴について説明を加え、記述させる。
・「B」に加え、具体的な例も挙げていれば「A」	

第７節　適応のしくみ

⑭　適応とストレス

ストレスを引き起こすもの



【関心・意欲・態度】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・ストレスの原因とその対処方法について記述できていれば「B」	・原因とその対処方法についてどちらか片方のみ記述しているか、どちらも記述できていない。 （指導の手立て） ・具体例を挙げて記述できるように助言する。
・「B」に加えて、自分の記述を発表できれば「A」	

⑮ 適応機制

【　　】…

（　　）…

代表的な適応機制	
	不快な場面、緊張する場面から（　　）で消極的に自己の安定を求める
	例）
	より以前の発達段階に逆戻りして、（　　）をとる
	例）
	自分の欲求や衝動を（　　）ようにする
	例）
	欲しいものが得られない場合、（　　）で我慢する
	例）
	ある事柄に劣等感をもっている際、（　　）で優位に立って（　　）を補おうとする。
	例）
	自分の存在と価値を（　　）ため、（　　）をとる傾向をいう
	例）
	自分の行動や失敗を自分以外のところに原因があり、（　　）をつけて自分の立場を正当化する
	例）
	（　　）を、芸術、文化、スポーツなど（　　）に振り返る
	例）
	（　　）のある一面やいくつかの特性を自分の中に当てはめて、（　　）なること
	例）
	自分の中の認めがたい抑圧したい感情が（　　）みなすこと
	例）
	ある対象に向けられた欲求・感情を（　　）する
	例）
	知られたくいない欲求や感情と（　　）をとることによって、本当の自分に目を覆ったり隠そうとすること
	例）
	妨害になっていると思われている人や状況に（　　）を示す
	例）

【知識・技能】

「A」「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
・適切な語句が半分以上記入できていれば「B」	・適切な語句が半分以下しか記入されていない。 （指導の手立て） ・使用したプリントをもとに要点を再度説明し、記入を促す。
・「B」に加えて、適応機制の例について考え、記述ができていれば「A」	

第一次

私たちの生活と健康
【ねらい】介護従事者として健康をどのようにとらえるべきかを考え、表現できる

①平均寿命の変化
・日本の歴史的な展開について知識が自分のものになっていないため、その当時の時代背景について生活状況を含めて丁寧に確認する必要があった。説明を重ねることで生徒もイメージしやすくなった。

②健康でいるためにこころがけていること
・ワークシートは意見を自由に記述できるよう身近な事例を取り上げ、自分のこととして捉えるように留意した。そのことで生徒の意見も出やすくなった。

③健康とは
・健康については、概念を多角的な視点から捉えるように促す必要があった。広義の健康については生徒自身の体験からも意見を引き出すことで自分自身のこととして考えることができた。

④老化の特徴
・加齢の程度には個人差があり、個人の生活習慣や健康管理にも関係があることを、ICT 機器を用いて知識の定着を促した。また、グループワーク等で言語活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢を養った。

＜第一次の内容全体の考察＞
・ICT 機器を用いることで視覚的にも理解しやすい授業展開が可能であった。
・こころとからだのしくみの導入であることから、自らの経験が知識と結びつくように工夫する必要があった。基本的なこころのしくみを理解した上で、からだのしくみや、具体的な介護場面における知識につなげるために、グループワークやワークシートを通して自ら考えを共有し、理解を深める姿勢を養った。

第二次

人間の欲求の基本的理解
【ねらい】人間の欲求の種類とその内容を理解し、自己実現について考える。

⑤欲求とは
・人間の基本的な欲求に関しては、身近な例として取り上げやすく、生徒が自らの経験から考えを深めることができた。

⑥人間の社会的欲求
・前回の授業を振り返り、ICT 機器を用いることで、欲求の種類やその構造、動機づけについて理解を深めた。

＜第二次の内容全体の考察＞
・生徒にとって身近なこととして取り上げる必要があった。
・動機づけや欲求に関しては、生徒にとって取り組みやすい内容であり、関心を持って意欲的な態度で取り組むことができた。

第三次

人間の欲求の基本的理解
【ねらい】人間の欲求の種類とその内容を理解し、自己実現について考える。

⑦マズローの欲求の五段階

•ICT 機器を活用してその構造について理解を深めることができた。

＜第三次内容全体の考察＞

•自分の生きがいとは何か考えることが他者理解につながるように意識して授業を展開した。授業の中にとどまらず、日常生活においても活用できるように留意した。自分自身の自己実現とは何かを考える機会に繋がった。

第四次

意欲•動機づけのしくみ
【ねらい】動機とは何か知り、動機づけを高める方法について理解する。

⑧動機づけのしくみ

•動機づけの構造について理解することで自己理解を促し、身近な例を取り上げて知識の定着を図った。具体的な事象からはイメージがしやすく自分のこととして捉えることができた。

＜第四次内容全体の考察＞

•学校生活における具体例を取り上げ、一人ひとりが自ら問題として捉えることができるように促した。

第五次

思考•感情のしくみ
【ねらい】思考•感情の基本的な概念を理解し、自分自身を知ることで他者理解につなげる。

⑨人格•気質•性格

•ICT 機器を活用して視覚的に理解を促した。図示することで全体像をつかむことができた。

⑩自分の思考や感情

•ipad のアプリを使用し、実際に全体の前で心理検査のデモを行った。生徒一人一人が意欲的な姿勢を見せ、取り組むことができた。実際の評価スケールとは異なるため、模擬であることを前提に生徒への理解を徹底させる必要があった。

⑪他者理解

•自分を理解した上で、他者への理解が深まるように、表情について詳しく考察することができた。

＜第五次内容全体の考察＞

•ICT 機器が幅広く活用されることで、教材に興味を持ち、主体的な授業展開が可能であった。生徒一人一人が意欲的に授業に参加しやすい教材で興味を持たせることができた。他者理解が深まるように継続した取り組みが必要である。

第六次

記憶・学習のしくみ 【ねらい】記憶のしくみについて理解する。

⑫記憶の過程

・短期記憶については数列の例を挙げ、実体験をもとに理解を深めることができた。授業に集中できない生徒にもスモールステップで取り組みやすい環境を整えた。

⑬知能について

・知能の加齢変化についてグラフを読み取ることでその特徴を知り、広い視野で捉え考えることができた。グラフの読み取りは数値化されたものに苦手意識を持つ生徒も多く、丁寧に読み解く必要があった。

＜第六次内容全体の考察＞

・結晶性知能と流動性知能については実習での体験や身近な高齢者との出会いと結びつけて考えることができた。
・今後はさらに具体的な事例や動画などを活用し、知識・理解の定着を図りたい。

第七次

適応のしくみ 【ねらい】ストレスとその対処について知り、適応機制とは何か理解する。

⑭ストレス

・自分自身がストレスに感じたこととその解消法について考え、グループで話し合うことで言語活動の充実を図った。全体での発表を通して、意見の共有をはかり、日常の生活にも生かせるよう、留意した。その結果生徒が主体的に取り組む様子が見られた。

⑮適応機制

・自分の経験と照らし合わせて考えるように留意し知識の定着をはかった。こころの動きについては自己理解につながる場面が多かった。

＜第七次内容全体の考察＞

・知識の振り返りと定着をはかった。ストレスについては身近な課題であるため、生徒は取り組みやすい様子であった。自己理解が対人援助につながるように促した。

番号	観点	A	B	C
①	技能	3 人	9 人	0 人
②	思考•判断•表現	3 人	8 人	1人
③	思考•判断•表現	3 人	9 人	0 人
④	関心•意欲	2 人	8 人	1人
⑤	思考•判断•表現	1人	11人	0 人
⑥	知識•理解	2人	10人	0人
⑦	知識•理解	2人	10人	0人
⑧	知識•理解	3人	9人	0人
⑨	知識•理解	0人	12人	0人
⑩	技能	2 人	8 人	1人
⑪	思考•判断•表現	2 人	10 人	0 人
⑫	知識•理解	0人	12人	0人
⑬	技能	2 人	8 人	1人
⑭	意欲•関心•態度	0人	12人	0人
⑮	知識•理解	0人	12人	0人

「ICT を活用した生活支援技術」

三重県立伊賀白鳳高等学校
ヒューマンサービス科

「生活支援技術」における介護技術の授業は、なかなか生徒自身が自分の介護技術を客観的に振り返りにくい傾向にある。筆記ではないため、なにを間違えたのか、自身の介護技術のどこに課題があるのかが、見えなかったりできていると思い込んでいたりなど、ケースはさまざまである。そこで、本校では ICT を活用した生活支援技術を実践している。

本校ヒューマンサービス科の ICT 機器は、充実している方であり、これらを生活支援技術の授業で活用した。今回振り返りの授業で特に活用したものは、「電子黒板機能付きプロジェクター」「iPad」「apple TV」「ウェアラブルカメラ」である。

※これらについては、大阪市立淀商業高等学校の取組を、ヒントに実践したものである。

○ICT の活用方法について

・電子黒板

ホワイトボードに映し出すプロジェクター型の電子黒板を採用している。これについては、PC 操作を、ホワイトボード上でできるというメリットがある。

・iPad

今回は、撮影機器として活用した。介護実践を撮影し再生する一連の操作が手軽というメリットがある。また、ウェアラブルカメラには、本体での操作系統や保存機能が劣っている点がある。今回採用したメーカーも iPad から遠隔操作できるアプリケーションもでており、iPad で操作をした。

・Apple TV

電子黒板への映し出すリンクとして活用。すべてのデータが、iPad にあるため、Apple TV を経由し映し出した。

この授業を振り返り、生活支援技術で活用するメリットとして、①実際に行った実技をすぐに、全体で確認することができた。　②映像を止めたり、戻したりして、動作を確認することができた。③iPad を各班に渡すことで、生徒自身で操作をし、課題や成果を見つけることができた。④iPad だけでなく、ウェアラブルカメラを使用することで、全体だけでなく、介護者の目線で介護を考えることができたなどが挙げられる。一方、課題としては、①iPad の音声が小さく、声掛けが聞き取りづらかった。②ウェアラブルカメラは顔の動きに連動するが、目の動きには連動しないので、細かな目線の動きまでは分からない。③機器の連携が、途切れることがあるなどがあげられた。
音声については、今後マイクなどを活用することで、解決を図りたい。②の目線の動きについて、カメラを頭に設置しているだけであり、目で見ている映像＝カメラで撮影した映像にはならないのは、たしかである。しかしながら、これは姿勢ができていないということでもあるので、生徒の介護実習における姿勢の課題としても置き換えられる。③については、難しい課題でいつまでもつきまとうリスクである。

授業については、客観的に自分たちの介護を見ることができるので、良い点、改善点を意欲的に発言できる生徒がいた一方で、介護の映像を見る際に、どのポイントを見ればよいのかわからない生徒もいた。介護のポイントをあらかじめ確認しておく必要性があった。ICT を活用するうえで、機器の動作確認が必要であり、機器の連携、録画した音声の大きさや、動画の画質などを設定の確認、特に iPad の音声は小さいので、マイクの使用を検討すべきであった。また、ICT を前面に出した授業ではなく、授業の中に効果的に ICT を活用することが望ましい。動画のどの部分を教材として使用するのか、気づかせたいポイントはどこか、狙いをもって授業を行っていきたい。また、評価の観点に沿った評価ができるように、ワークシートの内容の検討などを行っていく必要性を感じた。
また、授業見学者からの意見として、以下のようなものが挙がった。

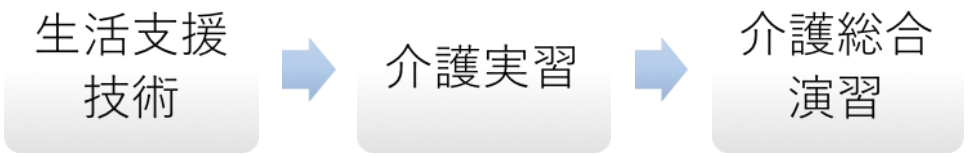
＜公開授業での意見＞
◎よかった点
・目標の確認、授業の流れを生徒が意識できた。
・生徒の取り組み状況がよかった。

・動画の利用方法がよい。（客観的に見ることができる。リプレイができる。）
・動画を見ることで、良い点や改善点を話し合うことができる。

◎課題点・改善点
・介護の手順は統一していないのか。
・iPad で実技のチェックをするだけでは、押し付けの介護、○しかない介護になってしまうのではないか。介護をする人、利用者が変われば、介護も変わってくるので、その人にとってベストな介護とは何かを考えるために動画を活用してはどうか。
・利用者の目線に合わせているか分かりづらかった。
・利用者の感想があればもっといいと思う。
・動画をどのような視点で見ればよいか分かりづらかった。各項目を設定してから見てもよかったのではないか。
・コミュニケーション力が大切である。
・課題を検討する際は、まず個人で考えさせ、次にペアで考え、全体へとつなげていった方がたくさんの意見が出るのではないか。
・「一人いくつ見つけよう」と数を提示して考えさせてもよいのではないか。
・生徒が介護のポイントなどを確認する際に、調べる時間を確保する、全員が調べるような声掛けが必要ではないか。

○連携への課題
生活支援技術の学習の実践の場として、介護実習があり、その事後指導については、介護総合演習で実施する流れである。しかし、介護総合演習では、時間数も限られ、なかなか介護技術の課題を振り返ることができない。そこで、本校では、授業の 1 割程度を介護実習の振り返りにあてる時間を取っている。この授業については、今後実習の課題などをとりあげ、課題となった介護技術の振り返りに利用できるのではないかと考えている。

現在



今後

「生活支援技術」学習指導案

授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校　教諭　曽根﨑 藍
指導年月日：平成 28 年 9 月 21 日水曜日 3、4 限（11：00～12：50）
対象学級：2 年 7 組　ヒューマンサービス科　介護福祉コース 12 名（女子 9 名，男子 3 名）

Ⅰ．単元名
移動の介護

Ⅱ．単元の目標
移動の意義や目的について理解させるとともに、日常生活を自立的に送るために必要な移動・移乗の介護、活動意欲を高める介護や安全で安楽な移動の介護などを取り上げ、サービス利用者の状態や状況に応じた体位変換、歩行、車椅子など、自立に向けた移動の介護に関する基礎的な知識と技術を習得させる。

Ⅲ．生徒の様子
介護福祉コースの 12 名は介護福祉士国家資格の取得を目指している。生徒人数が 12 名と少ないが、丁寧な説明や声かけが必要な生徒が多い。また、コース全体で課題などに対して途中で諦めたりする雰囲気がある。しかし、今年の 7 月に初めての介護実習を経験し、実際に施設利用者と接することで介護に対する意識が高まった生徒も多く、7 日間の実習をやり遂げたことが生徒たちの自信に繋がったと感じることができた。

Ⅳ．単元の評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日常生活を自立的に送るために必要な移動・移乗の介護、活動意欲を高める介護や安全で安楽な移動の介護の方法について探求しようとしている。	サービス利用者の潜在能力を引き出し、安全で安楽な介護を考え、実践している。	体位変換、歩行、車椅子など、自立に向けた移動の介護に関する基礎的な技術を習得している。	日常生活を自立的に送るために必要な移動の意義や目的について理解している。体位変換、歩行、車椅子など、自立に向けた移動の介護に関する基礎的な知識を身に付けている。

Ⅴ．指導計画
移動の意義と目的
移動・移乗の介護の基本的理解
体位変換
車椅子の介助・・・・・・・・・・・・・本時
歩行介助
移動に用いられる福祉用具

Ⅵ. 本時の指導計画

１．主題名

自立に向けた安全で安楽な車椅子からベッドへの移乗介護

２．目標

①前時に行った移乗介助を振り返り、良い点、改善すべき点に気づく。

②気づいた点を基に班で話し合い、自立に向けた安全で安楽な移乗介護を実践することができる。

３．評価の観点

移乗介助を振り返り、良い点、改善すべき点に気づくことが出来た。【思考・判断・表現】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
前時に録画した移乗介助の動画に対して良い点、改善点気を発言することができたら「B」	気づいた点を発言することができない。 [手立て]気づきに繋がる発問を行う。
「B」に加え，介助の根拠について説明を加えて発言することができれば「A」	

移乗介助の課題に対して、取り組むことが出来た。【関心・意欲・態度】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
班員とともに課題の検討に取り組むことが出来たら「B」	課題検討への参加が消極的である。 [手立て]声をかけ参加を促す。
「B」に加え，班の意見をまとめ，リーダーシップをとることができれば「A」	

自立に向けた安全で安楽な移乗介護の技術について気づくことが出来た。【技能】

「A」　「B」と判断される状況	「C」と判断される状況と指導の手立て
自立に向けた安全で安楽な車椅子からベッドへの移乗介護とは何かに気づくことが出来たら「B」	移乗介護のポイントが理解できていない。 自立に向けた安全で安楽な介護の視点がない。 [手立て]移乗介護のポイントを説明し、気づきに繋がる発問を行う。
「A」なし	

４．本時の展開計画

3 時間目（11：00～11：50）

展開	時間	学習内容	指導内容
導入	10 分	●持ち物、身だしなみの確認	●授業に必要なものが準備できているか、服装、身だしなみが整っているか確認する。
		●本時の目標の確認	●生徒が確認することができるように板書する。 ①前回行った移乗介助を振り返り、良い点、改善点を見つける ②自立に向けた安全で安楽な移乗介護とは何か考える
		●本時の流れの確認	●生徒が確認することができるように板書する。 ①前回の移乗介助を全体で振り返る ②各班で振り返る（プリント記入） ③移乗介護の練習 ④発表 ⑤片付け ⑥プリント記入
展開	40 分	●課題検討（20 分）	●前時に録画した移乗介助の動画をプロジェクターで映し、良い点、改善点を検討する。（2 つの班の全体を映したものと、ウェアラブルカメラで撮影した介護者目線のもの） ○1 班ずつの動画を再生する。iPad を操作し、映像を繰り返し再生し、介助の良い点、改善点について生徒の気づきを発表させる。 ○意見が出ない場合は、映像を止め、発問するなどして生徒の気づきを促す。 ○出てきた意見は、良い点と改善点で分け板書する。
		●介護のポイントをまとめる（10 分）	●課題のポイント、介護のポイントをまとめ板書する。 ・車椅子の点検 ・ボディメカニクスの活用 ・車椅子とベッドとの距離をできるだけ近くする ・麻痺側の保護 ・安全・安楽の視点 ・自立支援の視点 ○介護のポイントをプリントに記入するように指示する。 ○必要であれば介護のデモンストレーションを行う。
		●各班での課題検討（10 分）	●前時に録画した移乗介助の動画を各班で確認し、良い点、改善点を検討する。移乗介護のポイント、検討した点を基に自立に向けた安全で安楽な介護を行う。 ○各グループに iPad を渡し、それぞれで自分たちの介護を確認しながら気づいた点をプリントに記入するよう説明する。 ○各グループを巡回し、気づきを促す声かけを行う。

4時間目（12：00～12：50）

展開	時間	学習内容	指導内容
導入	10分	●本時の流れを確認 ●ベッドメイキング、実技の準備	●班で別れて活動することを説明する。 ●必要物品を揃え（シーツ、車椅子、介助バー）準備するように指示する。
展開	35分	●実技の練習（15分）	●移乗介助のポイント、班で検討した点を基に自立に向けた安全で安楽な介護を実践する。 〇班で検討した点を確認、改善しながら車椅子からベッドへの移乗介護を練習するように指示する。 〇ベッドを巡回し、適時声をかける。
		●実技の発表（15分）	●班で改善した車椅子からベッドへの移乗介護を発表する。 〇くじを引き、発表する班を決める。 〇発表する班の動画を再生し、班の１人が改善する点を発表するよう説明する。 〇班の残り２人が車椅子からベッドへの移乗介護を発表するように指示する。 〇自立に向けた安全で安楽な視点から助言する。
		●片付け（5分）	●使用した物品を片付ける。 〇時間以内に片付けをする指示をする。
まとめ	5分	●本時の目標を振り返る	●本時の感想を書く。 〇本時の目標を確認し、気づいたこと、感想をプリントに書くよう指示する。

生活支援技術

2年　　席　　名前

第4章　移動の介護
3　車椅子の介助

＜課題＞
左半身に麻痺のある利用者さんがいます。車椅子からベッドへの移乗介助を行ってください。

★動画を見て気づいたことをまとめよう

1組目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＜良い点＞	＜気になる点・改善点＞

2組目＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

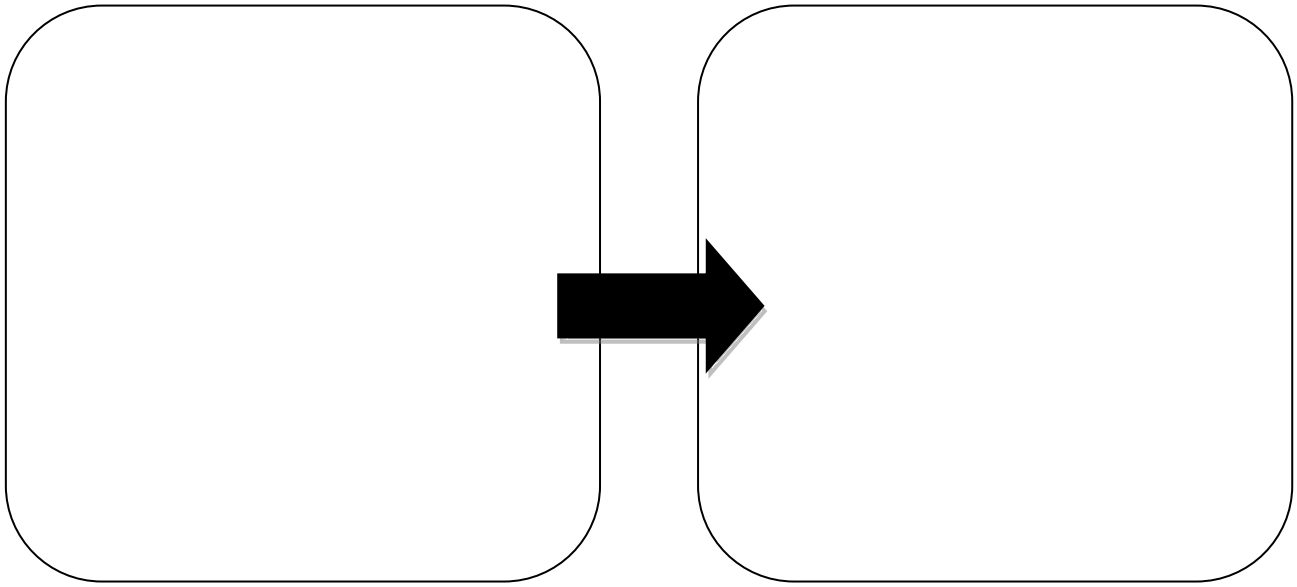
＜良い点＞	＜気になる点・改善点＞

★移乗介護のポイント

★自分たちの班の動画を見ながら介護を振り返り、気づいた点をまとめよう

＜良い点＞

＜気になる点・改善点＞



＜改善のための方法・工夫＞

★本日の気づき・感想

生活支援技術

課題

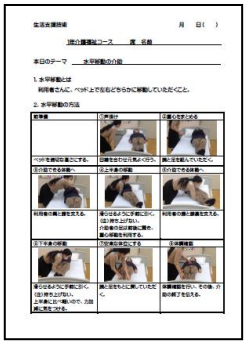
・座学と介護技術の学びをどう行うのか

・こころとからだの理解との連携をどう行うのか
（本校では、カリキュラム的に難しいところがある。生活支援技術を実習前にある程度進めたい。生活支援技術先行型になってしまう。）

・教科書の順番はこれで良いのか（例：ベッドメイクは、睡眠の介護）

実技の授業の流れ

1　プリントにて、今日のテーマを確認。



2　プリントと動画で、
介護の実技ポイントを、確認。

3　デモで、細かい動作の確認

4　各自実技練習

流れを確認

ポイントの確認

身につける

介護技術を身につける
ICT の活用

わかりやすく実技を伝えるために、ICT を活用し授業の展開を行った。まず教員がデモとなる動画の撮影からスタートした。特に基本的介護技術についての確認にもなり、「伊賀白鳳高校スタンダード介護」が教員間で統一できた。

授業で動画活用しながらの授業展開は、「動画と同じプリントを見ながら、介護をみる」というのは、「流れの確認」「ポイントの確認」「身につける」の三段階で行うことにより、理解しやすくはなっているようだ。

しかし動画だけでデモをなくせるかというと、そうではない。動画では、とれない視点があり、やはりデモがないと難しいと実感させられた。教員一人一人の介護スキルは最低限必要だと感じている。仮に動画のみで展開しようとすると、定点撮影でなく、しっかりとポイントを映すカメラワークと編集が必要になる。

動画を配信するかどうか、いつでもみることができるデモなどは、実現できなかった。

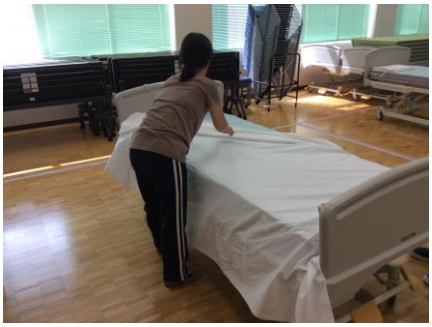
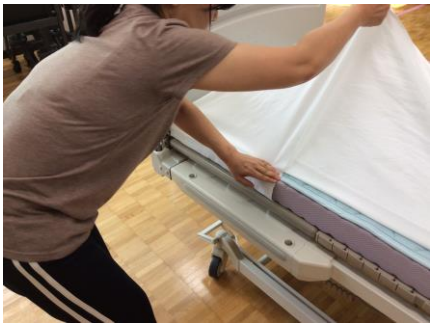
また、基礎的介護技術は、全介助を中心に行っている。一部介助に、状況に合わせて足すというのは、生徒にとり足す材料がわかりづらい。難しい。全解除から、できることを引くイメージの方が伝わりやすいと思い、行っている。

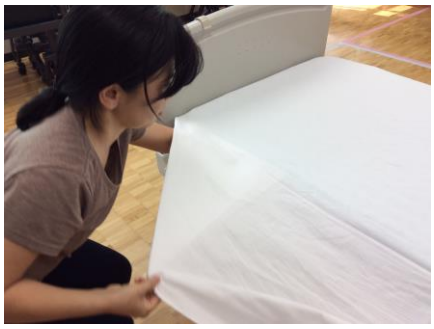
生活支援技術　　月　　日（　　）

１年介護福祉コース　　席　名前

テーマ　　シーツの敷き方をマスターしよう

【手順】

 ①ベッドにシーツを置く。 シーツの輪（つながっている方）が頭側に来るように置く。	 ②シーツを広げる。 ベッドとシーツの中心がずれないよう意識をする。	 ③さらにシーツを広げる。 （１枚目－自分側に） （２枚目－反対側に） 中に空気を入れない。
 ④頭側のシーツをマットレスの下に入れ込む。	 ⑤第１コーナーを作る。 シーツの端を持つ。 （大きな枕を１個置いた時の位置の部分）	 ⑥持ったシーツをマットレスに上げる。 （直角三角形になるように持ち上げる）
 ⑦垂れているシーツを入れ込む。	 ⑧マットレスを持ち上げすぎないように注意する。	 ⑨印の部分を押さえながら・・・ （ボードに近い方の手で押さえる）

 ⑩もう片方の手で三角形の頂点を下ろす。	 ⑪押さえていた手をスッとボード側へ近づけていく。	 ⑫整ったことを確認したら…
 ⑬残ったシーツを入れ込む。三角の部分が崩れないように注意する。 第１コーナーの完成。	 ⑭足側のシーツをマットレスの下に入れ込む。 第２コーナーを作る。 第２コーナーの完成。	 ⑮真ん中のシーツを入れ込む。マットレスに近いシーツを持ち、しわを伸ばす。
 ⑯シーツをしっかり入れ込む。	 ⑰反対側も第３コーナー、第４コーナー、真ん中の順で敷いていく。	⑱完成。

生活支援技術　　月　　日（　　）

1年介護福祉コース　　席　名前

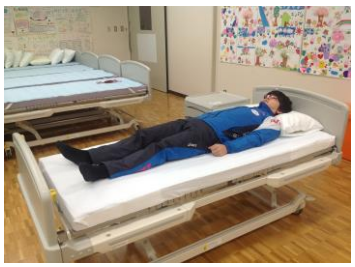
本日のテーマ　　体位変換とは

1. 体位とは

2. 体位変換とは

3. 体位変換の目的

4. 体位の種類

臥位		
		
仰向けの姿勢。 支持面積が広く、全身の緊張が最も少ない。	横向きの姿勢。 右を向いていれば右側臥位、左を向いていれば左側臥位という。	うつ伏せの姿勢。 支持面積が広く、安定した姿勢であるが、胸が圧迫され、呼吸がしづらい。

座位

上半身を約45度に起こした姿勢。

足を長く投げ出して座った姿勢。

ベッドの端に腰掛けた姿勢。

椅子に腰掛けた姿勢。

＊座位のポイント

立位

立っている姿勢。

本日のテーマ　　体位変換とは

1. 体位とは

姿勢・体の位置のこと。

2. 体位変換とは

姿勢を変えること。

介護の現場では、利用者の方の状況やその時の場面に合わせて、
体位変換の介助を行う。

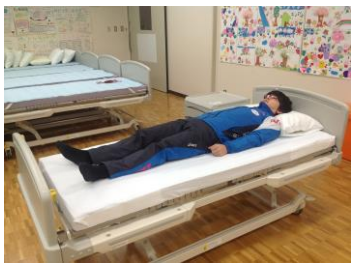
3. 体位変換の目的

・褥瘡、関節の拘縮、骨や筋肉の萎縮などの予防（約2時間おき）

・次の起居動作につなげる

・気分転換

4. 体位の種類

<table>
<tr><th colspan="3">臥位</th></tr>
<tr><th>仰臥位</th><th>側臥位</th><th>腹臥位</th></tr>
<tr><td>  </td><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>仰向けの姿勢。
支持面積が広く、全身の緊張が最も少ない。</td><td>横向きの姿勢。
右を向いていれば右側臥位、左を向いていれば左側臥位という。</td><td>うつ伏せの姿勢。
支持面積が広く、安定した姿勢であるが、胸が圧迫され、呼吸がしづらい。</td></tr>
</table>

座位

半座位（ファーラー位）

上半身を約45度に起こした姿勢。

長座位

足を長く投げ出して座った姿勢。

端座位

ベッドの端に腰掛けた姿勢。

椅座位

椅子に腰掛けた姿勢。

＊座位のポイント

①深く腰掛けている。

②足底が床にしっかりついている。

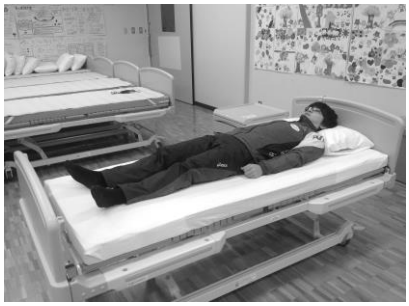
③膝の内角が90度以内である。

立位

立っている姿勢。

小テスト　　1年介護福祉コース　　席　名前

1. 下記の図を見て、体位の名称を答えなさい。＊漢字で書くこと



2. 座位のポイントを3つ全て答えなさい。

生活支援技術　　月　　日（　　）

1年介護福祉コース　　席　名前

本日のテーマ　　声の掛け方

Q. 声掛けをする際に大切なことってなんでしょう？

1. 声掛けのポイント

2. 事例　ベッドで仰向けに寝ている伊賀太郎さん（寝たきり状態）に、
これから横向きで寝ていただく介助をしたいと思います。
どのような声掛けをしますか？　なお、現在は朝9時です。

本日のテーマ　　声の掛け方

Q. 声掛けをする際に大切なことってなんでしょう？

1. 声掛けのポイント

・視線を合わせる

・適度な声の大きさで話す

・話すスピードに気をつける

・一方的にならないようにする（相手の反応を見る）

2. 事例　ベッドで仰向けに寝ている伊賀　太郎さん（寝たきり状態）に、
これから横向きで寝ていただく介助をしたいと思います。
どのようなお声掛けをしますか？　なお、現在は朝9時です。

おはようございます。

伊賀　太郎さん。

担当の○○　○○（自分のフルネーム）です。

今の体調はいかがですか。

これから、横を向いて寝ていただきたいと思います。
よろしいですか。

} 説明と同意
（インフォームド・コンセント）

生活支援技術　　月　　日（　　）

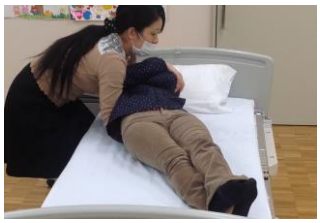
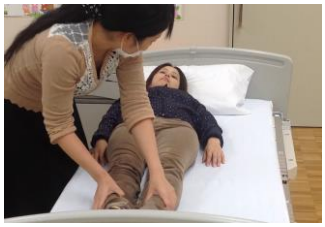
1年介護福祉コース　　席　名前

本日のテーマ　　水平移動の介助

1. 水平移動とは

利用者さんに、ベッド上で左右どちらかに移動していただくこと。

2. 水平移動の方法

前準備	①声掛け	②重心をまとめる
ベッドを適切な高さにする。	目線を合わせ元気よく行う。	腕と足を組んでいただく。
③介助できる体勢へ	④上半身の移動	⑤介助できる体勢へ
		
利用者の肩と腰を支える。	滑らせるように手前に引く。 （注）持ち上げない。 介助者の足は前後に開き、 重心移動を利用する。	利用者の腰と膝裏を支える。
⑥下半身の移動	⑦安楽な体位にする	⑧体調確認
		
滑らせるように手前に引く。 （注）持ち上げない。 上半身に比べ軽いので、力加減に気をつける。	腕と足をもとに戻していただく。	体調確認を行い、その後、介助の終了を伝える。

生活支援技術　　月　　日（　　）

1年介護福祉コース　　席　名前

本日のテーマ　仰臥位から側臥位への介助（体位変換）

1. 仰臥位から側臥位への介助方法

<table>
<tr><td>①声掛け・準備</td><td>②重心をまとめ、水平移動</td><td>③反対側に回る</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>目線を合わせ元気よく行う。
ベッドの高さを調整する。</td><td>移動する前に枕の位置を確認する。
移動後は体調確認を行う。</td><td>反対側に回ることを利用者に伝える。</td></tr>
<tr><td>④足を立てていただく</td><td colspan="2">⑤横向きになる</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>自力で立てることが難しい場合はお手伝いする。</td><td colspan="2">先に顔の向きを変える。（枕の位置も確認する）
利用者の肩と膝を支え、膝・肩の順番で手前に倒す。
（注）横向くタイミングを伝える。「1・2・3」など。</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑥安楽な体位にする</td><td>⑦体調確認</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>腰の下に手を入れ、利用者の体が「くの字」になるように後ろに引く。</td><td>関節どうしが当たらないよう手足の位置を調整する。</td><td>体調確認を行い、その後、介助の終了を伝える。</td></tr>
</table>

生活支援技術　　月　　日（　　）

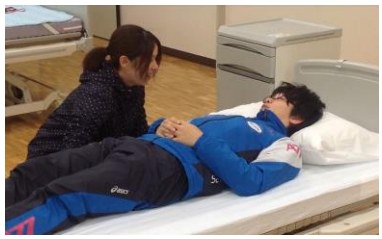
1年介護福祉コース　　席　名前

本日のテーマ　上方移動の介助

1. 上方移動とは

ベッドの下の方で寝てしまっている利用者さんに、ベッドの中心で寝ていただけるように上の方に移動していただくこと。

2. 上方移動の方法

①声掛け・準備（ベッドの高さ）	②枕の移動	③重心をまとめる
		
目線を合わせ元気よく行う。	ヘッドボードに立てかける。	腕を組んでいただく。
④膝を立てる	**⑤介助できる体勢へ**	**⑥動きの説明**
ベッドを蹴りやすい角度に膝を立てていただく。	介助者の腕は、利用者の肩と臀部に添える。 介助者の足は肩幅に開く。	できることはしていただけるように伝える。
⑦移動	**⑧枕を直し体調確認**	
滑らせるようにベッド上方へ。 （注）持ち上げない。	体調確認を行い、その後、介助の終了を伝える。	

生活支援技術（医療的ケア）

喀痰吸引　①口腔内吸引

回数				(1)回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目	( )回目
月日				10月5日					
時間				14:00					
準備	1	医師の指示等の確認を行う 「A様　口腔内吸引深さ10㎝　15秒以内」 医師の指示書の確認ができたか	利用者の名前、吸引圧、吸引時間、挿入出来る深さ、留意点を確認する。						
	2	消毒薬は手洗いを行う 正しい方法で、手洗いが行えたか	正しい方法で、手洗いを行う。						
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する 水を入れたか・スイッチを入れたか＊1	必要物品が揃っているか確認する。 電源を入れ、吸引圧が正常に動作するか確認する。						
	4	必要物品を利用者の元へ運ぶ 使用しやすい場所におけているか	使用しやすい場所に、物品を置く。						
実施	5	利用者に吸引の説明をする 「今から吸引をさせていただきます。よろしいでしょうか」 吸引の説明ができたか	吸引チューブを口の中に入れ、吸引することを説明する。						
	6	吸引の環境・利用者の姿勢を整える プライバシーカーテンを閉め、枕の下にタオルを入れたか	プライバシー保護のため、カーテンを閉める。 吸引チューブを挿入しやすいように、枕の位置を整える。						
	7	口腔内を観察する 口腔状態を顔色を確認できたか	口腔状態、顔色・表情、義歯の状態、痰の絡む音、口腔内の貯留物場所や食物残渣の確認する。						
	8	手袋の着用 適切に着用できたか	使い捨て手袋の使用。						
	吸引の実施 9	吸引チューブを清潔に取り出す チューブの連結部分を持ち、チューブはどこにも触れないように取り出すことができたか	吸引チューブを、周囲に触れないように清潔に取り出す。						
	吸引の実施 10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する 吸引チューブを、周囲に触れないように清潔に連結できたか	吸引チューブを、周囲に触れないように清潔に連結する。						
	吸引の実施 11	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する 「吸引圧20」吸引圧の確認ができたか	洗浄水を吸い、吸引圧が指示通りか確認する。						
	吸引の実施 12	吸引チューブの先端の水をよく切る 水滴がついていないか確認できたか	水を良く切る。						
	吸引の実施 13	利用者に吸引開始について声かけを行う 「今から吸引をします」吸引開始の声かけができたか	吸引チューブを入れ、痰の吸引をすることに、声掛け協力を得る。						
	吸引の実施 14	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する 「口腔内吸引深さ10㎝　15秒以内」 挿入時は圧をかけずに挿入できたか＊2	チューブは、鉛筆を持つように持ち、圧がかからないように、指示された深さまで挿入する。						
	吸引の実施 15	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する 「吸引圧20」　メーターを目視できたか	親指を、少しずつ解放し、圧をかけ、一箇所に吸引圧がかからないように、吸引チューブを回しながら操作する。						
	吸引の実施 16	吸引チューブを静かに抜く 吸引チューブを回転させながら静かに抜くことができたか	吸引時間を守り、刺激しないようにする。 吸引チューブを回転させながら、静かに抜く。						
	17	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く 一方向に一度だけ拭くことができたか	吸引チューブの外側を連結部から外側に向かって一方向に一度だけ拭く。						
	18	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす 洗浄水を吸引し、洗浄できたか	吸引チューブ内側の汚れが落ちるまで、洗浄水を吸引する。						
	19	吸引器の電源を切る 吸引チューブを持っていない手で電源を切ったか	吸引チューブを持っていない手で、電源を切る。						
	20	吸引チューブを連結管からはずし保管容器に入れるか廃棄 吸引チューブを保管容器に確実に納めたか	吸引チューブを保管容器に確実に納める。 連結管に残っている吸引物を吸引びんに流す。						
	21	手袋をはずす 手袋が周囲に触れないように外せたか	汚染した手袋が周囲に触れないよう外し、破棄する。						
	22	利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える 「たんはとれましたか」「大丈夫ですか」 声かけをし、枕の下のタオルをはずしたか	吸引が終了したこと、痰が取れたかを確認する。 姿勢を整え、これで良いか確認する。						
	23	吸引物および利用者の状態を観察する 「利用者さんの状態を観察する」・排液を指差し確認できたか	吸引した痰の量や、性状の確認する。 利用者の全身状態の観察観察項目（＊3　　）						
	24	利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する 「利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する」 観察できたか	利用者の全身状態の観察観察項目（＊3　　）						
	25	手洗いをする 正しい方法で、手洗いが行えたか	正しい方法で、手洗いする。						
報告	26	吸引物および利用者の状態を報告する 「吸引物、利用者様、異常ありませんでした」適切に報告できたか	吸引した痰の量や、性状・利用者の状態の報告する。						
	27	ヒヤリハット・アクシデントの報告 「ヒヤリハット・アクシデントはありませんでした」適切に報告できたか	ヒヤリハット・アクシデントの有無を報告する。						
片づけ	28	吸引びんの排液量が70～80%になる前に排液を捨てる 「排液を捨てる」排液を捨てたか	排液量を確認する。						
	29	使用物品を速やかに後片づけまたは交換する 「片付ける」使用物品を片付けたか＊4	吸引チューブの損傷。→破棄する。 清浄線は破棄する。 必要物品の補充						
記録	30	実施記録を記載する 「記録する」適切に記録できたか	実施日時、吸引内容物の量・性状、利用者の訴え、一般状態、特記事項を記入する。						

備考

＊1　必要物品　トレーの中に保管容器(ふた付き)、吸引チューブ、洗浄綿、洗浄水、手袋

＊2　チューブをおる

＊3　観察項目（表情、顔色・呼吸状態・嘔気嘔吐の有無・出血、傷の有無・貯留物の残留の有無、痰のからむ音の消失の有無

＊4　使用物品　トレーの中に保管容器(ふた付き)、吸引チューブ、洗浄綿、洗浄水、手袋

介護職員等喀痰吸引指示書

標記の件について、下記のとおり指示いたします。

指示期間（平成　　年　　月　　日～　　年　　月　　日）

事業者		事業者種別	
		事業者名称	
対象者	名前	A様	（生年月日）　明・大・昭・平　　年　　月　　日　（　）歳
	住所	TEL:	
	要介護認定区分	要支援（　1　2　）　要介護（　1　2　3　4　5　）	
	障害程度区分	区分1　区分2　区分3　区分4　区分5　区分6	
	主たる疾患(障害)名		
実施行為種別		・口腔内吸引　・鼻腔内吸引　・気管カニューレ内部の吸引 ・胃ろうによる経管栄養　・腸ろうによる経管栄養　・経鼻経管栄養	
指示内容	具体的な提供内容		
	喀痰吸引（吸引圧、吸引時間、注意事項等を含む） 吸引圧　20kPa以下　　口腔・鼻腔カニューレ内の深さ　10cm 口・鼻の吸引時間　15秒以内　（右の鼻腔は、出血しやすいので注意する） 気管カニューレ内部の吸引時間　10秒以内		
	経管栄養（栄養剤の内容、投与時間、投与量、注意事項等を含む）		
	その他留意事項（介護職員等）		
	その他留意事項（看護職員等）		
（参考）使用医療機器等	1.経鼻胃管	サイズ：　＿＿＿Fr、種類:	
	2.胃ろう・腸ろうカテーテル	種類：ボタン型・チューブ型、サイズ型＿＿＿Fr、＿＿＿cm	
	3.吸引器	小型吸引機3WAY－750（ブルークロス） 吸引チューブ 口・鼻：14Fr 40ｃｍ　気管カニューレ内部　12Fr 50cm	
	4.人工呼吸器	機種：	
	5.気管カニューレ	サイズ：外径＿＿＿mm、長さ＿＿＿mm	
	6.その他		
緊急時の連絡先 不在時の対応法			

※1.「事業者種別」欄には、介護保険、障害者自立支援法等による事業の種別を記載すること。

※2.「要介護認定区分」又は「障害程度区分」欄、「実施行為種別」欄、「使用機器欄」については、該当項目に○を付し、空欄に必要事項を記入すること。

上記のとおり、指示いたします。

平成２９年１２月？日

機関名　伊賀白鳳高等学校クリニック

住所　三重県伊賀市緑ヶ丘西町２２７０－１

電話　0595－21－7969

医師名　伊賀白鳳　太郎　印

（登録喀痰吸引等（特定行為）事業者の長）　殿

		評価項目	評価の視点	エビデンス
準備	1	医師の指示等の確認を行う 「A様　口腔内吸引深さ10㎝　15秒以内」 医師の指示書の確認ができたか	利用者の名前、吸引圧、吸引時間、挿入出来る深さ、留意点を確認する。	吸引圧、吸引時間、深さは、利用者によって違う。 安全・安楽の確認。
	2	消毒薬は手洗いを行う 正しい方法で、手洗いが行えたか	正しい方法で、手洗いを行う。	感染予防
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する 水を入れたか・スイッチを入れたか＊１	必要物品が揃っているか確認する。 電源を入れ、吸引圧が正常に動作するか確認する。	物品が揃っていない→出来ない→利用者の負担・不安・安全・安楽 圧が高い→出血　粘膜を傷つける
	4	必要物品を利用者の元へ運ぶ 使用しやすい場所におけているか	使用しやすい場所に、物品を置く。	チューブ等、利用者さんに届く、水平な場所に吸引器を置く。 確実に、正確に痰を引くこと。（安全・安楽）
実施	5	利用者に吸引の説明をする 「今から吸引をさせていただきます。よろしいでしょうか」 吸引の説明ができたか	吸引チューブを口の中に入れ、吸引することを説明する。	信頼関係（←勝手にしない） 説明なく実施すると、利用者が驚く。 緊張につながり、口が開かないや顔に力が入り、安全安楽が保てない。
	6	吸引の環境・利用者の姿勢を整える プライバシーカーテンを閉め、枕の下にタオルを入れたか	プライバシー保護のため、カーテンを閉める。 吸引チューブを挿入しやすいように、枕の位置を整える。	プライバシーの確保。 尊厳の保持。 枕・タオル等を頭の下に置き、口の中が見やすいようにする。
	7	口腔内を観察する 口腔状態を顔色を確認できたか	口腔状態、顔色・表情、義歯の状態、痰の絡む音、口腔内の貯留物場所や食物残渣の確認する。	安全・安楽。 痰の状態を把握。 緊急性対応。
	8	手袋の着用 適切に着用できたか	使い捨て手袋の使用。	清潔に吸引チューブを扱う。 実施者の痰の分泌物から守る。
	9	吸引チューブを清潔に取り出す チューブの連結部分を持ち、チューブはどこにも触れないように取り出すことができたか	吸引チューブを、周囲に触れないように清潔に取り出す。	不潔にならないように。
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する 吸引チューブを、周囲に触れないように清潔に連結できたか	吸引チューブを、周囲に触れないように清潔に連結する。	不潔にならないように。
	11	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する 「吸引圧20」吸引圧の確認ができたか	洗浄水を吸い、吸引圧が指示通りか確認する。	水を吸うことで、安全・安楽に、吸うことが出来るか確認。 水を吸うことで、滑りを良くする。 吸引物の通りを良くし、痰の付着をしにくくする。
	12	吸引チューブの先端の水をよく切る 水滴がついていないか確認できたか	水を良く切る。	水滴が入ると、誤嚥の原因となり、安全・安楽が保てない。
	13	利用者に吸引開始について声かけを行う 「今から吸引をします」吸引開始の声かけができたか	吸引チューブを入れ、痰の吸引をすることに、声掛け協力を得る。	吸引して良いか、伺う。（自立支援） 言葉遣いに気をつける。（尊厳の保持）
	14	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する 「口腔内吸引深さ10㎝　15秒以内」 挿入時は圧をかけずに挿入できたか＊２	チューブは、鉛筆を持つように持ち、圧がかからないように、指示された深さまで挿入する。	医師の指示通りの深さ。（安全・安楽）
	15	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する 「吸引圧20」　メーターを目視できたか	親指を、少しずつ解放し、圧をかけ、一箇所に吸引圧がかからないように、吸引チューブを回しながら操作する。	粘膜を傷つけないようにするため。（安全・安楽）
	16	吸引チューブを静かに抜く 吸引チューブを回転させながら静かに抜くことができたか	吸引時間を守り、刺激しないようにする。 吸引チューブを回転させながら、静かに抜く。	粘膜等が出血しやすい状況になっていることが予想される。（安全・安楽）
	17	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く 一方向に一度だけ拭くことができたか	吸引チューブの外側を連結部から外側に向かって一方向に一度だけ拭く。	痰・唾液等の分泌物は、多くの細菌を含む（感染予防）
	18	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす 洗浄水を吸引し、洗浄できたか	吸引チューブ内側の汚れが落ちるまで、洗浄水を吸引する。	痰・唾液等の分泌物は、多くの細菌を含む（感染予防）
	19	吸引器の電源を切る 吸引チューブを持っていない手で電源を切ったか	吸引チューブを持っていない手で、電源を切る。	吸引チューブを持っている手、持っていない手と決めることで清潔を保つ。（感染予防）
	20	吸引チューブを連結管からはずし保管容器に入れるか廃棄 吸引チューブを保管容器に確実に納めたか	吸引チューブを保管容器に確実に納める。 連結管に残っている吸引物を吸引びんに流す。	感染予防。
	21	手袋をはずす 手袋が周囲に触れないように外せたか	汚染した手袋が周囲に触れないよう外し、破棄する。	汚染した側を中に入れる。（感染予防）

		評価項目	評価の視点	エビデンス
	22	利用者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える 「たんはとれましたか」「大丈夫ですか」 声かけをし、枕の下のタオルをはずしたか	吸引が終了したこと、痰が取れたかを確認する。 姿勢を整え、これで良いか確認する。	尊厳の保持・安全・自立支援。
	23	吸引物および利用者の状態を観察する 「利用者さんの状態を観察する」・排液を指差し確認できたか	吸引した痰の量や、性状の確認する。 観察項目（　　）	安全・安楽。
	24	利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する 「利用者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する」 観察できたか	（　　）	安全・安楽。
	25	手洗いをする 正しい方法で、手洗いが行えたか	正しい方法で、手洗いする。	感染予防。
報告	26	吸引物および利用者の状態を報告する 「吸引物、利用者様、異常ありませんでした」適切に報告できたか	吸引した痰の量や、性状・利用者の状態の報告する。	安全・安楽。
	27	ヒヤリハット・アクシデントの報告 「ヒヤリハット・アクシデントはありませんでした」適切に報告できたか	ヒヤリハット・アクシデントの有無を報告する。	リスクの回避。事故予防・安全。
片づけ	28	**吸引びんの排液量が**70～80%になる前に排液を捨てる 「排液を捨てる」排液を捨てたか	排液量を確認する。	機器の故障を防ぐ。 排液は、感染源となり得るので、適切に処理・洗浄。（感染予防）
	29	使用物品を速やかに後片づけまたは交換する 「片付ける」使用物品を片付けたか＊4	吸引チューブの損傷。→破棄する。 清浄線は破棄する。 必要物品の補充。	安全・感染予防。
記録	30	実施記録を記載する 「記録する」適切に記録できたか	実施日時、吸引内容物の量・性状、利用者の訴え、一般状態、特記事項を記入する。	観察による安全確認。

三重県立伊賀白鳳高等学校

研究主題

地域の福祉を担う人材として
必要な福祉観の醸成を図るための
教育内容及び教育方法の工夫改善

地域の課題

介護人材不足

保育士不足

福祉・医療系の人材不足

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	合計
介護職希望者	15	19	11	16	10	12	83
伊賀管内	15	19	11	14	9	12	80
割合	100.0%	100.0%	100.0%	87.5%	90.0%	100.0%	96.4%

介護就職者の地域就職率

地域とのつながりの中で

- 生徒が何を学ぶのか
- 無理がないのは、どこなのか
- そのものが、学校や生徒にメリットがあるものか

その１

地域介護サポーター養成講座

その２

専門職の講座

その３

インターンシップ

その４

伊賀版デュアルシステム

3年
6単位
毎週木曜日

その５

卒園式の花を育てよう

その６

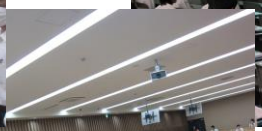
バス会社との連携

その7

パネルシアター

その8

大学・短大との連携



その9　手話　（伊賀市の手話通訳士）

その10　卒業生講話

その11

施設見学

その12

介護実習

その13 伊賀市子育て支援センター

その14 保育園の壁面を飾ろう

その15

小学校5年生向けの講座

その16

伊賀警察署と連携

伊賀白鳳高生 防犯団体に委嘱

お年寄り見守りに

詐欺注意をプラス

その17

小学校低学年向け防犯教室

その18

地域の見守り支援

その19

白鳳Café

その20

高齢者いきいきサロン

その21

ゆるキャラと共同募金
（いが★グリオ）

その22

東海地区
高校生介護技術コンテスト

その23

みえ介護技術コンテスト
（一般の介護技術コンテストに）

その24

服のチカラプロジェクト
ユニクロ

その25

地区のお祭り

その？

その他にも

三重県産業教育フェア
高校生活入門講座
実習施設連絡会議
施設の職員研修講師
□
□

IGA HAKUHO

IGA HAKUHO

ありがとうございました

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト

平成２９年８月２３日

予備日　８月２４日

三重県立伊賀白鳳高等学校

平成２９年７月６日

関係高等学校長　様

全国福祉高等学校長会
東海地区理事　村田　武俊
（三重県立伊賀白鳳高等学校長）

第４回東海地区高校生介護技術コンテストについて（依頼）

盛夏の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は、東海地区の福祉教育の推進につきまして御理解・御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、表題の件につきまして、下記の通り開催いたしますので、生徒の参加について御配慮いただきますようよろしくお願いいたします。

記

１　募集要項

２　実施規則

３　審査項目

４　参加申込書

５　出場校の先生方へのお願い

６　台風時、東海地震等非常時における東海地区高校生介護技術コンテストについて

事務担当
三重県立伊賀白鳳高等学校
ヒューマンサービス科
鈴木　幹治
℡　0595-21-2110

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト募集要項

１　概　要

福祉を学ぶ高校生が、課題事例に対する介護技術とアピールを競い合うことにより、日頃の学習活動で身につけた介護技術の向上を図るとともに、様々な介護の場面において、適切かつ安全に支援できる能力と態度を育成することを目的とする。

また、東海地区で福祉を学ぶ高校生の相互交流の場とする。

２　出場資格

東海地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒　１校１チームとし、各県より２校まで出場することができる。

（ただしチームは同一校２名か３名で構成し、その内２名を競技選手とする）

３　日　程

⑴ 期日

平成２９年８月２３日（水）　予備日８月２４日（木）

⑵ 時間（予定）※変更の可能性あり

11：00～11：15	受付・競技順抽選（受付順に抽選を行います。）
11：15～11：30	開会式
11：30～12：30	昼食（なお出場者の昼食及び更衣は、12:10 までに済ませておくこと）
12：10	選手集合
12：30～12：45	課題説明等
12：45～14：45	競技
14：45～15：15	交流会
15：15～15：45	閉会式

４　会　場

三重県立伊賀白鳳高等学校

５　内　容

別紙「第４回東海地区高校生介護技術コンテスト実施規則」による。

６　交通費

出場者および引率者の交通費については各校負担とする。

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト実施規則

１　実施方法

⑴ 競技内容　　課題に対する介護技術を競う。

⑵ 競技時間　　介護技術　　７分
　　アピール　　２分
　　（別室での課題検討時間は25分）

⑶ 課　　題　　「A 移動の介護　B 排泄の介護　C 身じたくの介護　D 食事の介護」のうち、Ａ～ＤまたはＡ～Ｄを組み合わせたものとする。課題作成者は三重県福祉高等学校福祉教育研究会会長校が委嘱する。
※　審査項目及び利用者の基本情報等は、８月上旬に出場校に連絡する。

⑷ 出場資格　　東海地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒　１校１チーム
※ただしチームは同一校２名か３名で構成し、その内２名を競技選手とする。

⑸ 利用者役　　審査員が兼ねる

２　審査方法

⑴ 審査対象　　課題に対する介護技術とアピールを総合的に審査する。

⑵ 審 査 員　　高等学校の福祉教育に理解の深い学識経験者及び高等学校福祉科教員とする。高等学校福祉科教員については、東海地区４県から１名ずつ学科主任等をもってあてる。

⑶ 審　　査　　別途作成する審査用紙に基づいて行う。審査委員長と、４名の審査員で審査する。

３　表　　彰

入賞者に対して表彰を行う。最優秀賞１校、優秀賞１校、優良賞６校を選出する。
また、最優秀賞校は、第２７回全国産業教育フェア秋田大会における第６回全国高校生介護技術コンテストへ東海地区代表として出場する権利を有することとする。何らかの理由で最優秀賞校が出場できない場合は、優秀賞校が代表となる。

４　競技上の注意事項

⑴ 選手の服装は、各学校指定の実習服等と介護用シューズとする。

⑵ 選手は、財布、携帯電話等の貴重品を引率教員に預ける。

⑶ 競技は会場に準備された物品を用いて行うこととし、その他の物品を競技会場へ持ち込むことはできない。

⑷ 選手は、受付終了後、競技中一切の指導助言を受けることはできない。また、何人も選手に対して指導助言を与えてはならない。

⑸ 競技中の選手の交代はできない。また、審査員の許可なく会場を離れた場合は、失格とする。

⑹ 報道関係への写真掲載等について、各校にて本人の了承を得、不都合がある場合は開催校に報告する。

５　その他

⑴　控室及び課題検討室へ入室できるのは、選手２名アシスタント１名とする。その際の持ち物は、飲み物及びタオル類のみとする。

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト審査項目

・課題に対する介護技術とアピールについて、以下の項目を総合的に審査する。

内容	項　　目	備　　考
介護技術	コミュニケーション	
	プライバシーへの配慮	
	自己決定の尊重	
	自立支援	
	意欲を引き出す工夫	
	安全・安楽への配慮	
	個別因子や環境因子に応じた介護	
	介護者同士の連携	
	時間	７分以内で終了する
アピール	エビデンスに基づく介護	２分以内で終了する
	創意工夫のある介護	

別　紙

整理番号	

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト参加申込書

平成２９年　　月　　日

<table>
<tr><td rowspan="2">学校名</td><td colspan="4">高等学校</td></tr>
<tr><td>学　科
（系列・コース）</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>所在地</td><td colspan="4">〒</td></tr>
<tr><td>ＴＥＬ</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>ＦＡＸ</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>E-mail</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">担当者
(引率者)</td><td rowspan="2">職　名</td><td rowspan="2"></td><td>ふりがな</td><td></td></tr>
<tr><td>名　　前</td><td></td></tr>
<tr><td>生徒名</td><td colspan="2">学　年</td><td>性　別</td><td>ふりがな
名　　前</td></tr>
<tr><td rowspan="3">選　手</td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
</table>

※整理番号の欄は、何も記入しないこと。

コンテスト出場校の先生方へお願い

当日会場内で待機していただく時間に上映する「出場選手紹介ビデオ」を作成する予定です。以下のようにお願いいたします。

１　内　　容　　①　出場選手の写真
写真データは、サイズが大きいものをおねがいします。
別添、DVD または USB メモリで送付おねがいします。

②　出場選手のコンテストに向けての一言コメント
（例：「連携を大切にした介護の実践！」１５文字以内）

③　テーマソング（データでも、曲名だけの報告でもかまいません）
使用場所は指定できません。

２　提出期限　　８月８日（火）（必着）

３　提出方法　　郵送

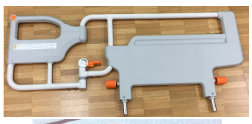
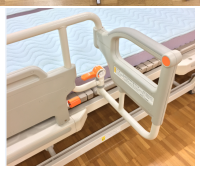
４　提 出 先　　三重県伊賀市緑ヶ丘西町２２７０－１
三重県立伊賀白鳳高等学校　鈴木　幹治

①　選手ひとりひとりの写真
②　選手３人での写真（１～３枚程度）
③　練習中の様子（５枚程度）
④　学校風景（１～３枚程度）

第4回東海地区高校生介護技術コンテスト　事前課題

課　　題	伊賀野（いがの）くにさん（82歳・女性）は、3年前に脳梗塞のため左上下肢麻痺となり、特別養護老人ホームに入所しました。 耳は聞こえづらいですが、相手の言うことは理解できます。	
	健康状態 心身機能 身体状況	3年前に脳梗塞発症 左上下肢麻痺 老人性難聴 要介護度2
	活動	移動は、介助が必要。 着替えは、介助が必要。 コミュニケーションは「うなづく」または、「首をふる」で意思を表すことができる。 利き手は右。 介助があれば数歩、歩くことができる。 普段の移動は、車いす介助で移動。 座位は、保つことができる。
	個人因子	テレビの時代劇(水戸黄門)が好き。 趣味は茶道。
	環境因子	暮らしていた家は、畳が多い和風の家。 専業主婦で子どもはいない。 夫は半年前に他界している。

第4回東海地区高校生介護技術コンテスト（物品リスト・利用者情報）　　※サイズ　W（幅）×D（奥行）×H（高さ）cm

名称	収納棚・タオル棚	名称	床頭台	名称	介助バー	名称	車椅子
サイズ	38.5×46×78	サイズ	45.4×47×78	サイズ	110×4×43	サイズ	60×103×86
メーカー	SANIDEA	メーカー	パラマウントベッド株式会社	メーカー	パラマウントベッド株式会社	メーカー	KAWAMURA
品番	30　frog	品番	F570A---0110G	品番	スイングアーム介助バー KS-096	品番	KA-820
備考	上部の色違い（青・赤・茶）があります	備考	キャスターがついています	備考	可動式でロックを解除すると動きます	備考	サイドレール跳ね上げ可、フットレスト可動あり他
写真		写真		写真	 	写真	
名称	衣類棚	名称	ベッド（コンテスト会場）	名称	ベッド（課題検討室用）	名称	靴
サイズ	56×41×81	サイズ	212.3×99.9×61.7～105.2	サイズ	94.6×211.4×622～952	サイズ	24.0～24.5
メーカー	不明	メーカー	パラマウントベッド株式会社	メーカー	パラマウントベッド株式会社	メーカー	アズワン株式会社
品番	不明	品番	楽匠Zシリーズ（3モーションタイプ） KQ-7331	品番	KA-2097C	品番	すたこらさん　ソフト　ブラック
備考	4段の棚です。	備考		備考		備考	課題検討室には置いていません
写真		写真		写真		写真	マジック テープ式 の靴です

第4回東海地区高校生介護技術コンテスト（物品リスト・利用者情報）

名称	TV	名称	リモコン
サイズ	パソコン用のモニターですが TV代わりに設置しています	サイズ	4.8×14.5×2.5
メーカー		備考	プロジェクター用のリモコンですが TV用のリモコン代わりに設置しています ボタン部分の色違いがあります
品番			
備考	電源は入りません		
写真		写真	

以下の物品が競技エリア内に配置してあります。

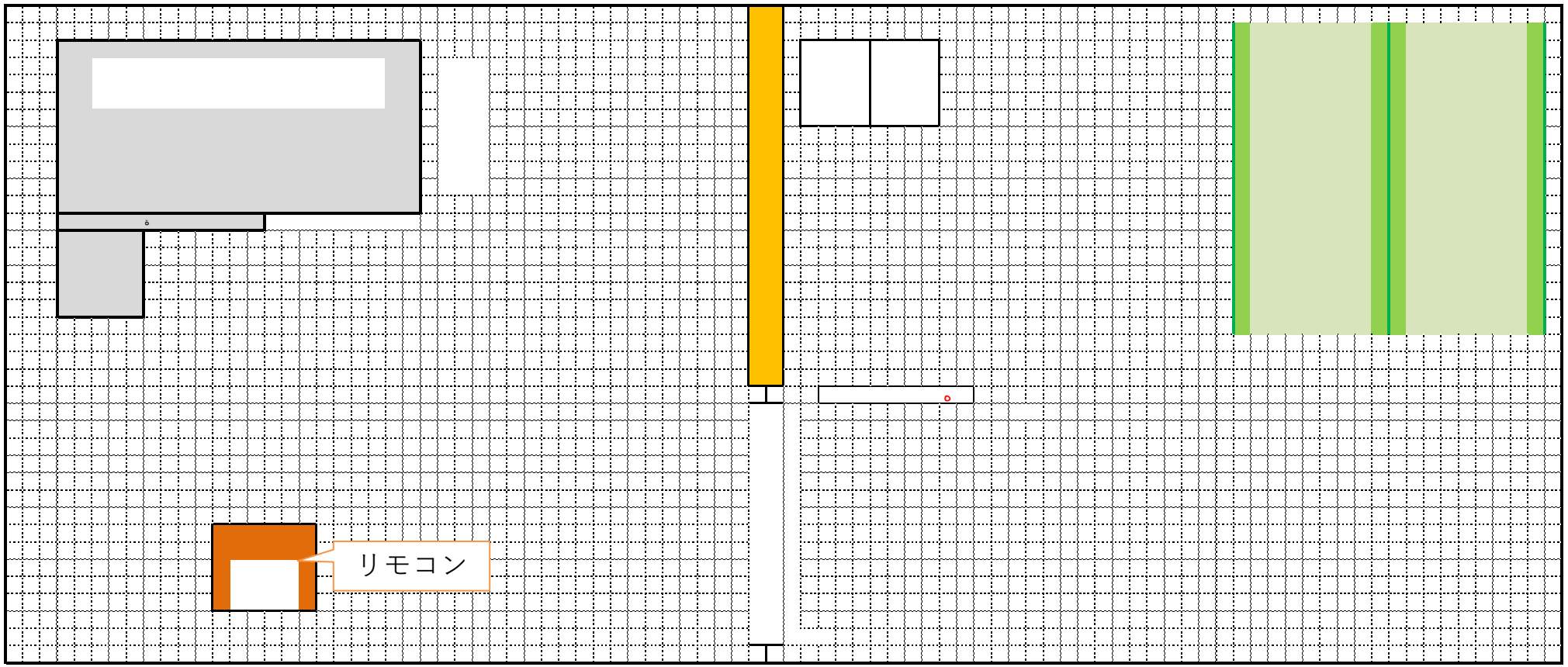
寝衣上下（前開き）	1セット
着替え上下	1セット
トレーナー（上のみ）	1枚
カーディガン	1枚
バスタオル	2枚
ハンドタオル	6枚
レクリエーション用マジック	1セット
レクリエーション用色鉛筆	1セット
レクリエーション用折り紙	1箱

利用者役情報

身長は約160cmです。

女性の方です。

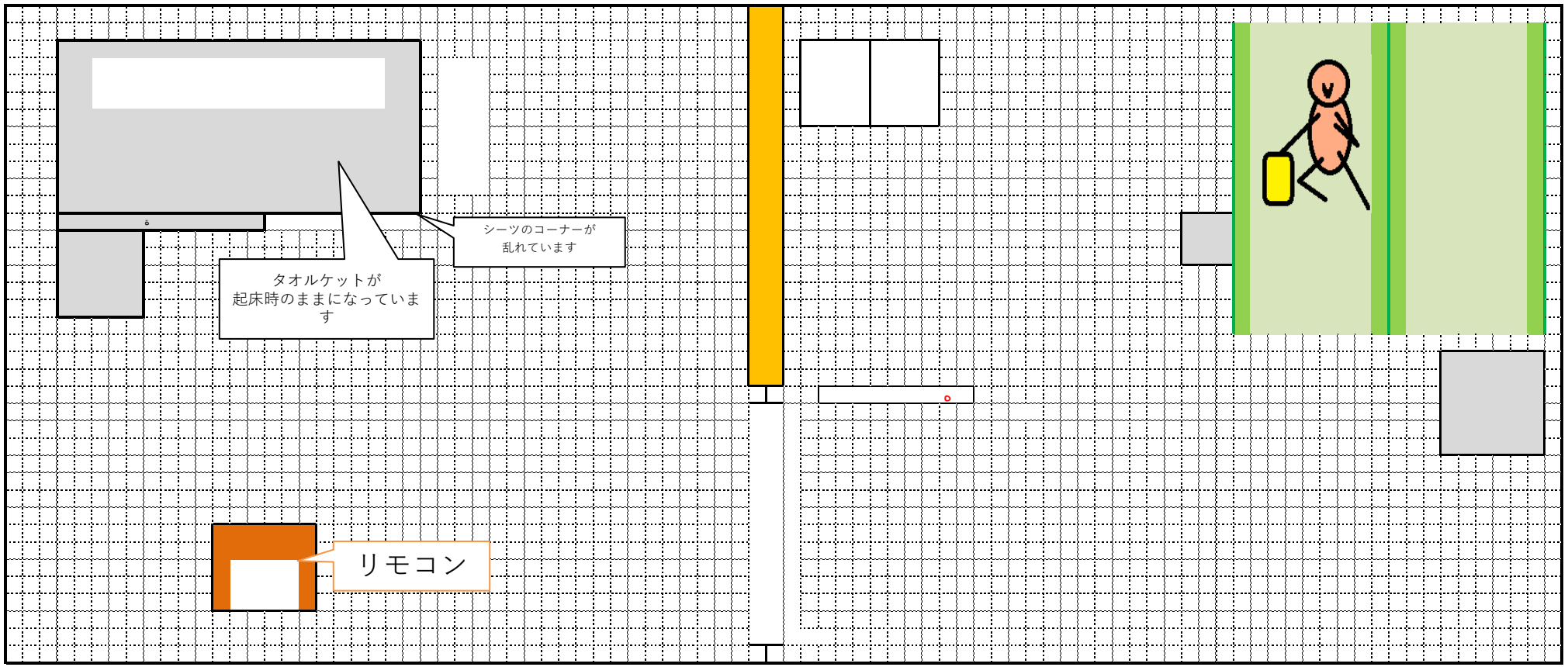
ة غ ۏ



第4回東海地区高校生介護技術コンテスト　当日課題

課　　題	伊賀野（いがの）くにさん（82歳・女性）は、3年前に脳梗塞のため左上下肢麻痺となり、特別養護老人ホームに入所しました。 耳は聞こえづらいですが、相手の言うことは理解できます。 現在、リビングの畳コーナーに座って日課であるタオルを畳むお手伝いをしてくださっています。もうすぐ伊賀野くにさんの好きなテレビ番組が始まる時間ですので、居室に戻り端座位になるまでを援助してください。また、居室のベッドは乱れています。	
	健康状態 心身機能 身体状況	3年前に脳梗塞発症 左上下肢麻痺 老人性難聴 要介護度2
	活動	移動は、介助が必要。 着替えは、介助が必要。 コミュニケーションは「うなづく」または、「首をふる」で意思を表すことができる。 利き手は右。 介助があれば数歩、歩くことができる。 普段の移動は、車いす介助で移動。 座位は、保つことができる。
	個人因子	テレビの時代劇(水戸黄門)が好き。 趣味は茶道。
	環境因子	暮らしていた家は、畳が多い和風の家。 専業主婦で子どもはいない。 夫は半年前に他界している。

課題検討室には靴は
ありません。各自の靴で
練習してください。


シーツのコーナーが
乱れています
タオルケットが
起床時のままになっています
リモコン

ة

٥٦٥			
٥٦٥			

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト　審査方法について

・選手生徒の良さが引き出せるようにする。
・公平な視点で見る。
・見落としがないように審査する。

○ １チームを、審査委員長と３人の審査員で見る。

○ ３つの観点で審査を行う。ただし、一人一観点で審査し、他観点の審査はしない。

○ 生徒の良さを引き出すため、特別加点を作る。審査員一人づつ、各項目ごとに加点をすることができる。

○ 審査委員長には、最後のコメントをお願いする。
コメントは、短くても良いので全てのチームのコメントを行う。
その際、必ず前向きになれるようなコメントを含める。

ة

	ى ئ		
			ة ث ث ض ض ة ة ث ث ى ث ه ه ث ث
	ة ث ة ط ث ث إ خ ث ث		
	ۆ		

ة

	ی ڎ		
ٹ	ڳ ٹ		
	ة سمع ٹ	عم ئو ٹ	ڳ ٹ
	ة طم ٹ	ه سخ ثم ٹ	ڳ ٹ
	ٹ	ٹ	عمم ٹ
	إ يخ ٹ	کا سخ ٹ	عمم ٹ
	ٹ	ة ه ٹ	ٹ
		عمم ه ٹ	عمم ی عمم ٹ
		ٹ	عمم ی عمم ٹ
	ۆ		

ة

ى ۋ

ى ۋ

ة سح

ٹ

ة طہ

ٹ

ٹ

إ ئ

ٹ

ٹ

ٹ

ٹ

ٹ

ٹ

ۀ

ٹ

ى

ٹ

ٹ

ءم

ٹ

ۆ

ة

ى ۋ

ڲ

ة	سج
ٹ	
ة	طم
ٹ	
ٹ	
إ يخ	
ٹ	
ٹ	

ه	
ٹ	
سخ ثم	ه
ٹ	
ٹ	
ىم	ى
ٹ	
ٹ	
ڲ	ه
ٹ	

ڲ
ٹ
ڲ
ٹ
ٹ
ى
ٹ
عمم
ٹ

ڲ

ۆ

		ٹ
	ة	ٹ
	محہ ة محہ	ٹ
ً ٍ	إ يخ	ٹ
		ٹ
	عمم	ٹ

	ة محہ پ	
	ة محہ	
	ة	

تي

ٹ

第4回東海地区高校生介護技術コンテスト　利用者視点チェックシート

	【学校名】	利用者役

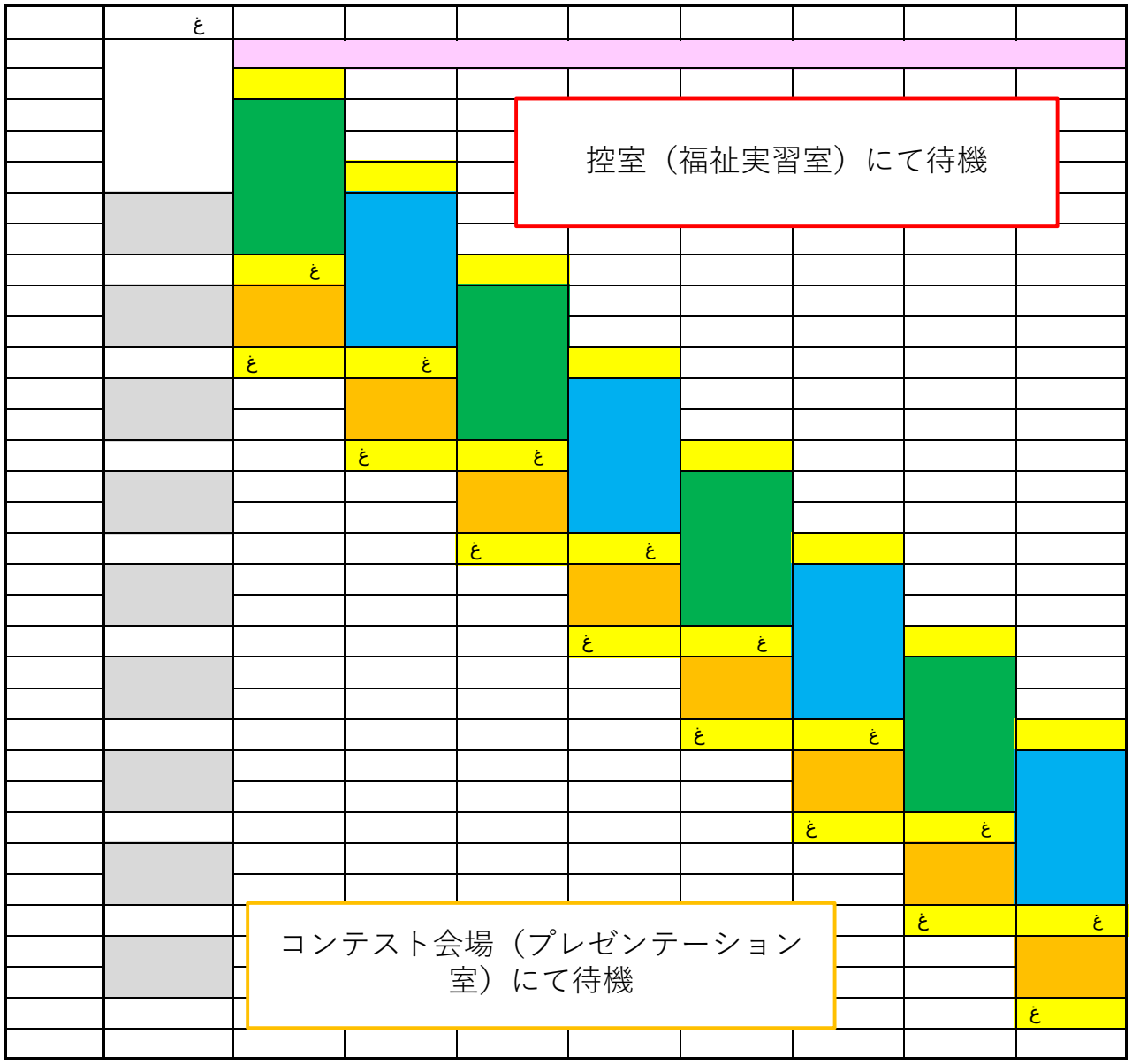
	評価項目	チェック欄	※特別加点
①	聞き取りやすい声で、声がかけられたか	□不十分　□できた	◇十分できた
②	タオルたたみの仕事に対するねぎらいは感じられたか	□不十分　□できた	◇十分できた
③	車いすへの移乗は、安心感をもって移ることができたか	□不十分　□できた	◇十分できた
③	車いすの移動は、安心感をもってできたか	□不十分　□できた	◇十分できた
④	ベッドへの移乗は、安心感をもって移ることができたか	□不十分　□できた	◇十分できた
⑤	コミュニケーションは目線を合わせ快適なものであったか	□不十分　□できた	◇十分できた
⑥	気分を確認しながらの介護であったか	□不十分　□できた	◇十分できた
⑦	全体を通して、利用者自身の自己決定を尊重した介護であったか	□不十分　□できた	◇十分できた
⑧	プライバシーに配慮された介護であったか	□不十分　□できた	◇十分できた
その他			/36

	不十分	（　　）×0点	
	できた	（　　）×2点＝（　　）点	
	十分できた	（　　）×4点＝（　　）点	
	時間	～7分	
	計	（　　）点	／36点

マニュアル関係

日　程　表

11:00-11:15	受付
11:15-11:30	開会式 ◆ 全国福祉高等学校長会東海地区理事　挨拶 ◆ 文部科学省初等中等教育局　視学官　挨拶 ◆ 三重県教育委員会　高校教育課指導主事　挨拶 ◆ 審査員紹介 ◆ 競技順抽選 ◆ 選手宣誓 ◆ 諸注意及び日程確認
11:30-12:30	昼食休憩 ＊選手は 12:10 までに更衣を済ませ選手控室に集合してください。
12:30-12:45	本日の課題発表
12:45-14:40	競技
14:40-15:00	休憩・選手更衣 ＊交流会及び閉会式の準備をさせていただきます。
15:00-15:40	交流会・閉会式 ◆ 伊賀白鳳高校　フードシステム科パティシエコース　挨拶 ◆ 交流時間（15 分程度） ◆ 文部科学省初等中等教育局　視学官　講評 ◆ 審査委員長　講評 ◆ 結果発表および表彰式 ◆ 全国福祉高等学校長会東海地区理事　挨拶
15:40-15:45	記念撮影


控室（福祉実習室）にて待機
コンテスト会場（プレゼンテーション室）にて待機

	コンテスト会場は第６実習棟３階となっています。 会場内は飲食禁止です。 食事は管理棟３階の「大会議室」を使用して下さい。 ③ 携帯電話は必ず電源を切るか、振動や音（アラームなど）が鳴らないようにして下さい。 ④ コンテスト会場は出入り自由ですが、競技中の出入りはできません。 ⑤ １２時１０分から各チームの競技終了までは、選手との接触はできません。
選手の方へ	① １１時１５分から開会式が始まります。 指定の席に着席して下さい。（座席案内図参照） ② １２時１０分までに食事・着替え・お手洗い等を済ませ、コンテストの準備をして第６実習棟１階の選手控室へ移動して下さい。 ※これ以降、持ち物は原則としてタオルと飲み物のみ可能です。 その後、課題検討室、コンテスト会場の順で移動となります。 ③ 携帯電話や貴重品等は、引率の先生と相談し、適切に管理をして下さい。 ④ 更衣は第６実習棟２階の更衣室にある、指定のロッカーを使用して下さい。 ロッカーは鍵がかかります。設定の方法が分からない場合は、スタッフにお声かけ下さい。 ※男子は男子更衣室、女子は福祉実習更衣室 ⑤ 閉会式ではすべてのチームに表彰があります。
引率者の方へ	① 生徒の貴重品の管理をお願いします。 ※万が一紛失等があった場合でも対応はできかねます。 ※生徒の携帯電話を預かった場合の返却は、全チームが競技を終了してからお願いします。 ② 座席は基本的には自由となっていますが、選手の為に移動をお願いする場合があります。ご了承下さい。 又、コンテストの際、競技開始５分前に引率者へのアナウンスが流れます。 指定の席に着席して下さい。（座席案内図参照） ③ 閉会式ではすべてのチームに表彰があります。
見学・応援の方へ	① 座席は基本的には自由となっていますが、選手の為に移動をお願いする場合があります。ご了承下さい。

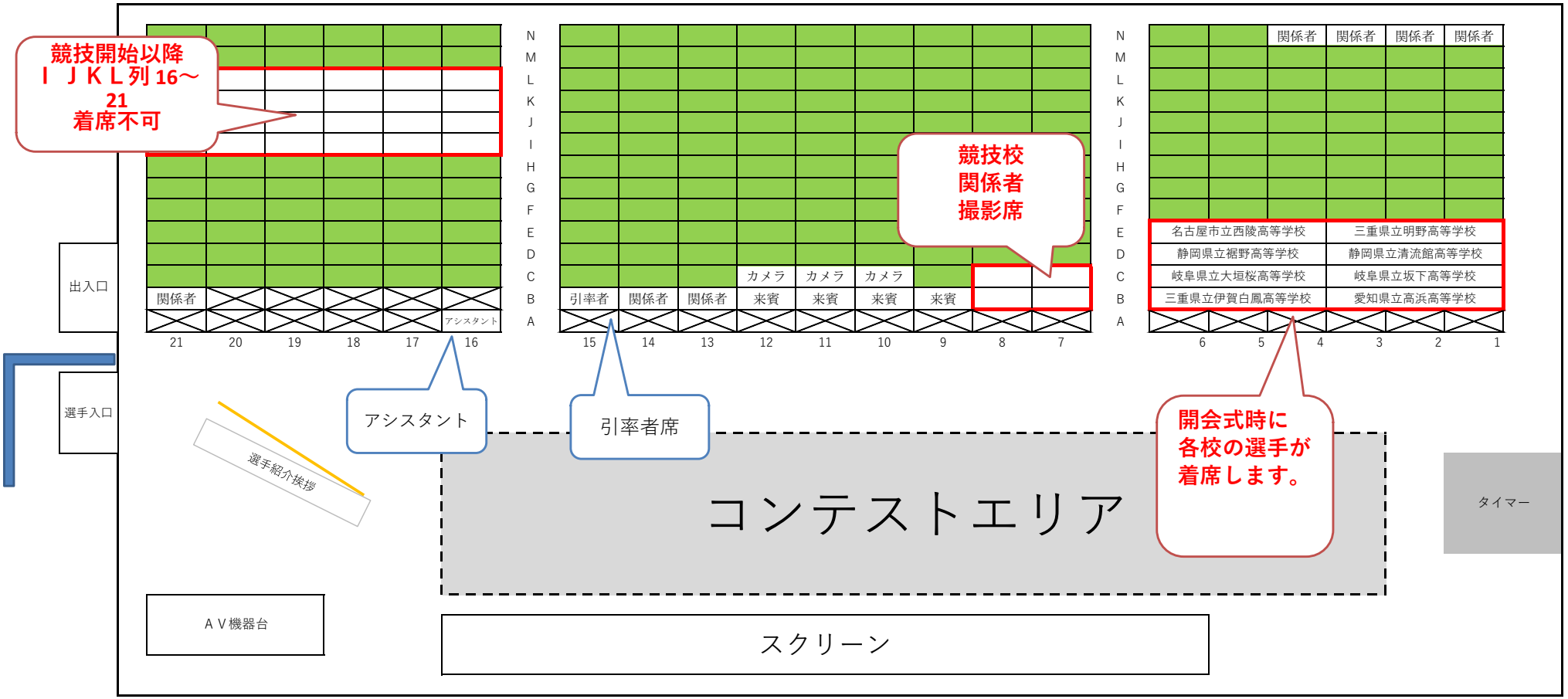
昼食会場への案内図

座席案内

← 着席可能

	来賓	引率者	関係者
	カメラ	アシスタント	

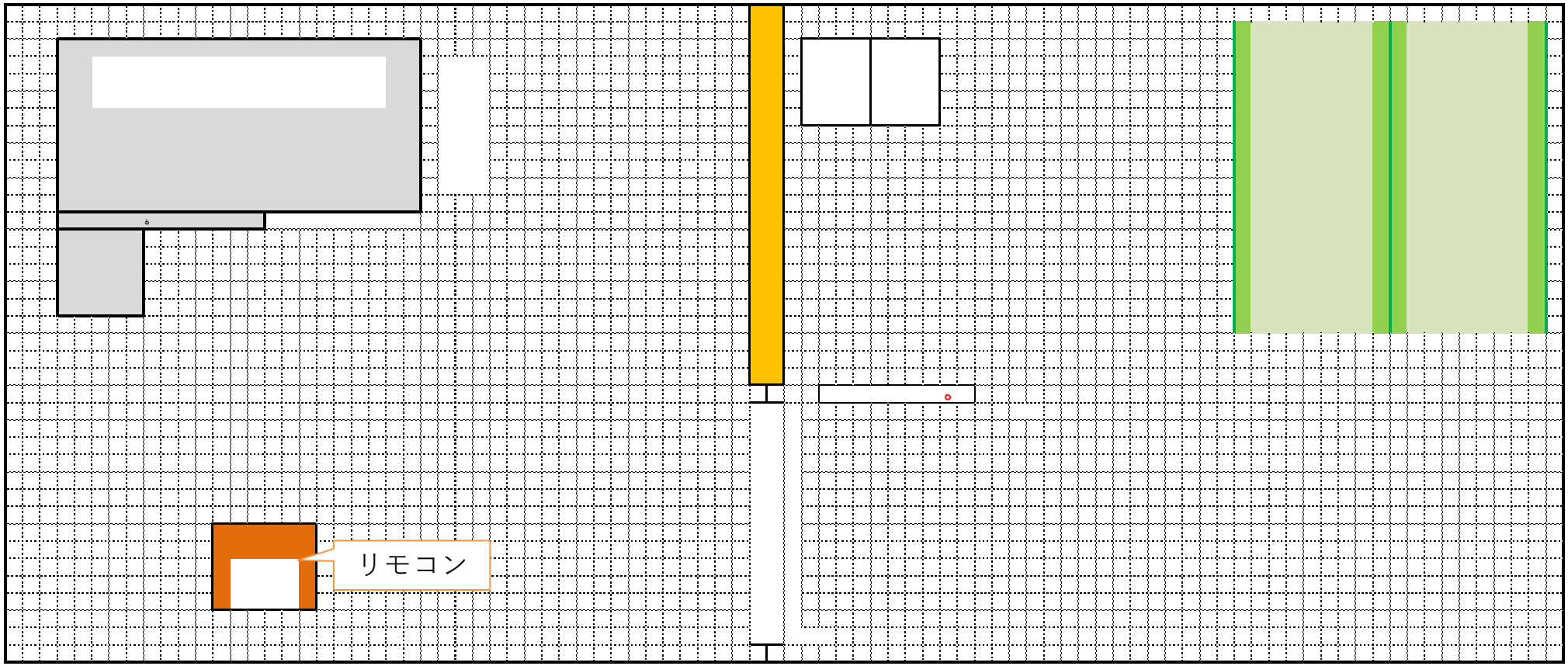
← これらの場所はお座りいただけません。
詳細は下記をご覧下さい。



第4回東海地区高校生介護技術コンテスト　課題

課　　題	いがの ضـ　　ٿـ إ　　طمي	
	健康状態 心身機能 身体状況	3年前に脳梗塞発症 左上下肢麻痺 老人性難聴 要介護度2
	活動	移動は、介助が必要。 着替えは、介助が必要。 コミュニケーションは「うなづく」または、「首をふる」で意思を表すことができる。 利き手は右。 介助があれば数歩、歩くことができる。 普段の移動は、車いす介助で移動。 座位は、保つことができる。
	個人因子	テレビの時代劇(水戸黄門)が好き。 趣味は茶道。
	環境因子	暮らしていた家は、畳が多い和風の家。 専業主婦で子どもはいない。 夫は半年前に他界している。

ö



第４回東海地区高校生介護技術コンテスト
参加校一覧

五十音順	競技順 （各自書込みください）
高等学校	
高等学校	
高等学校	
高等学校	
高等学校	
高等学校	
高等学校	
高等学校	

競技順はコンテスト当日、抽選で決定します。

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト募集要項

１　概　要

福祉を学ぶ高校生が、課題事例に対する介護技術とアピールを競い合うことにより、日頃の学習活動で身につけた介護技術の向上を図るとともに、様々な介護の場面において、適切かつ安全に支援できる能力と態度を育成することを目的とする。

また、東海地区で福祉を学ぶ高校生の相互交流の場とする。

２　出場資格

東海地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒　１校１チームとし、各県より２校まで出場することができる。
（ただしチームは同一校２名か３名で構成し、その内２名を競技選手とする）

３　日　程

(1) 期日

平成２９年８月２３日（水）　予備日８月２４日（木）

(2) 時間（予定）※変更の可能性あり

11：00～11：15	受付・競技順抽選（受付順に抽選を行います。）
11：15～11：30	開会式
11：30～12：30	昼食（なお出場者の昼食及び更衣は、12:10 までに済ませておくこと）
12：10	選手集合
12：30～12：45	課題説明等
12：45～14：45	競技
14：45～15：15	交流会
15：15～15：45	閉会式

４　会　場

三重県立伊賀白鳳高等学校

５　内　容

別紙「第４回東海地区高校生介護技術コンテスト実施規則」による。

６　交通費

出場者および引率者の交通費については各校負担とする。

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト実施規則

１　実施方法

⑴ 競技内容　　課題に対する介護技術を競う。

⑵ 競技時間　　介護技術　　７分
　　アピール　　２分
　　（別室での課題検討時間は 25 分）

⑶ 課　　題　「A 移動の介護　B 排泄の介護　C 身じたくの介護　D 食事の介護」のうち、Ａ～ＤまたはＡ～Ｄを組み合わせたものとする。課題作成者は三重県福祉高等学校福祉教育研究会会長校が委嘱する。
　※　審査項目及び利用者の基本情報等は、８月上旬に出場校に連絡する。

⑷ 出場資格　　東海地区の高等学校で福祉を学ぶ生徒　１校１チーム
　※ただしチームは同一校２名か３名で構成し、その内２名を競技選手とする。

⑸ 利用者役　　審査員が兼ねる

２　審査方法

⑴ 審査対象　　課題に対する介護技術とアピールを総合的に審査する。

⑵ 審 査 員　　高等学校の福祉教育に理解の深い学識経験者及び高等学校福祉科教員とする。高等学校福祉科教員については、東海地区４県から１名ずつ学科主任等をもってあてる。

⑶ 審　　査　　別途作成する審査用紙に基づいて行う。審査委員長と、４名の審査員で審査する。

３　表　　彰

入賞者に対して表彰を行う。最優秀賞１校、優秀賞１校、優良賞６校を選出する。
また、最優秀賞校は、第２７回全国産業教育フェア秋田大会における第６回全国高校生介護技術コンテストへ東海地区代表として出場する権利を有することとする。何らかの理由で最優秀賞校が出場できない場合は、優秀賞校が代表となる。

４　競技上の注意事項

⑴ 選手の服装は、各学校指定の実習服等と介護用シューズとする。

⑵ 選手は、財布、携帯電話等の貴重品を引率教員に預ける。

⑶ 競技は会場に準備された物品を用いて行うこととし、その他の物品を競技会場へ持ち込むことはできない。

⑷ 選手は、受付終了後、競技中一切の指導助言を受けることはできない。また、何人も選手に対して指導助言を与えてはならない。

⑸ 競技中の選手の交代はできない。また、審査員の許可なく会場を離れた場合は、失格とする。

⑹ 報道関係への写真掲載等について、各校にて本人の了承を得、不都合がある場合は開催校に報告する。

５　その他

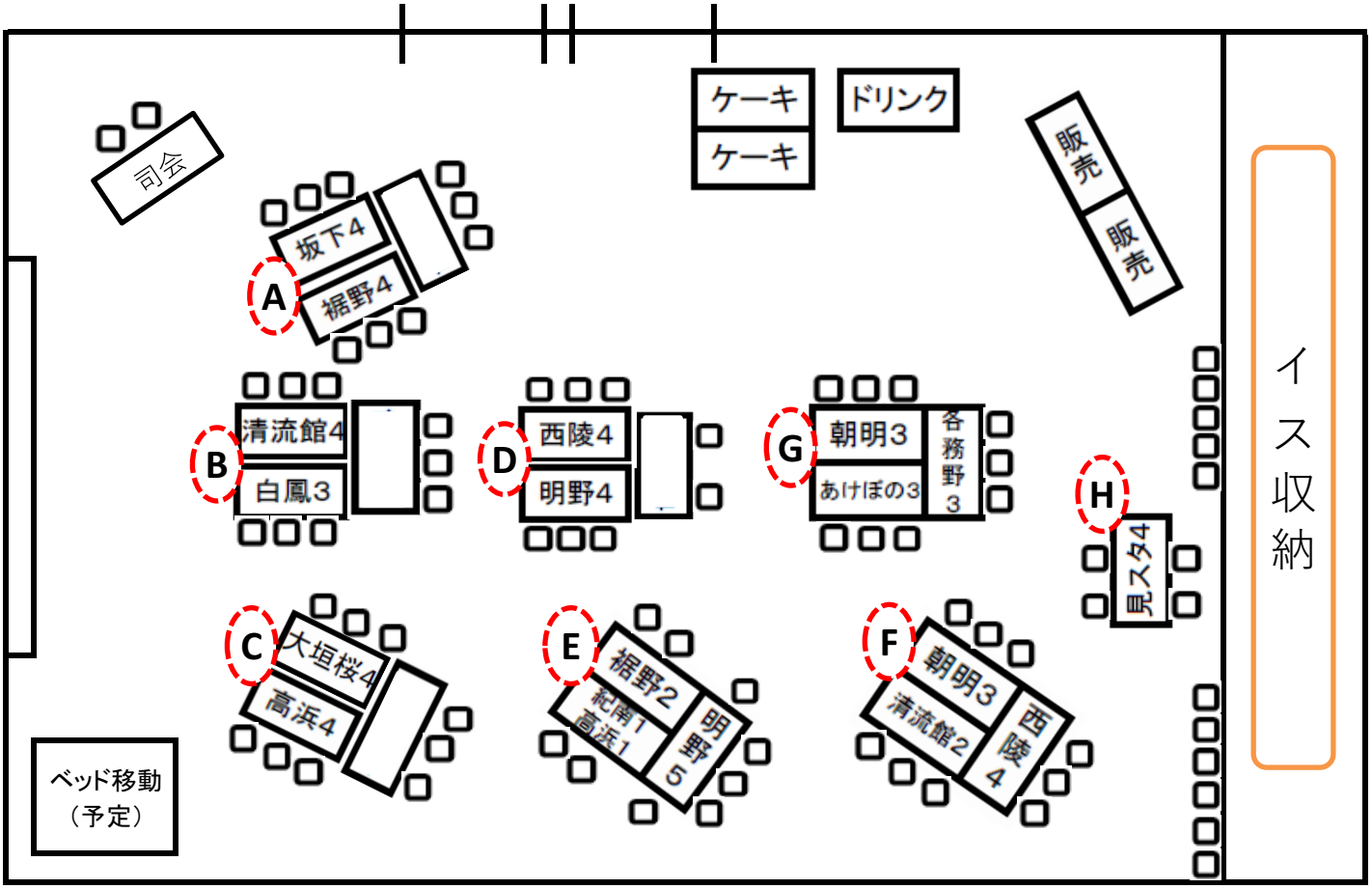
⑴　控室及び課題検討室へ入室できるのは、選手２名アシスタント１名とする。その際の持ち物は、飲み物及びタオル類のみとする。

第４回東海地区高校生介護技術コンテスト審査項目

・課題に対する介護技術とアピールについて、以下の項目を総合的に審査する。

内容	項　　目	備　　考
介護技術	コミュニケーション	
	プライバシーへの配慮	
	自己決定の尊重	
	自立支援	
	意欲を引き出す工夫	
	安全・安楽への配慮	
	個別因子や環境因子に応じた介護	
	介護者同士の連携	
	時間	７分以内で終了する
アピール	エビデンスに基づく介護	２分以内で終了する
	創意工夫のある介護	

交流会　座席表

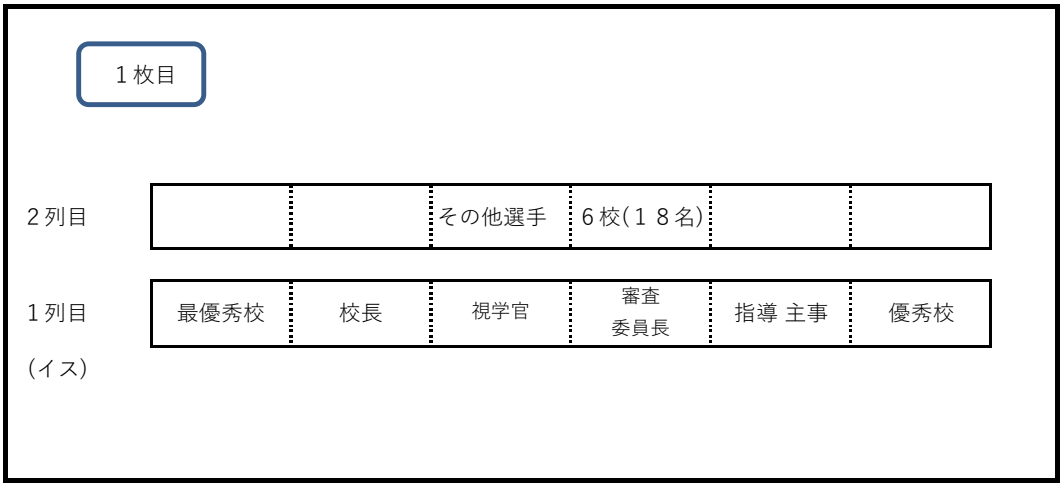


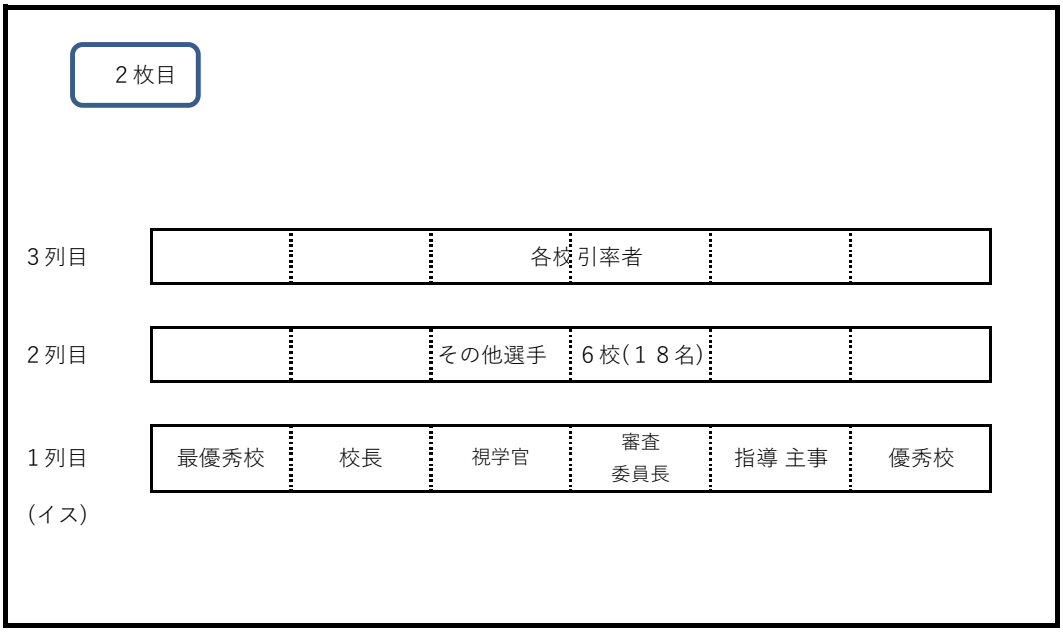
テーブル	メンバー　（敬称略）	合計人数
A	日本福祉大学　健康科学部　リハビリテーション学科　介護学専攻　教授　　武田啓子 岐阜県立坂下高等学校（選手3名・引率教員1名） 静岡県立裾野高等学校（選手3名・引率教員1名）	9
B	全国福祉高等学校長会　東海地区理事　　村田武俊 三重県教育委員会　高校教育課　指導主事　　仲尾綾子 静岡県立清流館高等学校（選手3名・引率教員1名） 三重県立伊賀白鳳高等学校（選手3名）	9
C	文部科学省　初等中等教育局　視学官　　矢幅清司 岐阜県立大垣桜高等学校（選手3名・引率教員1名） 愛知県立高浜高等学校（選手3名・引率教員1名）	9
D	名古屋市立西陵高等学校（選手3名・引率教員1名） 三重県立明野高等学校（選手3名・引率教員1名）	8
E	静岡県立裾野高等学校（校長・教員） 愛知県立高浜高等学校（教員） 三重県立明野高等学校（生徒4名・教員） 三重県立紀南高等学校（教員）	9
F	静岡県立清流館高等学校（教員2名） 名古屋市立西陵高等学校（教員4名） 三重県立朝明高等学校（教員3名）	9
G	岐阜県立各務野高等学校（教員3名） 三重県立朝明高等学校（生徒3名） 三重県立あけぼの学園高等学校（生徒2名・教員）	9

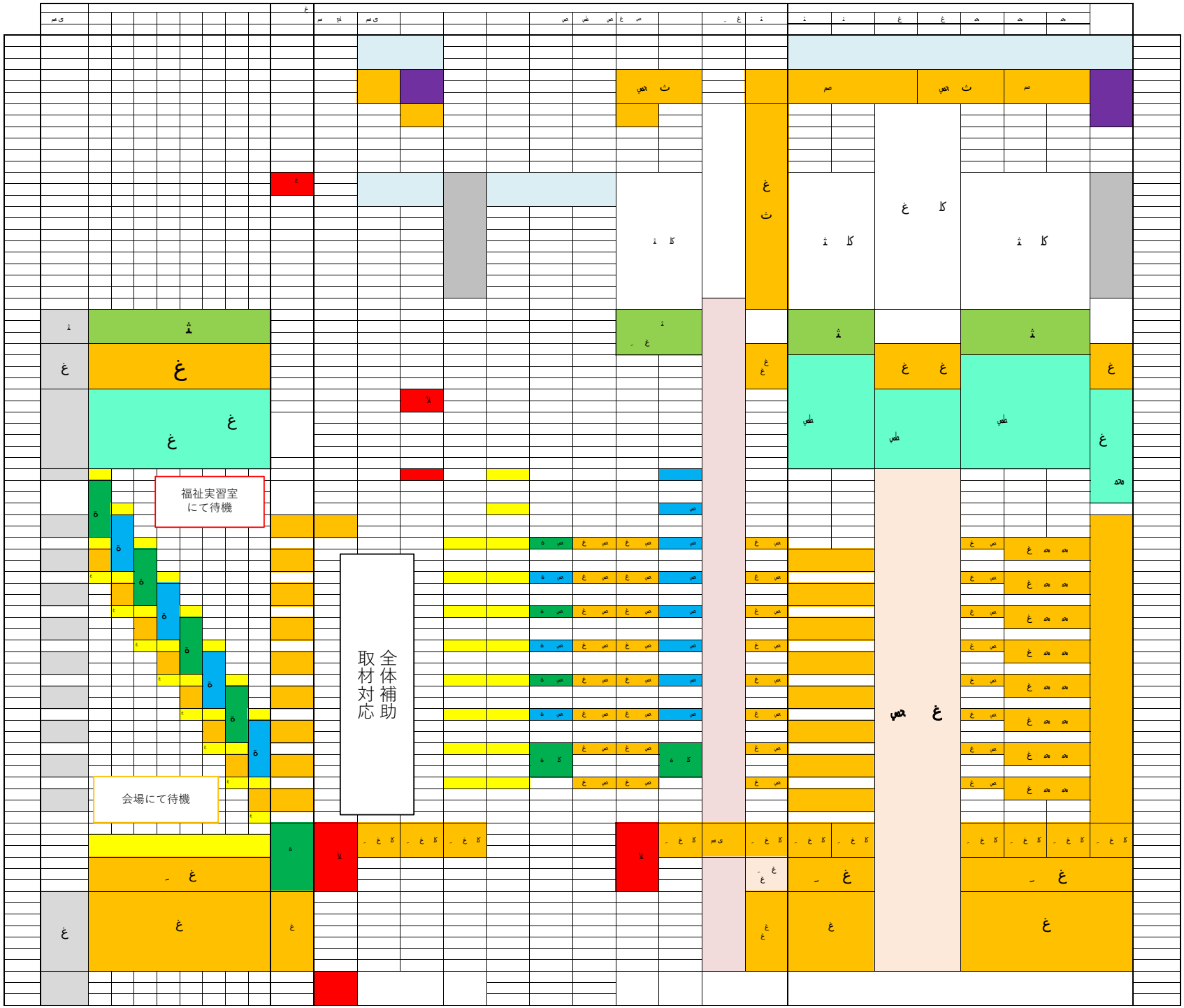
集合記念写真撮影

閉会式後に２パターン撮影します

写真配置図






福祉実習室
にて待機
全体補助
取材対応
会場にて待機

審査委員会へのお願い

当日の競技タイムスケジュール（1ベッド方式）

	1組目	2組目	3組目	4組目
12:00	開会式（プレゼン）			
12:05				
12:10				
12:15				
12:20				
12:25				
12:30	移動（会場→検討室）	選手控室へ		
12:35	課題検討（25分間） 介1			
12:40				
12:45		移動（控室→検討室）		
12:50		課題検討（25分間） 介2		
12:55				
13:00	移動（検討室→会場）		移動（控室→検討室）	
13:05	介護コンテスト 7分＋2分		課題検討（25分間） 介1	
13:10				
13:15	移動（会場→座席）	移動（検討室→会場）		移動（控室→検討室）
13:20		介護コンテスト 7分＋2分		課題検討（25分間） 介2
13:25				
13:30		移動（会場→座席）	移動（検討室→会場）	
13:35			介護コンテスト 7分＋2分	
13:40				
13:45			移動（会場→座席）	移動（検討室→会場）
13:50				介護コンテスト 7分＋2分
13:55				

1組目のスタートが13時20分、2組目のスタートが13時35分です。

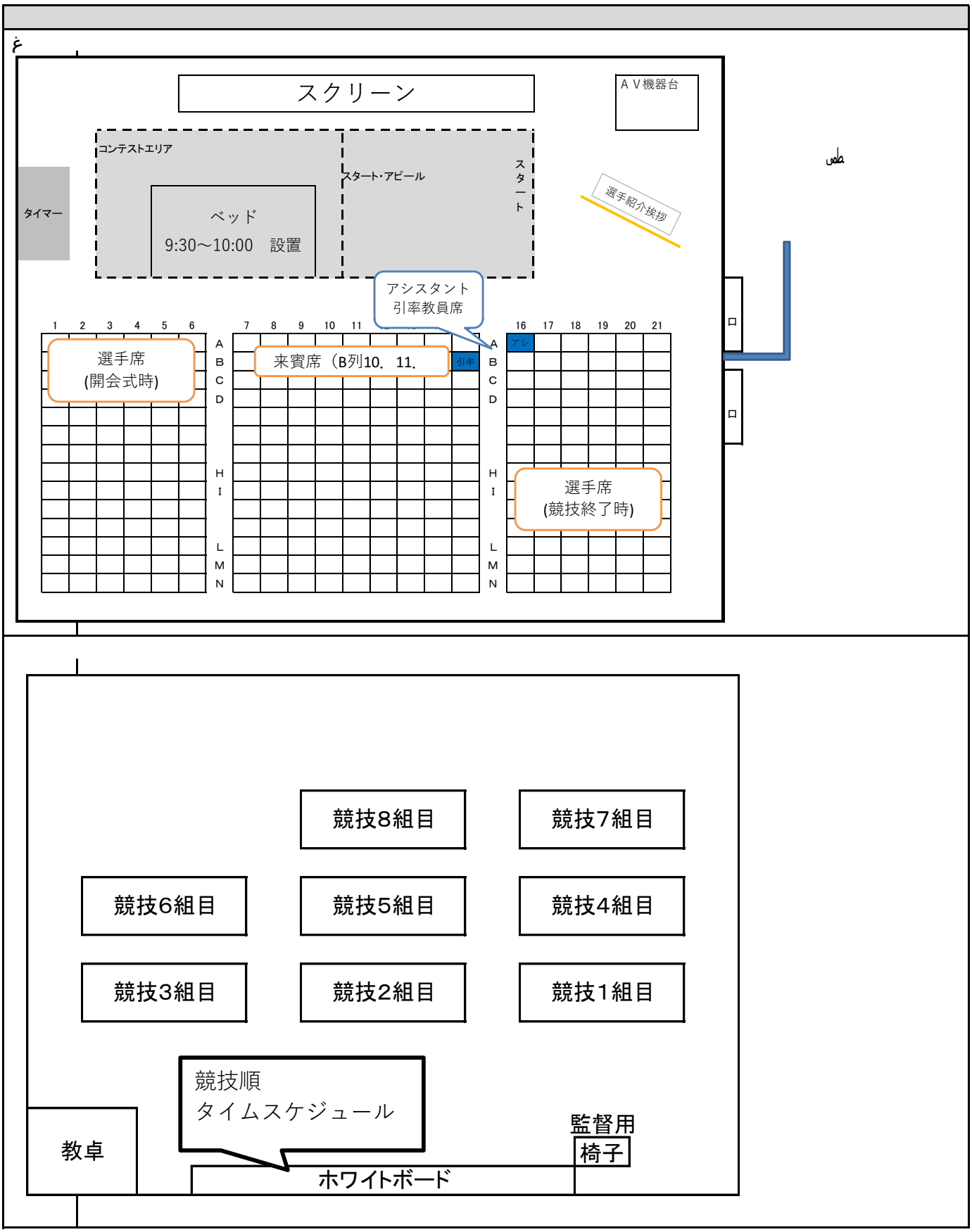
15分の間に、「競技7分+アピールタイム2分+選手の移動・紹介+残りの

「残りの時間」の目安は・・・4分程度確保できるとシュミレーションしています。

課題検討委員会で、

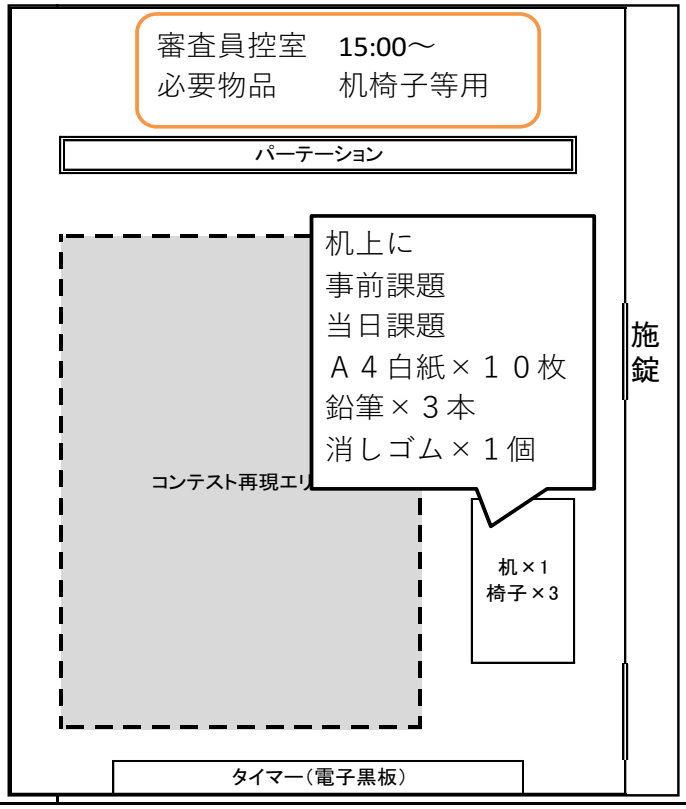
- 課題の作成
- チェック表の作成
- 開会式の課題説明
- パソコン係等の位置づけ
- 賞状の作成
- 閉会式での結果発表

当日の動きでいえば、課題検討委員会のメンバーのみ、審査の結果や内容を知っている
引率教員はもちろん、その他の運営にあたる教員も結果発表までドキドキしているという
当日の午前中に白鳳高校生徒スタンバイできます。最終確認できます。

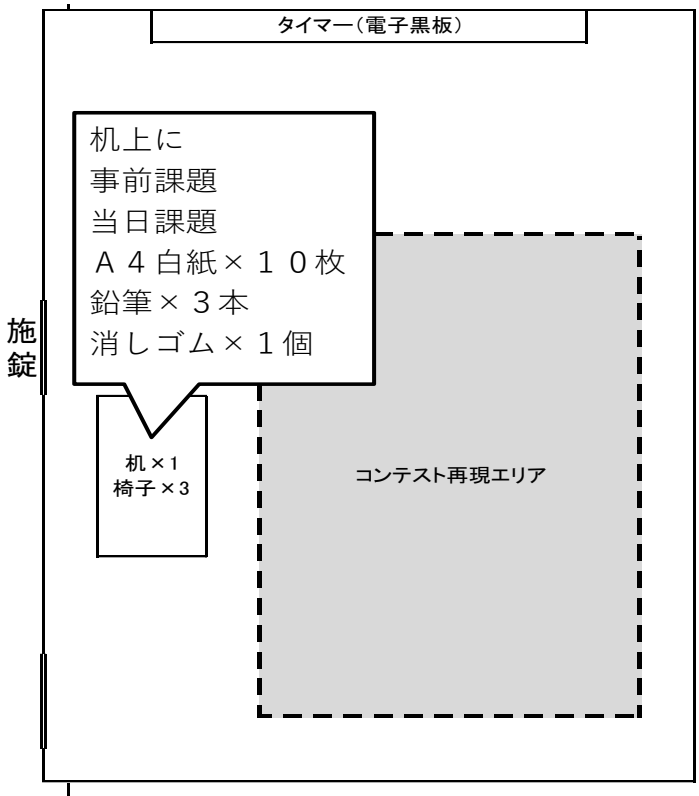

スクリーン
ＡＶ機器台
コンテストエリア
スタート・アピール
スタート
タイマー
ベッド
9:30～10:00　設置
選手紹介挨拶
アシスタント
引率教員席
選手席
(開会式時)
来賓席（B列10．11．
選手席
(競技終了時)
競技8組目
競技7組目
競技6組目
競技5組目
競技4組目
競技3組目
競技2組目
競技1組目
競技順
タイムスケジュール
教卓
監督用
椅子
ホワイトボード

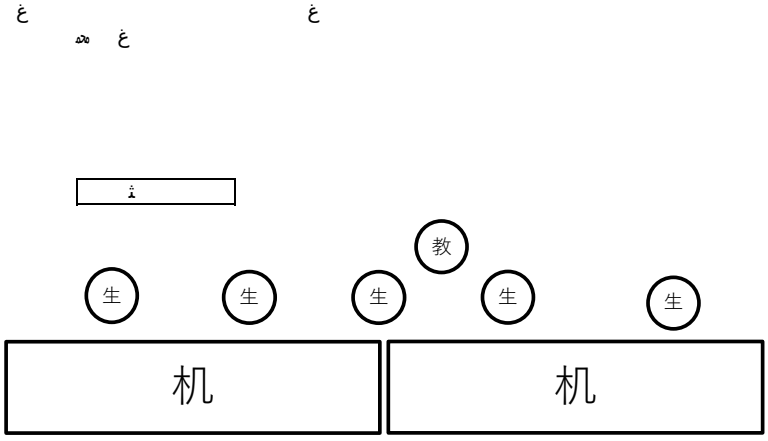
غ

ö


審査員控室　15:00～
必要物品　机椅子等用
パーテーション
机上に
事前課題
当日課題
Ａ４白紙×１０枚
鉛筆×３本
消しゴム×１個
施錠
コンテスト再現エリ
机×1
椅子×3
タイマー（電子黒板）

ö


タイマー（電子黒板）
机上に
事前課題
当日課題
Ａ４白紙×１０枚
鉛筆×３本
消しゴム×１個
施錠
机×1
椅子×3
コンテスト再現エリア


領収書渡す
教
生
生
生
生
生
机
机

プレゼン室入口担当　会場内案内

8組目	

控室出発	課題検討	検討室出発	競技開始	競技終了
13:57	14:00　～　14:25	14:26	14:30	14:40

時間	内容	☑	動作/方法/スピーチ
14:25	確認	□	入り口前フロアにて　【選手誘導の準備・かご確認】 「間もなく選手が移動してきます」　「会場内にお入りください」
14:26	入場前説明	□	「課題検討お疲れ様でした。」 　　の選手でよろしいですね？ 学校の確認を行う。 「それではコンテスト会場内での案内と説明をします。」
	荷物回収	□	「はじめに、タオル、飲み物はこのカゴの中に入れてください」 「競技終了後にコンテスト会場内の座席でお返しします。」
	選手確認	□	「次に競技を行う選手２名を教えてください。」 ※選手２名を把握する 「アシスタントにまわる選手はあなたでよろしいですね？」 ※アシスタント１人を確認する 「アシスタントにまわる選手がバインダーを持ってください。」 「入場後選手紹介を行う場所までいき、司会から三人の選手紹介を行います。その後・・・ 「選手二人は私についてきてください」 「競技のスタート地点に案内します。」 「アシスタントの選手は私について」 きてください。席に案内します。」 「このあと入場になります。入場・移動後はすぐに進行されますので用意をお願いします。」
14:28	入場	□	「それでは入場です、ついてきてください。」 まず「選手紹介ライン」まで案内し、司会からの 「選手紹介」　+　「それぞれの位置についてください。」を
14:29	選手移動	□	選手紹介終了後、それぞれの位置へ選手を案内 ※荷物かご置き用の椅子を用意
		□	司会の「競技を終了してください」を待つ
	ATの移動	□	アシスタントをアピール位置に移動させる。 ※選手３名がスタート・アピール位置へ
14:40	AT終了	□	司会から移動の案内が出てから・・・ 座席へ案内・カゴの荷物の返却 「すべてのチームの競技が終了するまで見学してください。」
	トイレ対応		競技終了選手で「トイレ等申し出」があった場合、 競技終了後の座席案内から帰ってくるときに一緒に連れてくる。

会場進行(開会式)マニュアル No. 1

第4回東海地区高校生介護技術コンテスト　平成29年8月23日(水)

開会式式次第		合計	15	分
1	全国福祉高等学校長会東海地区理事　挨拶		2	分
2	文部科学省初等中等教育局　視学官　挨拶		2	分
3	三重県教育委員会高校教育課　指導主事　挨拶		1	分
4	審査員紹介(委員長と3名と利用者役1名)		2	分
5	競技順抽選		3	分
6	選手宣誓		2	分
7	諸注意とこの後の流れ		3	分

時間	内容	動作/方法/スピーチ	引率教員
11:05	会場アナウンス	「みなさまにお知らせいたします。 開会式は11時15分から行います。 開会式が始まるまで、いましばらくお待ちください。 なお、お手洗いは会場を出て左手にございます。そちらをご使用ください。」	
11:13	会場アナウンス	「間もなく、開会式がはじまりますので、ご着席ください。」	
11:15	開会式	「ただいまより、第4回東海地区高校生介護技術コンテスト 開会式を始めます。」	
	理事挨拶	「まず始めに主催者挨拶です。 全国福祉高等学校長会　東海地区理事 様よろしくお願いいたします。」	
		「ありがとうございました。」	
11:17	視学官挨拶	「続きまして来賓挨拶です。 もんぶかがくしょう　しょとうちゅうとうきょういくきょく　しがくかん 文部科学省　初等中等教育局　視学官 様、からご挨拶いただきます。様よろしくお願いいたします。」	
		「ありがとうございました。」	
11:19	指導主事挨拶	みえけんきょういくいいんかい　こうこうきょういくか　しどうしゅじ 「続きまして　三重県教育委員会　高校教育課　指導主事	

時間	内容	動作/方法/スピーチ	引率教員
		「ありがとうございました。」	
11:20	審査員紹介	「審査員の紹介をさせていただきます。」 「審査委員長 審査員 利用者役審査員 「以上5名で審査を行います。」	
11:22	抽選	「では、続きまして競技順の抽選を行います。 全国福祉高等学校長会東海地区理事　様に引いていただきます。 　様、お願いします。」 箱を持っていく くじ・・・①巻物を箱に入れてもらう ②1つずつ引いてもらう ③巻物を広げて観客に見せる ←司会 「1番目に競技する学校は・・・〇〇高校です。」 「2番目に競技する学校は・・・〇〇高校です。」 残り、6回繰り返す・・・ 「ありがとうございました。」 「以上で競技順が決定しました。 後ほど会場内に本日の課題とともに掲示いたします。 ご覧ください。」	
11:25	選手宣誓	「続きまして、選手宣誓を行います。」 「選手代表 さん」 「宣誓・・・」 「ありがとうございました。」	
11:27	競技の説明	「続きまして、競技の流れについて説明を行います。」 「ありがとうございました。」	
	諸注意	「続いて会場校から連絡させていただきます。 お手洗いは会場を出て左手にございます。そちらをお使いください。 出たゴミについては各自、持ち帰っていただきますよう、お願いいたします。	

時間	内容	動作/方法/スピーチ	引率教員
		貴重品につきましては管理は各自で管理をお願いいたします。 なお、コンテスト会場では携帯電話の電源をお切りいただくか、 振動や音が鳴らないようにご配慮をお願いいたします。 競技中はコンテスト会場への出入りはできません。 ご協力をお願いします。」 「なお、今回のコンテストの様子は写真、映像に収めさせていただきます。 広報、報告等で利用させていただくこともあるかと思いますので、ご了承 ください。」 「以上をもちまして、第4回東海地区高校生介護技術コンテスト 開会式を終了いたします。 選手の皆さんは、昼食後、準備がありますので先に退場していただきます。 誘導係りの指示に従って、昼食会場へ移動してください。」 選手退場 「続きまして、会場の皆様に連絡します。 昼食をとられる方は、誘導係りの指示に従って、会場へ移動してください。 12時30分より本日の課題の説明を行いますので、それまでに 会場へお戻りください。 なお、12時10分より1組目の課題検討がスタートします。 これ以降の選手との接触は失格となりますので、ご注意ください。 以上で連絡を終わります。	

～開会式での説明～

伊賀白鳳高等学校の鈴木と申します。日程確認と諸注意を、私からさせて頂きます。

まず、この後、昼食の時間があります。昼食会場は、少し歩いていただきますが、管理棟の３階にある大会議室をご利用ください。

その後、１２時１０分から選手の皆さんは控室に集合して下さい。選手以外の方は、１２時３０分から課題発表などがありますので、この場所にお戻りいただければと思います。また、引率の先生方に連絡です。選手が入場する前に、紹介ムービーが流れます。更にそのムービーが流れる前に「引率の先生は指定の席にお座りください。」とアナウンスが流れますので、こちらにご着席下さい。競技を行う高校の関係者で撮影する場合は、こちらの撮影スペースも使用できます。

ここからは主に選手の方への連絡となります。選手の皆さんは、集合したあと、課題検討室に移動します。そこで課題検討をしていただきこの競技会場へと入ってきます。

競技会場へと戻ってくる出入り口はこちらです。この扉の向こう側で待機をしていただいて、スタッフの合図で入場します。入場した後は、三人そろってこのラインに並ぶと、全員の名前が呼ばれ、「気を付け、礼」とアナウンスが流れますので挨拶をして下さい。

その後、アシスタントの方はこちらの席に、競技者の方はスタート位置のこちらに移動をしてください。その後、「競技を行います。よろしいですか？」とアナウンスが流れ、競技が始まります。また、競技中とアピールタイム中の残り時間はこちらの壁に表示されます。競技時間は７分です。７分経ちますと、ブザーが鳴り競技終了となります。

競技終了後は、「競技が終了しました。アピール位置に移動して下さい。」とアナウンスが流れますので、こちらに３人とも移動して下さい。この場所でアピールタイムが始まります。アピールタイムは２分間です。これもまた２分経つとブザーが鳴り終了となります。アナウンスに従い、挨拶をして下さい。

その後は、アナウンスや誘導係りの指示に従い、着席して会場内で見学をして下さい。

～選手集合の時の説明～

①この後、２階の課題検討室に競技順に案内します。課題検討室に入ると、本番と同じように物品が用意されています。机が一台置いてあり、その上には課題とメモ用紙と鉛筆と消しゴムが置いてあります。それらは自由に使い課題を検討して下さい。また、アピールタイムの際にそのメモ用紙を見ながらしゃべってもらっても構いません。

②トイレに行きたい場合、スタッフに声をかけて下さい。また、体調が悪くなった場合なども申し出て下さい。

③全体を通して何か質問などはありますか？

競技進行

8組目	

控室出発	課題検討		検討室出発	競技開始	競技終了
13:57	14:00	～ 14:25	14:26	14:30	14:40

時間	内容	☑	動作/方法/スピーチ
14:25	5分前アナウンス	□	「競技の準備に移ります。」
			の引率の先生は、指定の席にお座りください。」
	撮影スペース案内	□	「競技を行う高校の関係者で撮影を行う方は、是非前の競技校撮影スペースをご利用ください。」
14:26	紹介ムービー再生	□	「それではこれより、次に競技を行う
			の紹介ムービーを上映致します。」
			※担当　動画再生の準備・再生
14:27	紹介ムービー終了	□	「紹介ムービーは以上です。選手入場までお待ちください」
		□	※プレゼン室入口にて、入場準備ができているか確認
14:28	選手入場	□	しずおかけんりつすそのこうとうがっこう 静岡県立据野高等学校 の選手入場です。
	選手紹介	□	※[選手紹介挨拶]ラインに選手が並んで静止したことを確認
			「 8組目 は です。 選手は さん さん さん です。気を付け、礼。それぞれの位置についてください。」
14:29	選手移動	□□	※競技者２名がスタート・アピール位置へ、 アシスタントがアシスタント席へ、移動完了したことを確認
	競技開始	□	「競技を行います。よろしいですか。」
		□□	※競技者２名が「うなずく・返事をする」ことを確認、タイマー係との確認
			「競技を始めてください。」 競技７分
14:37	競技終了	□	※７分経過のブザーが鳴る or「これで終わります」の宣言で
			「競技が終了しました。」
	ATへ移動	□	「選手はアピール場所に移動してください。」
		□	※選手３名がスタート・アピール位置へ
14:37:30	AT開始	□	「アピールタイムを始めてください。」 アピール２分
		□	※２分経過のブザーが鳴る or「これで終わります」の宣言で
14:40	AT終了	□	「アピールタイムが終了しました。」
	終了・連絡	□	「これで の競技・アピールタイムが終了となります。」「気を付け、礼」「選手のみなさんありがとうございました。」 「選手は誘導係の指示に従い指定の席に着席し、すべての学校が終了するまで会場で見学をしてください。」 「引率の先生・また撮影スペースを使われた方も、元の場所にお戻りください」 「次の組の入場までしばらくお待ちください」

≪例≫移動は前の組を優先
1組目が介1(2Ｆ)→会場入口(3Ｆ)
の移動を終えた後で
3組目が福実(1Ｆ)→介1へ(2Ｆ)へ移動

	محه				سمح	سمح	سمح	سمح
	طمي غ	ۆ	چ				حمي	ة حمي

سمح ۆ

حمي سمح سمح

سمح ث سمح

سمح ۆ حمي

سمح سمح

سمح

会場進行（競技前後）マニュアル No. 1

時間	内容	動作/方法/スピーチ	引率教員
12:25	アナウンス	「12時30分より、本日の課題の説明を行います。 お手洗いを済ませ、着席してください。 携帯電話は電源を切るか振動や音が鳴らないようにしてください。 なお、競技の開始時間は12時45分です。 それではもうしばらくお待ちください。」	
12:30	課題の説明	「只今より、指導官から本日の課題の説明をしていただきます。 よろしくお願いします。」 ＊担当先生より課題説明 「ありがとうございました。」	
12:40	アナウンス	「12時45分よりコンテストが始まります。コンテスト中は、会場を出入りすることができなくなります。また、各高校の引率の先生は、アナウンスがありましたら、指定の席にお座りください。会場内に選手が入場しましたらお静かにお願いします。」	
		「▶競技進行」を参照	
		＊全員が着席してから	
14:35	競技終了アナウンス	「ありがとうございました。以上をもちまして、競技を終わります。 この後、15時よりこの場所で交流会に入ります。 選手の皆さんは2階の更衣室で更衣をしてください。なお、更衣室へは戻ることができないので、交流会には荷物をすべて持ってきてください。」 「それでは先に選手の皆さん、移動を開始してください。」 ＊選手移動 「会場の皆様に連絡します。 只今より、交流会の準備を行います。椅子の移動を行うため一度、座席から移動していただきますようご協力お願いします。 なお、この会場を出てすぐにある音楽室か、1階の福祉実習室を開放します。そちらをご利用ください。」 「それでは、移動のほうよろしくお願いします。」	

حمي

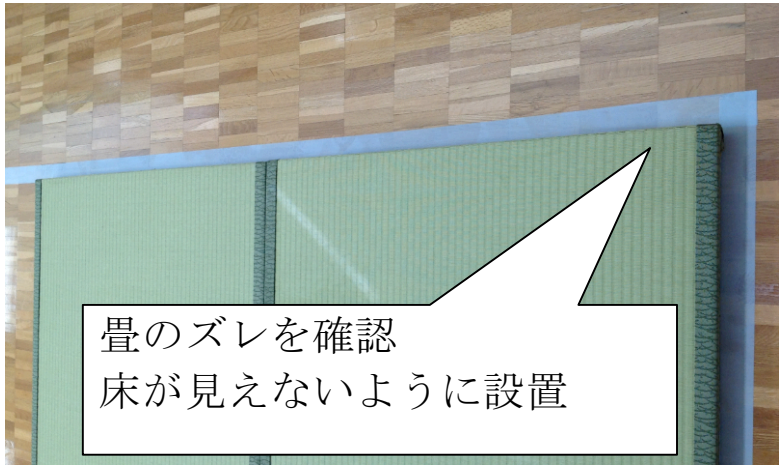
	محمد	سمح حمي سمح حمي	
		طمي حمي	
	ة	سمح ى ڎ خ طمي محمد ب ي حمي لأ محمد	当日の連絡（あれば）
ۆ		ۆ غ	
		محمد	
	طمي غ	حمي محمد	حمي حمي ة
	طمي غ	حمي محمد	حمي حمي ة
	طمي غ	حمي محمد	حمي حمي ة
	طمي غ	حمي محمد	حمي حمي ة
	طمي غ	حمي محمد	حمي حمي ة
	طمي غ	حمي محمد	حمي حمي ة
	طمي غ	حمي	ڎ ڀ ة
	طمي غ		

ٹ ى

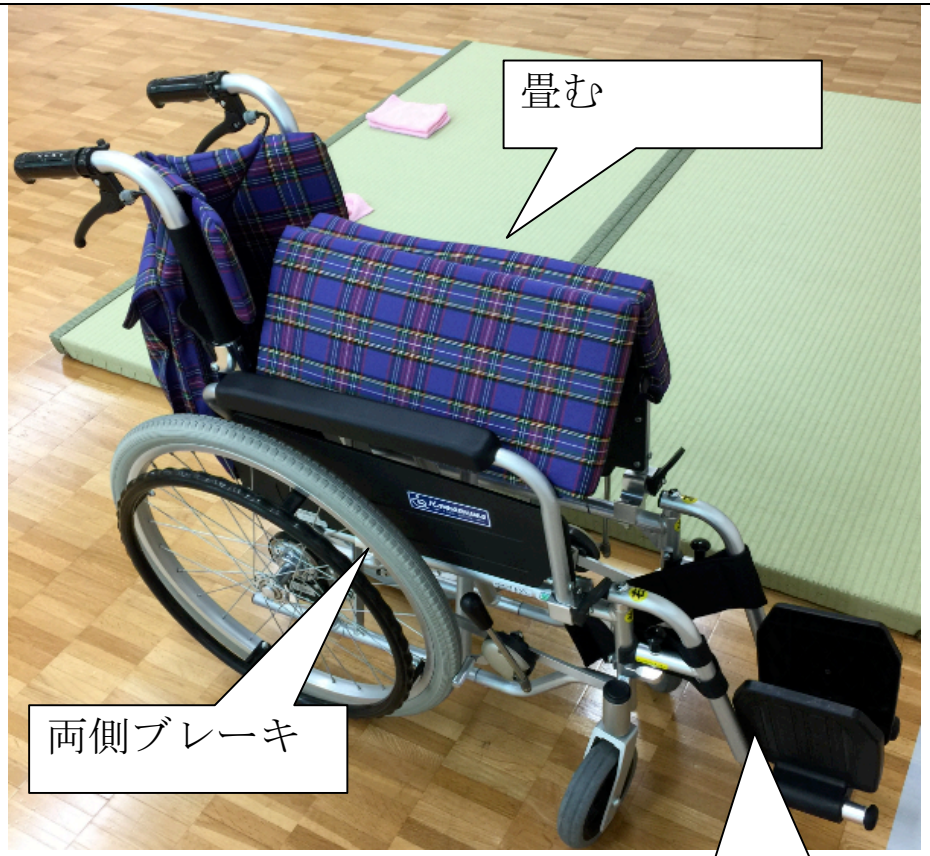
復元マニュアル

畳まわり

タオルを雑に１枚
畳んで２枚
課題検討室はなし


畳のズレを確認
床が見えないように設置

車椅子


畳む
両側ブレーキ
両フットサポートは
上げておく

ベッドまわり①

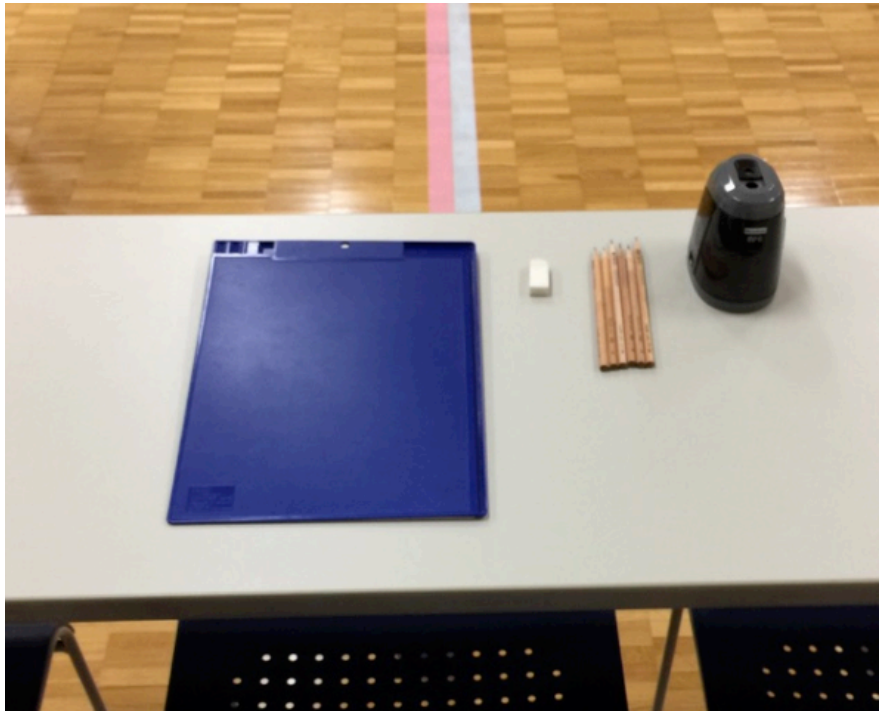
ベッドまわり②

棚

全ての蓋をしめておく

テレビと棚

机の上



▶ 鉛筆６本

削ってください。

▶ 消しゴム１つ

机の上の消しゴムのカス掃除してください。

▶ 課題検討セット（バインダー）

会場進行(閉会式)マニュアル No. 1

第4回東海地区高校生介護技術コンテスト　平成29年8月23日(水)

閉会式式次第		合計	40	分
1	交流会および閉会式開始		1	分
2	パティシエコースの挨拶		5	分
3	交流会		10	分
4	エンドロールムービー		3	分
5	文部科学省初等中等教育局　視学官　講評		3	分
6	審査委員長　講評		3	分
7	結果発表		3	分
8	表彰式		5	分
9	全国福祉高等学校長会東海地区理事　挨拶		2	分
10	記念撮影		5	分

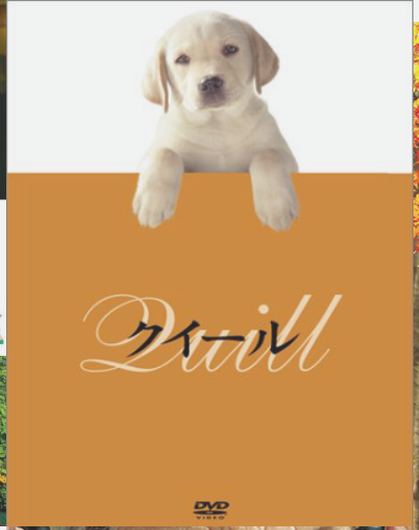
時間	内容	動作/方法/スピーチ	引率教員
14:55	会場アナウンス	「15時00分より、交流会および閉会式を始めます。 参加される方は、指定の席に着席してください。」	
15:00	交流会	「ただいまより、交流会および第4回東海地区高校生 介護技術コンテスト閉会式を始めます。」	
15:01	パテ紹介	「はじめに、本校フードシステム科パティシエコースより 本日のデザートの紹介があります。」 「まずはこちらをご覧ください」 ＊パティシエコース　ムービー・説明等　　←パテにマイク渡す 「ありがとうございました。 それでは、しばらく交流会をお楽しみください。」	
	エンドロールムービー	「交流会の途中ではありますが、本日のコンテストの様子をご覧ください。」 ＊ムービー流す 「ご覧いただき、ありがとうございました。」	
15:16	視学官　講評	「それでは、ただいまより競技のご講評をいただきます。 皆様、一度ご自分の席へお戻りください。 もんぶかがくしょうしょとうちゅうとうきょういくきょくしがくかん　やはばせいじ はじめに、文部科学省初等中等教育局視学官　　様より ご講評いただきます。矢幅様、お願いします。」	

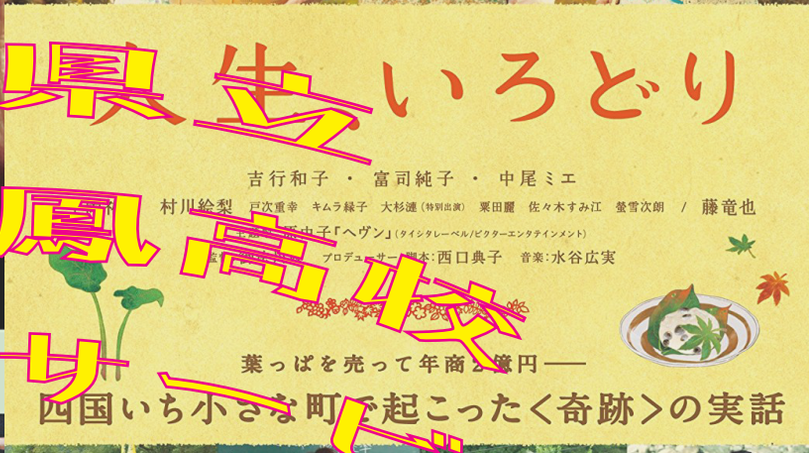
時間	内容	動作/方法/スピーチ	引率教員
		＊　講評 「ありがとうございました。」	
15:19	審査委員長　講評	「続きまして、審査委員長 様よりご講評と結果発表をしていただきます 武田様、お願いします。」 ＊審査委員長　結果発表　講評 「ありがとうございました。」	
15:25	表彰式	「続きまして表彰式を行います。 全国福祉高等学校長会東海地区理事　　様　お願いします。 学校名を呼ばれた選手は、全員返事をして前に出てきてください。」 ＊理事 『最優秀賞　〇〇高等学校　〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん』 『優秀賞　〇〇高等学校　〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん』 『優良賞　〇〇高等学校　〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん　×6』 「ありがとうございました。」	
15:30	挨拶	「引き続きまして、全国福祉高等学校長会東海地区理事　村田武俊様 ご挨拶お願いします。」 ＊　　先生　挨拶 「ありがとうございました。」	
15:33	記念撮影	「以上を持ちまして、交流会および第4回東海地区高校生 介護技術コンテストを終わります。 皆様、お忘れ物がないようにお帰りください。」 「名札はコンテスト会場の外にある回収BOXへお入れください。 また、アンケートのご協力お願いします。 靴袋は玄関にて回収いたします。 本日はありがとうございました。」 「選手の皆さん、引率の先生は記念写真を撮りますので 前に集まってください。」	

平成２９年度　東海地区高校生介護技術コンテスト

･･･県立･･･高等学校　受付表

	名　前	役職 （教員･生徒など）	交流会の 事前申し込み	出席 （〇・×）	交流会 参加費
1		生徒（選手）	有		0
2		生徒（選手）	有		0
3		生徒（選手）	有		0
4		教員（引率）	無		0
5					
6					
7					
8					
9					
10					
		交流会参加費　合計			





三重県立伊賀白鳳高校
シアターサービス
シアター
生徒と見た
DVD紹介

92歳のパリジェンヌ

106分

子どもや孫に恵まれ、穏やかな老後を過ごすマドレーヌ。92歳の誕生日に家族に対して驚くべき発表をする。気力があるうちに、自らの手で人生に幕を下ろすというのだ。反対をする家族たちと、固いマドレーヌの意志。限られた日々を共に過ごす中で、家族たちはマドレーヌの想い、彼女の生きてきた人生と触れ合い・・・。

尊厳死を考えさせられる映画です。見る前にちょっとした予備知識があると、わかりやすいかもしれません。観終わった後に、テーマトークなどしてみては？3年生の後半にオススメです。
＊字幕のみで、吹き替えはありません。

My sister’s keeper

110分

白血病の姉・ケイトを救うために、ドナーとして“創られて”生まれてきた。ケイトに生きて欲しい―その想いは、家族みんな同じだと疑わなかった母・サラは、ある日信じられない知らせを受ける。「もう、姉のために手術を受けるのは嫌。自分の体は、自分で守りたい」とアナが両親を訴えたのだ。アナは突然大好きな姉を救うことをやめる決意をしたのか?
その決断の裏には・・・。

「私がケイトだったら・・・」 アナだったら・・サラだったら・・
それぞれの登場人物になって考えた時、自分だったらどうするだろう・・・と考えさせられる映画。
難しい言葉も出てこないので、１年生からでも見れます。

あしたをつかめ 平成若者仕事図鑑
ケアマネジャー　人生を支えたい

24分

介護が必要なお年寄りのケアプランを考えるケアマネジャー。ケアマネジャーになって 2 年目の男性が、「東京のひ孫に会いに行きたい」と願うお年寄りのために奔走する姿を追う内容の DVD。

ケアマネジャーの仕事がどんな仕事かを知るのに、ぴったりな DVD。
なかなか、ふれあう機会のないケアマネジャーの姿を覗いてみましょう。

あしたをつかめ 平成若者仕事図鑑
介護職員 お年寄りの力を引き出したい

24分

介護職員の起床、着替え、食事、入浴などの介助のほか、自立支援のためのサポートや介護記録の作成なども行います。介護職員の目標は、一人一人のお年寄りに合わせた介護をすること。お年寄りがその人らしくいきいきと暮らせるように、本人がもっている力をみきわめ、それを引き出そうと奮闘する姿の DVD。

利用者に寄り添う大切さや他職種連携の視点がステキです。
介護を勉強する前に観ると、「介護ってこんなことするんだな」「こんな視点が大事なんだな」と学ぶことができそうです。

あしたをつかめ 平成若者仕事図鑑
保育士 私は子育てのパートナー

24分

女子高生の人気職種の1つ保育士。新米保育士に密着し、重い責任とハードな仕事の日々。しかし、子どもの成長を身近で感じられる喜びを得られる仕事内容を紹介している DVD。

働きはじめて2年目の保育士さんが、一人ひとりの子どもの気持ちを汲み取っていく姿が、印象に残ります。保育士に限らず、「仕事のやりがい」ってなんだろうと考えさせられます。

あしたをつかめ 平成若者仕事図鑑
幼稚園教諭 みんな大好き

24分

女の子の「なりたい職業ランキング」で上位に入る幼稚園の先生。3 歳から小学校就学前の幼児に社会生活の基本的態度や言葉遣いなどを教える。川崎市の川崎愛さんのクラス、卒園式までの 1 週間をどう過ごし、何を伝えたのか。幼稚園教諭の難しさと喜びの DVD。

「卒園式の二時間、じっと座ってられるのかなぁ・・・」卒園間近の子どもたちとの関わりの中から「教育職」の難しさと喜びが伝わります。保育士版とともに見て、仕事への想いを考えてほしい。

くちづけ

123分

知的障害者たちの自立支援のためのグループホームに。いっぽんは娘マコを連れてひまわり荘に身を寄せる。みんなで力を合わせて暮らすひまわり荘での毎日は幸せな日々。そんな中で、ひまわり荘の経営難をはじめ厳しい運命が・・・・。

「助ける」ことより、「助けてもらう」ことの方が、はるかに大変。ひとりで頑張って、頑張って、あまり無理するなよという時に、オススメです。3年生後半のちょっと休憩に・・・。

聲の形

129分

ガキ大将だった小学 6 年生の石田将也は、転校生の西宮硝子へ好奇心を持つ。
自分の想いを伝えられないふたりはすれ違ったまま、硝子は転校してしまう。時が経ち、別々の場所で高校生へと成長したふたり。再会したふたりは、同級生たちに会いに行き、止まってた何かが少しずつ動きだし、ふたりの世界は‥‥。

専門用語はあまり出てきませんが、手話を全く知らないと話がつながりにくいかもしれません。
また、いじめメインのストーリーのため、人間関係がギクシャクしているクラスだと、捉え方が難しいかもしれません。

パーソナルソング

78分

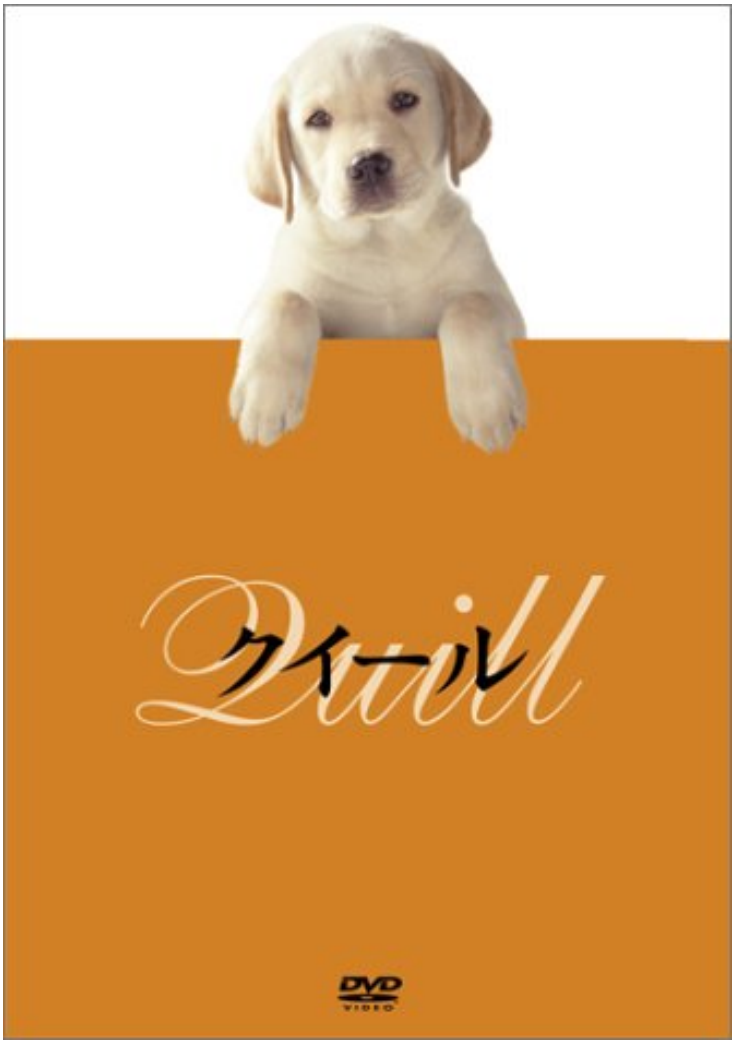
音楽を聴いただけで、驚くほどの変化を見せる高齢者。介護施設で暮らす高齢者は時として、自分の存在意義を見失い、孤独な暮らしをしている。介護をする人たちも、希望を見いだせずに心身を擦り減らす。そんな現実を音楽のチカラで認知症患者の心の目を覚まし、人生の喜びと、人との繋がりと、活力が湧き上がる。

認知症だとか、介護施設がとかあまり関係なく・・・。
「音楽ってステキ」感が強いです。あくまで、関わり方の1つとしてこんな切り口もあるよっていうぐらいのものです。

クイール

100分

生まれて間もない子犬のクイールは、すぐに親元を離れてパピーウォーカーのもとで 1 年間育てられ、そして盲導犬となるべく訓練センターでの生活の後、盲導犬を拒否していた渡辺にクイールのパートナーに決まったが……　実話をもとに、1 匹の盲導犬の生涯を描いた映画。



伊賀白鳳高校のヒューマンサービス科では入門 DVD 的な存在。
盲導犬のお話ですが、障がい者の自立支援的な要素も強いです。福祉ってなんかよくわからない・・・そんな生徒でもかわいいクイールに興味津々です。

プロフェッショナル　仕事の流儀
介護福祉士

47分

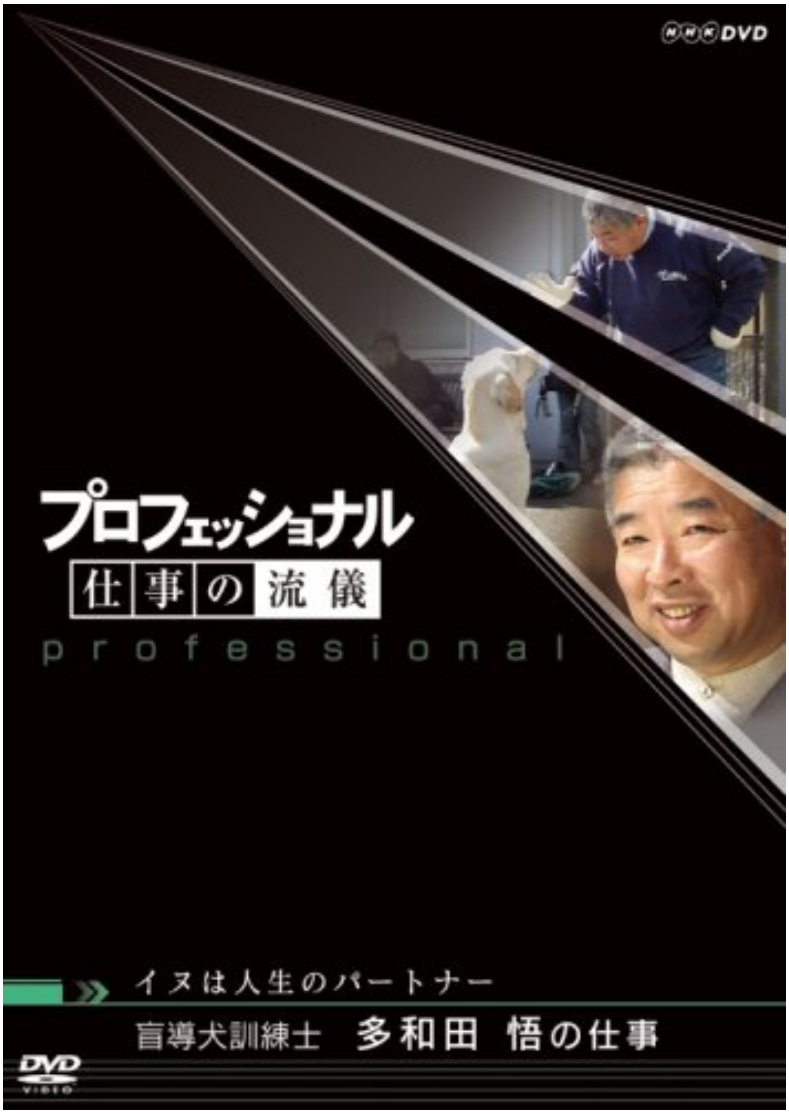
介護次第で、自分のことは自分でするという「ふつうの暮らし」ができる。症状や能力を把握しながら、その人にあった介護を見極めようとする姿を追う DVD。

認知症の授業でもオススメです。実習後に、改めて施設を客観的に見てみる機会に。現場はドラマに溢れているけど、くじけないで！・・・感じて、考えて、自分の介護職像を築いてほしい。

プロフェッショナル　仕事の流儀
盲導犬訓練士

47分

「犬語を話す」という多和田の手にかかれば、どんな犬も素直に従う。訓練士学校の学生とともに、視覚障害者に盲導犬を引き合わせる「共同訓練」の DVD。



「クイール」を観た後にオススメです。１年生か２年生向けだと思います。

明日の記憶

１２２分

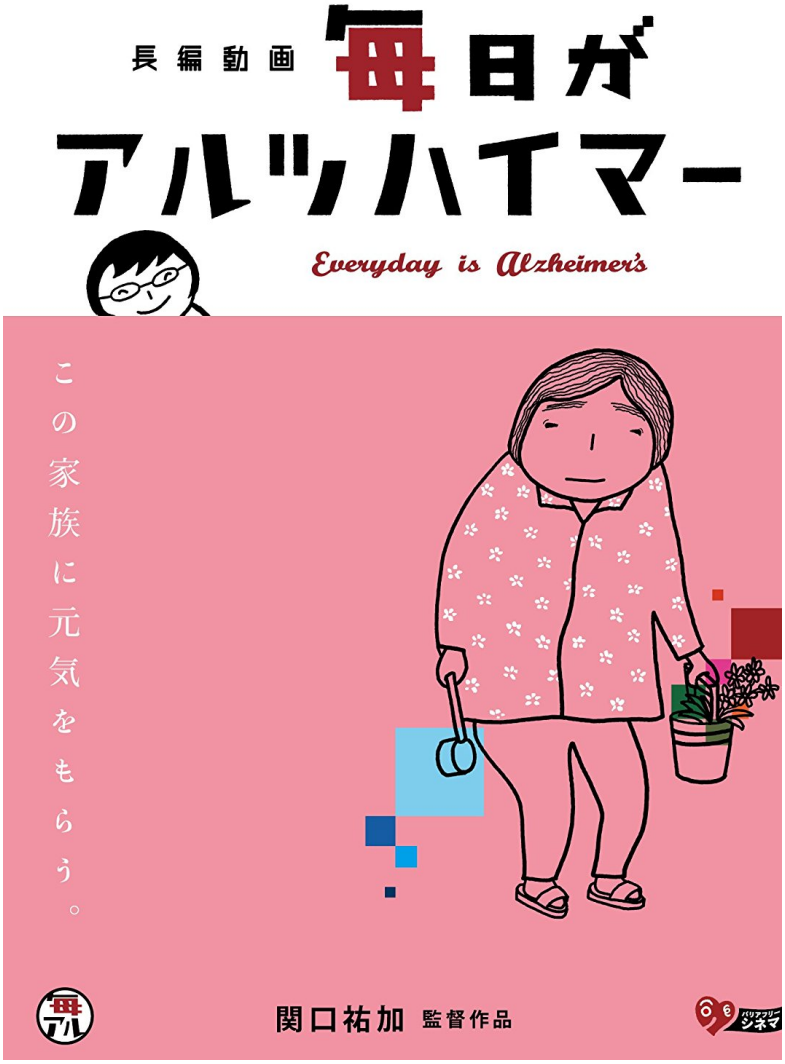
若年性アルツハイマー病に襲われた働き盛りのサラリーマンの主人公と、夫を支える妻の姿を描いたドラマ。

「生きてりゃいいんだ、生きてりゃ」
認知症を支える家族の姿について、考えるきっかけとなるのではないでしょうか。

毎日がアルツハイマー

93分

関口監督が認知症と診断された母と向き合い、撮り続けた「長編動画」です。29 年間離れて暮らした母と娘。母のアルツハイマーが監督を日本に呼び戻し、感情豊かな母と「毎日がアルツハイマー」な生活は、泣き、笑い、時にせつなく・・・・。

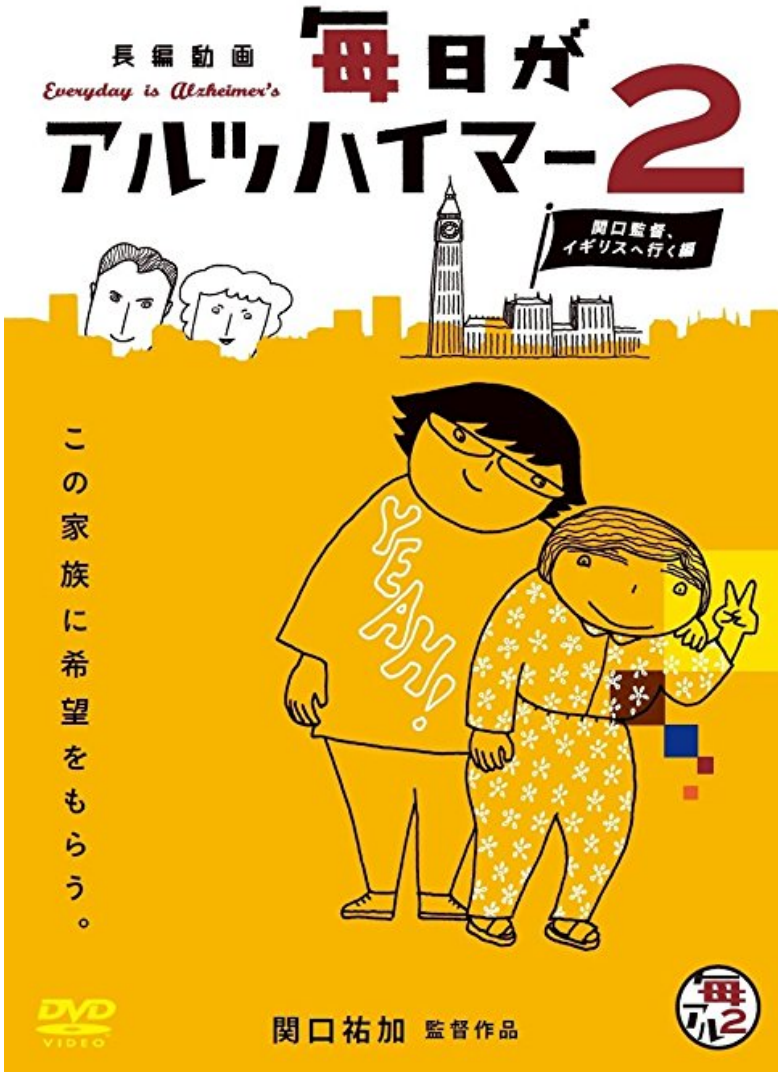


リアルなドキュメンタリーなので、正直全部を見せるとなると辛くなるかもしれません。
認知症の症状や生活模様、日常生活の部分だけを切り抜いて見せる方がいいかも・・・。

毎日がアルツハイマー2

51分

関口家の抱腹絶倒の介護生活を描いた「毎日がアルツハイマー」続編。母・ひろこさんの閉じこもり生活に少しずつ変化が現れ、デイ・サービスに通えるようになり、あんなに嫌がっていた洗髪をし、外出もする。「パーソン・センタード・ケア」に出会い「パーソン・センタード・ケア」が教えてくれる認知症ケアにとって本当に大切なこととは・・・。



在宅での暮らしを知る、適切な受け答えや声かけなどを考えるために使う分にはアリかも。
実習で認知症の方への声かけに迷ってしまう・・・という頃にオススメです。

ベイビーズ

110分

命、あふれる。成長のドキュメンタリー。2009年4月に、この世に誕生した4人の赤ちゃん。アメリカ、ナミビア、モンゴル、日本。同じ時代に生まれ、全く違う環境で育つ彼らは、それぞれどのように成長していくのだろうか。本作は、世界各国の赤ちゃんたちが、誕生してから初めの一歩を踏み出すまでの 1 年間をじっくりと撮り続けたドキュメンタリーです。

服を着ない文化の子育てをはじめ、世界各国の子育てのリアルがいっぱい！1つの価値観に縛られず、世界観を広げることができるのでは？

ベトナムの風に吹かれて

114分

ベトナム・ハノイで日本語教師として働く主人公の元に、父の訃報が飛び込んできた。
故郷・新潟で目の当たりにしたのは、認知症を煩い、父の死さえ理解していない母。母の血縁者は自分一人。そんな主人公は、ベトナムに母を連れていく決意をする。
認知症の母と向き合い、支えてくれるベトナムの人々との心あたたまる交流を通してベトナムでの生活を描くドラマ。

日本の介護の当たり前が、ベトナムでは当たり前じゃない・・・。介護のカタチって自由だなと思わせてくれる映画。認知症を勉強したあとに、こんな介護もステキだよねって伝えたい。

ペイ・フォワード

124分

11 歳の主人公は、社会科の授業中、先生から「もし君たちが世界を変えたいと思ったら、何をする?」と問い掛けられ、あるアイデアを思いつく。それがタイトルの「ペイ・フォワード」。他人から受けた厚意をその人に返すのではなく、まわりにいる別の人へと贈っていく…というアイデア。そのアイデアが広がり・・・・

小さな「こと」でも、やがて大きなうねりに・・・
「私たちでも“何か”できる」そんな想いの芽が出るといいなと思います。

人生いろどり

147分

四国で最も人口が少なく、高齢化の進んだ町は、典型的な過疎地だった。ひとりの農協職員が、山で採れる葉っぱを料理の<つまもの>として販売することを発案。結果、年商 2 億円以上を稼ぎだすビッグビジネスに成長。町はうるおいを取り戻し、人口増加へ。実話から生まれた物語。

歳とっても、元気なんです！ やりがい持って働くと元気なんです！
働くことの意義って何か教えてくれますよ。

最強のふたり

113分

大富豪と、スラムの黒人青年の友情を描いたヒューマンコメディ。事故で首から下が麻痺した大富豪のフィリップは、自身の介護者選びの面接で無職の黒人青年・ドリスに出会い・・・。

同情ならいらない！　友情ってなんだろう・・そんなことを考えません？
人と人との出会い、つながりを、大切にしていきたいですね。